

## 第3章 調査結果の分析



# 1 定住性

- 
- (1) 居住地域の評価
  - (2) 居住地域評価の経年比較
  - (3) 地域の暮らしやすさ
  - (4) 特に暮らしにくいと感じること
  - (5) 定住意向
-



# 1 定住性

## (1) 居住地域の評価

■ 〈 普段の買い物が便利である 〉と感じている人は7割台半ば

問1 あなたは、お住まいの地域について、どのように感じていますか  
 (〇はそれぞれ1つずつ)。

図1-1-1-① 経年比較／居住地域の評価

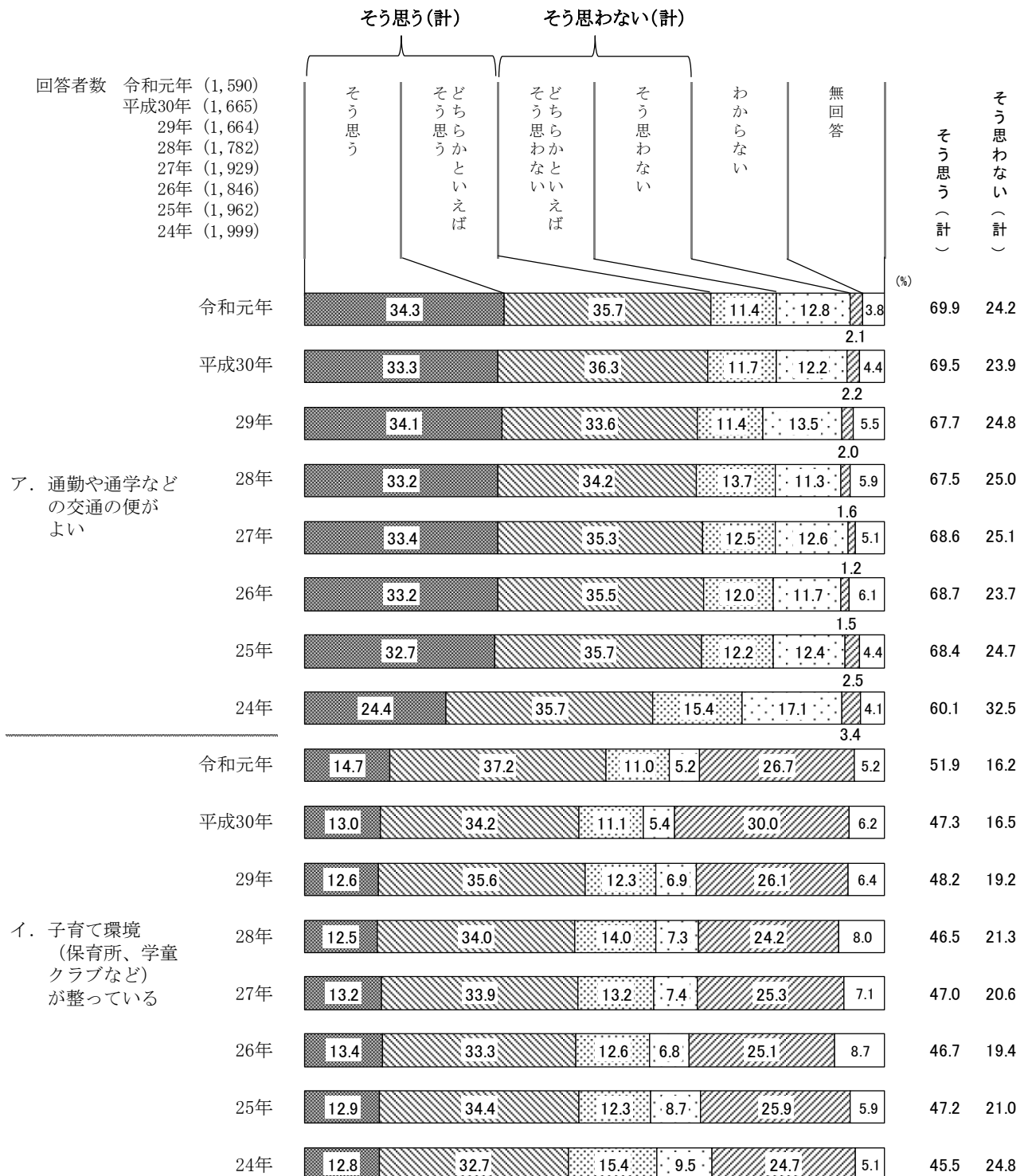


図1-1-1-② 経年比較／居住地の評価

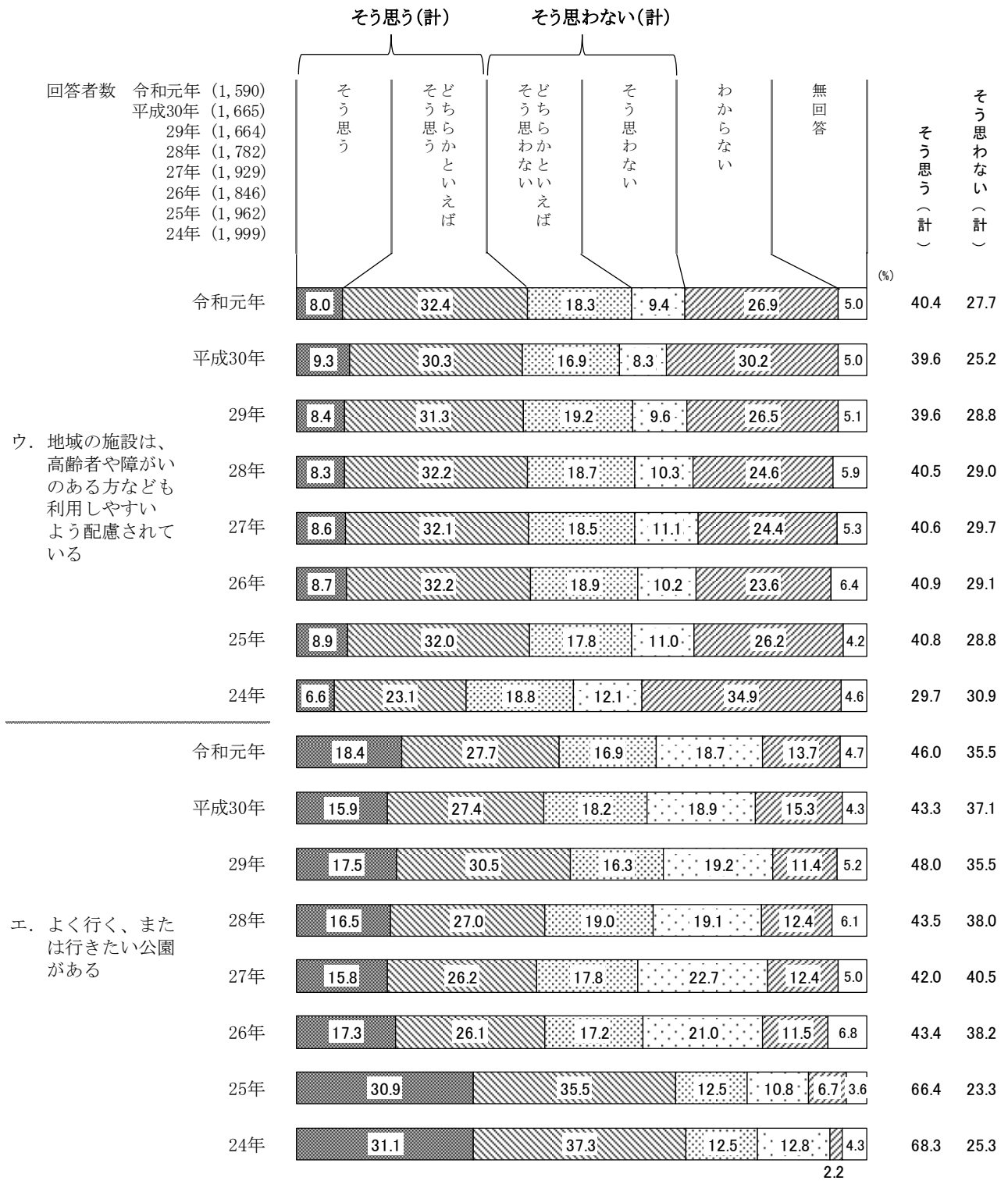


図1-1-1-③ 経年比較／居住地域の評価

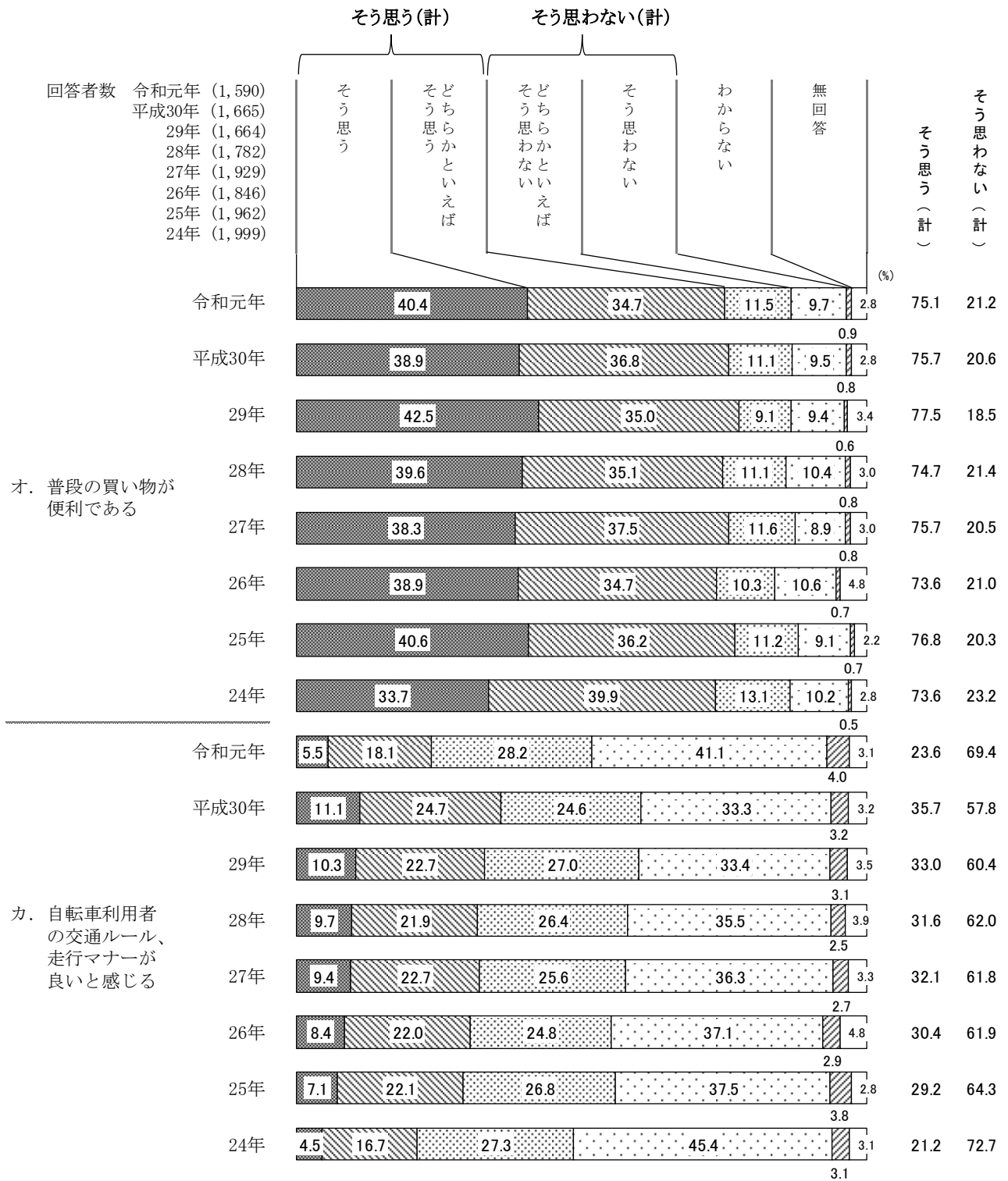
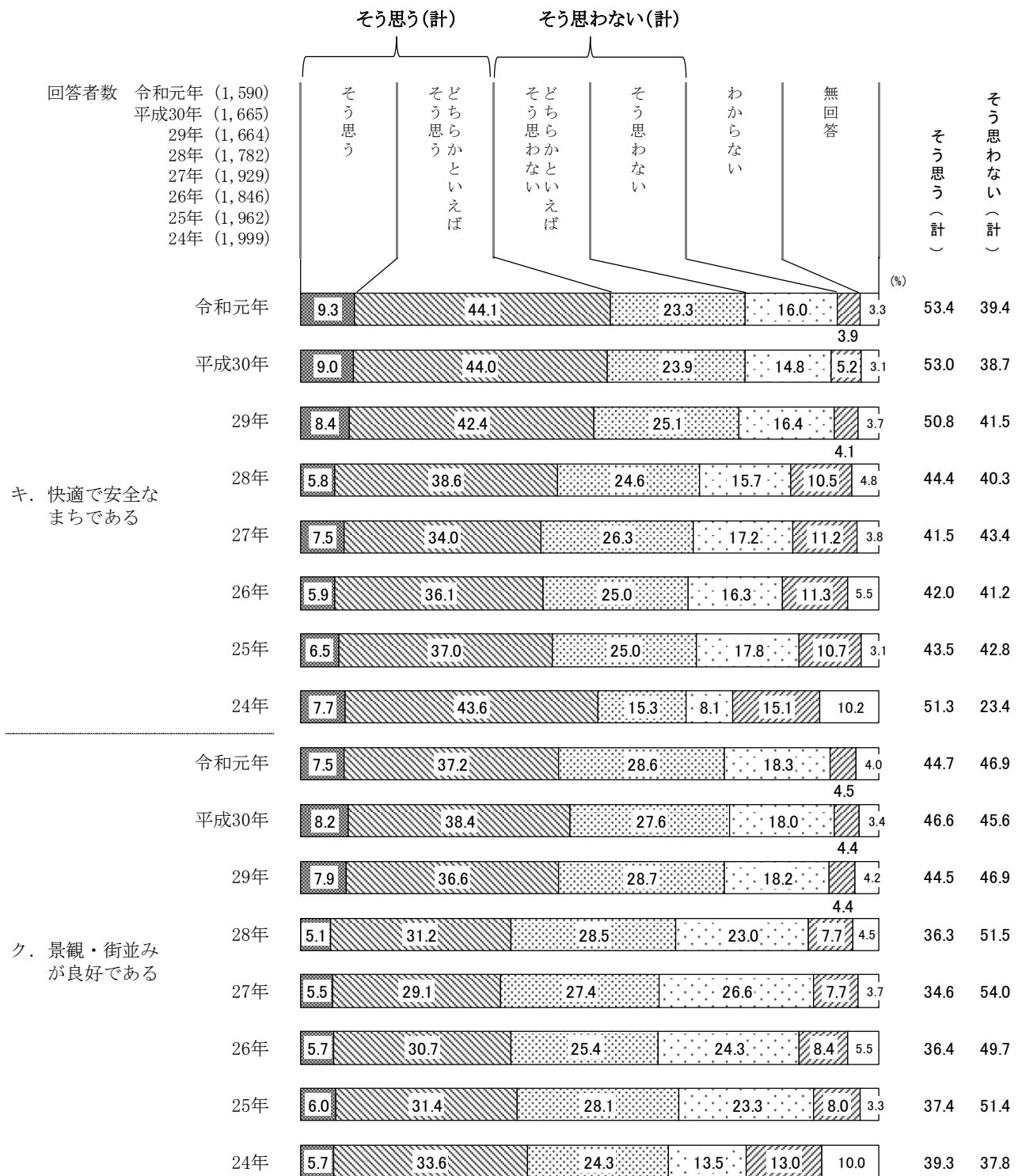


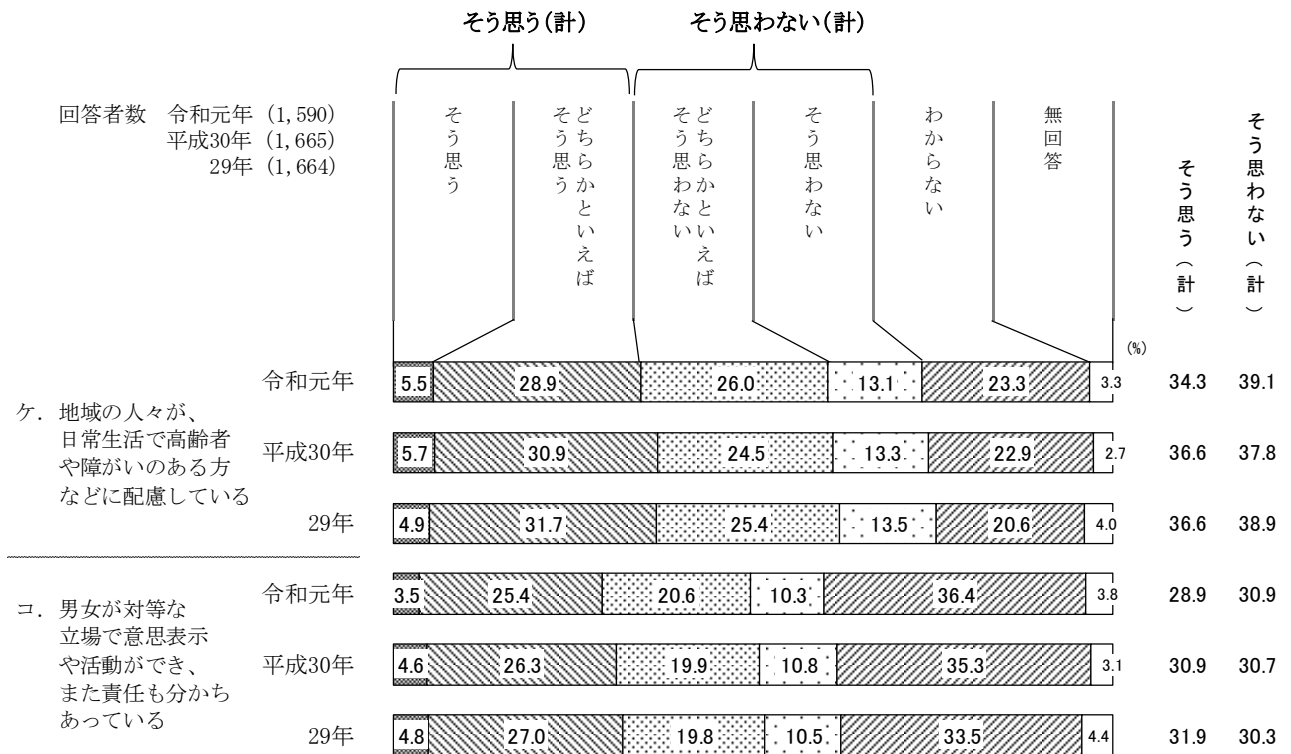
図1-1-1-④ 経年比較／居住地の評価



※ ウは、平成24年度「高齢者や障がいのある方も施設が利用しやすい」から表現をかえた。  
 ※ エは、平成25年度「利用しやすい公園がある」から表現をかえた。  
 ※ カは、令和元年度「自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている」から表現をかえた。  
 ※ キは、平成28年度「快適で安全なまちづくりが進められている」から表現をかえた。  
 ※ クは、平成28年度「景観・街並みが魅力的になってきている」から表現をかえた。



図1-1-1-⑤ 経年比較／居住地域の評価



住んでいる地域について感じていることを、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】の高い順でみると、〈普段の買い物が便利である〉が75.1%で最も高く、以下〈通勤や通学などの交通の便がよい〉69.9%、〈快適で安全なまちである〉53.4%の順となっている。

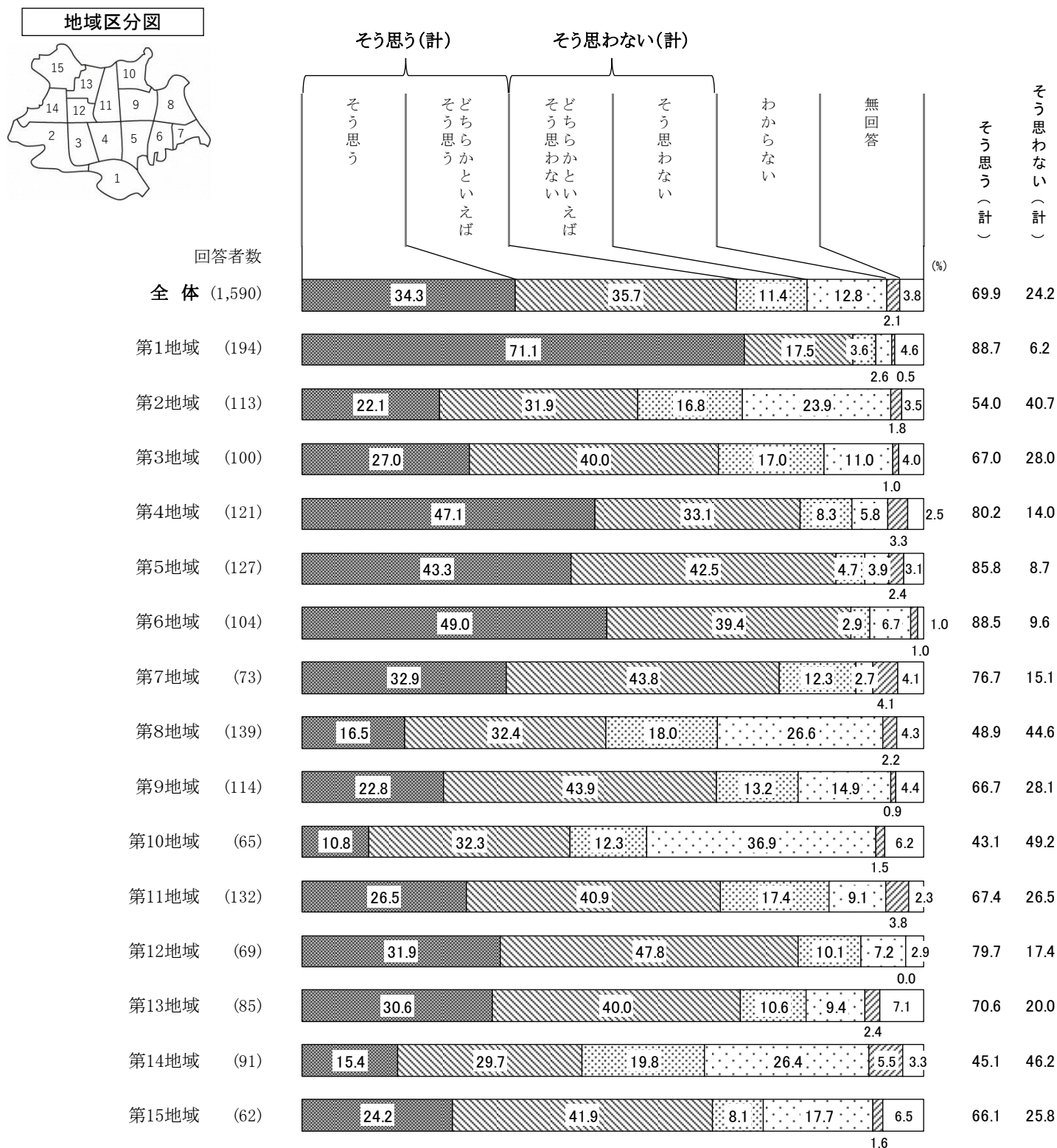
経年で比較すると、今回の調査では、10項目のうち5項目で【そう思う】が平成30年調査に比べて増加するものの、同数の5項目で【そう思う】が減少しており、中でも、令和元年調査において、これまでの〈自転車、歩行者は交通ルール、交通マナーをよく守っている〉から〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉に表現を変えた項目で【そう思う】が平成30年の35.7%から今回23.6%と大きく減少している。

第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

次に、各項目について、地域別でみた。

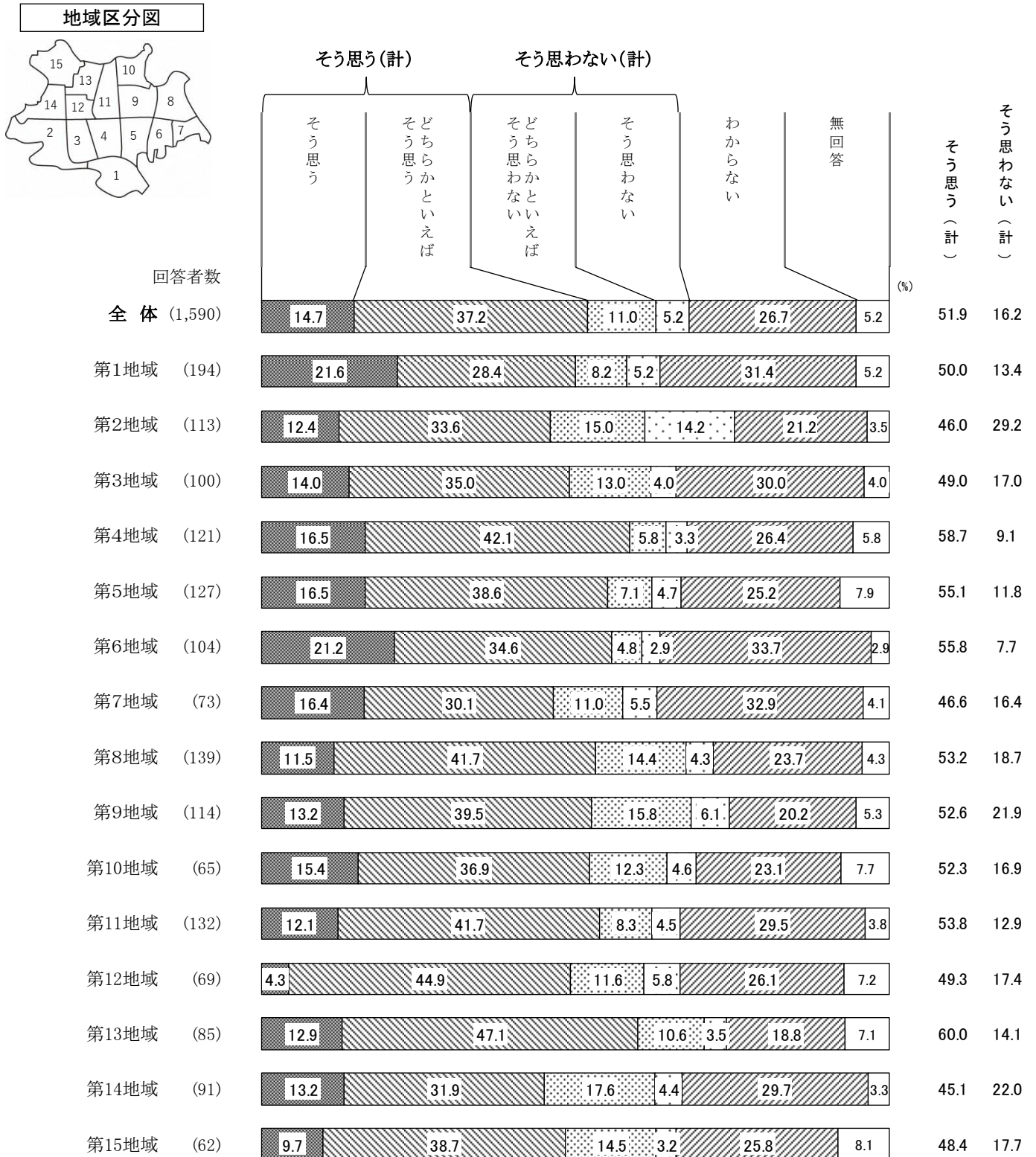
〈通勤や通学などの交通の便がよい〉について、【そう思う】は第1地域が88.7%と最も高く、次いで第6地域が88.5%となっている。一方、【そう思わない】は第10地域で49.2%と高く、これに第14地域が46.2%で次いでいる。

図1-1-2-① 地域別／居住地域の評価／通勤や通学などの交通の便がよい



〈子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている〉について、【**そう思う**】は第13地域で60.0%と最も高く、次いで第4地域が58.7%となっている。一方、【**そう思わない**】は第2地域で29.2%と最も高く、第14地域と第9地域でも2割を超えて高くなっている。

図1-1-2-② 地域別／居住地域の評価／子育て環境（保育所、学童クラブなど）が整っている

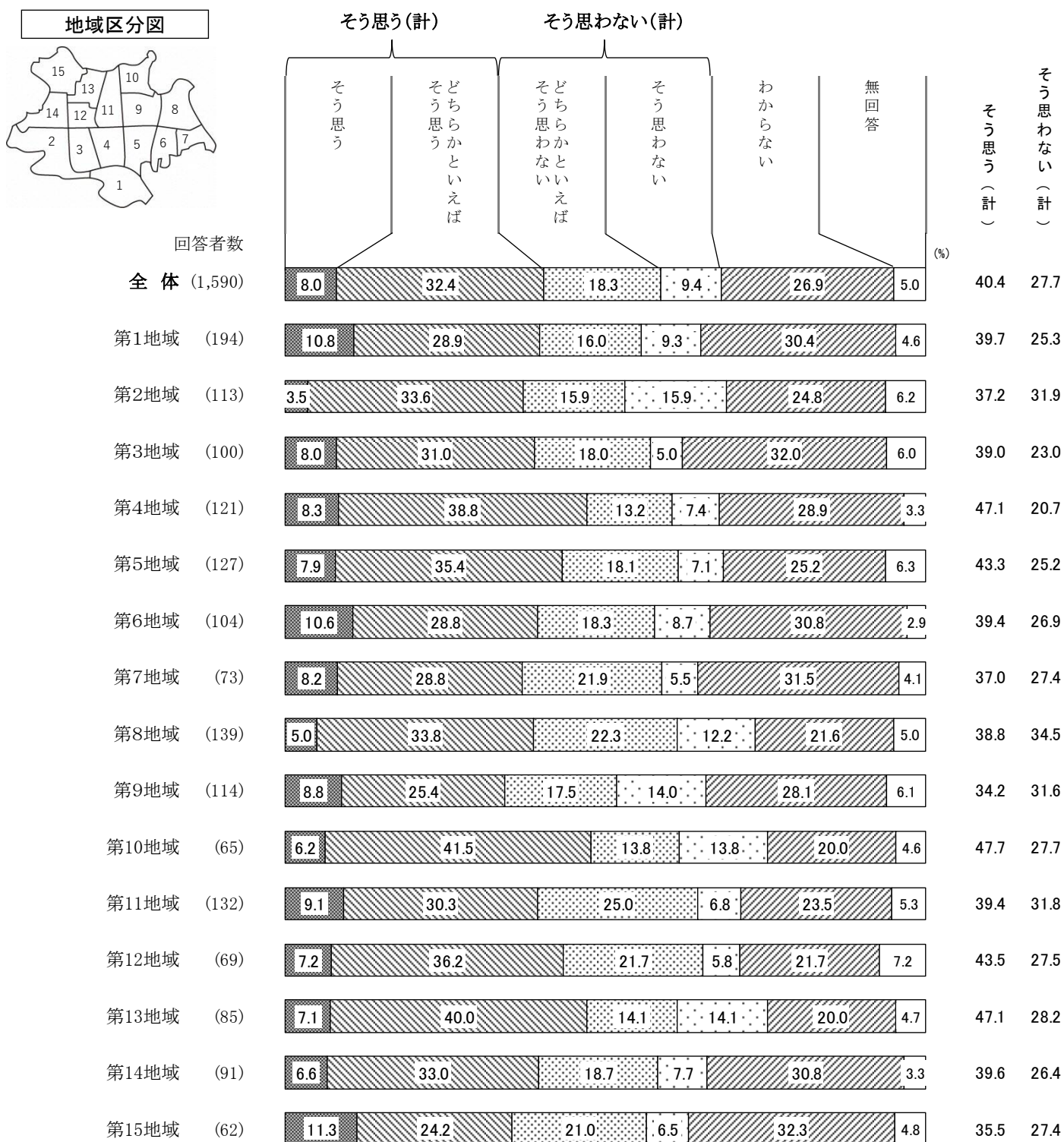


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている〉について、【**そう思う**】は第10地域が47.7%で最も高く、これに第4地域と第13地域が各47.1%の僅差で続いている。一方、【**そう思わない**】は第8地域で34.5%と最も高くなっている。

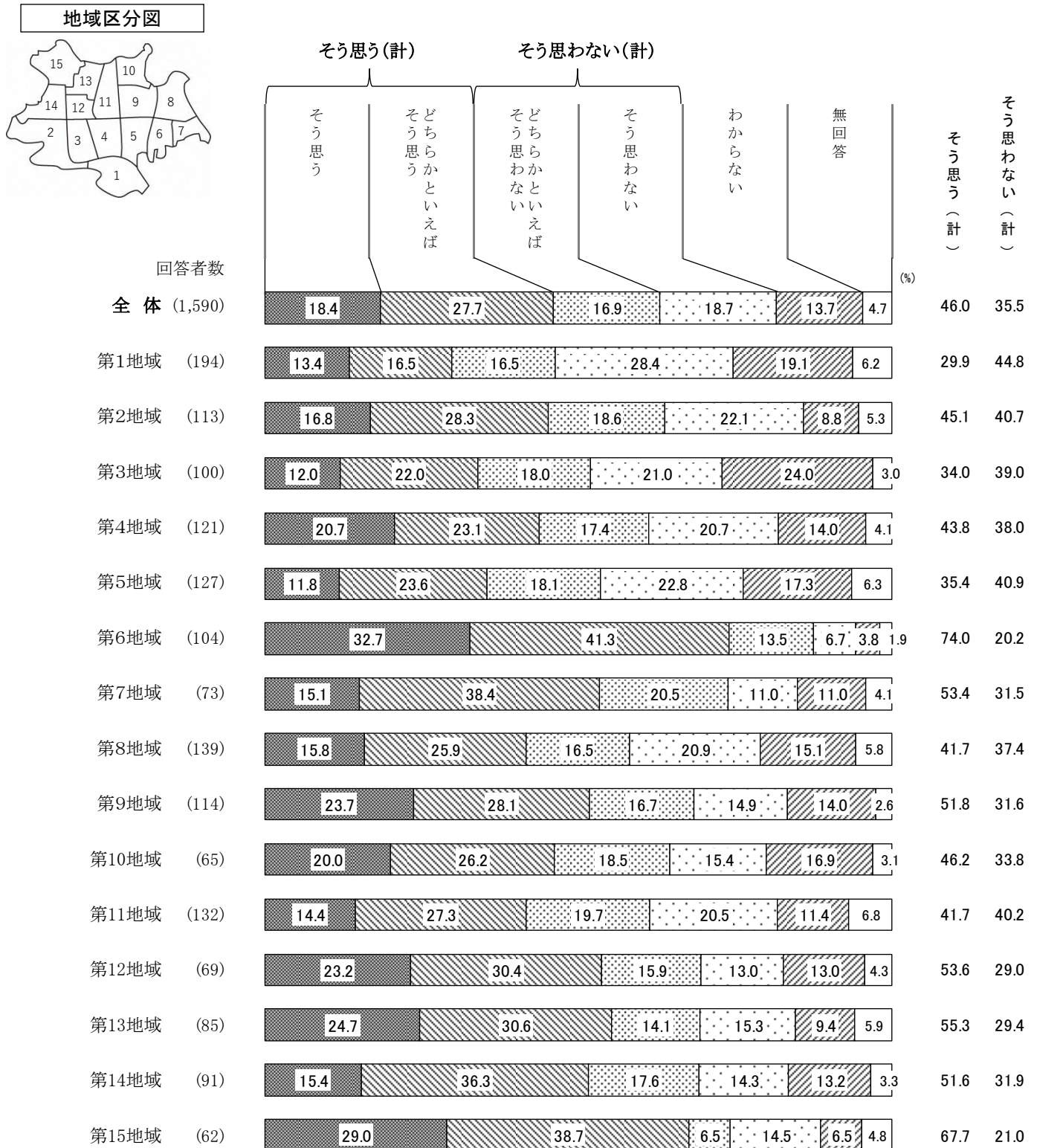
図1-1-2-③ 地域別／居住地域の評価

／地域の施設は、高齢者や障がいのある方なども利用しやすいよう配慮されている



〈よく行く、または行きたい公園がある〉について、【**そう思う**】は第6地域で74.0%と最も高く、次いで第15地域で67.7%となっている。一方、【**そう思わない**】は第1地域で44.8%と最も高く、第2地域、第5地域、第11地域でも4割を超えて高くなっている。

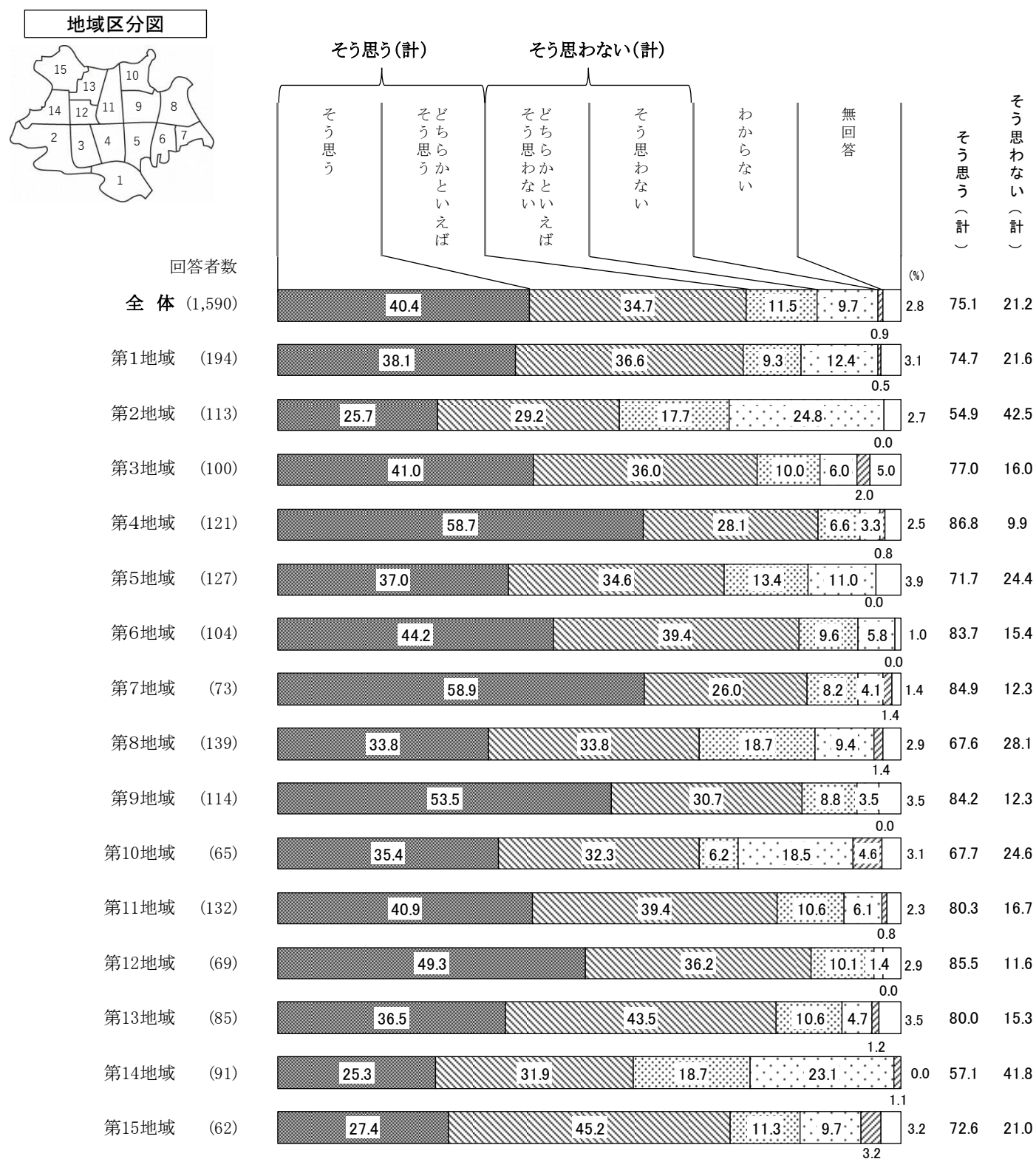
図1-1-2-④ 地域別／居住地域の評価／よく行く、または行きたい公園がある



第3章 調査結果の分析〈 定住性 〉

〈 普段の買い物が便利である 〉について、【 そう思う 】は第4地域が86.8%で最も高く、これに第12地域が85.5%で続き、以下、第6地域、第7地域、第9地域も各8割台半ばと高くなっている。一方、【 そう思わない 】は第2地域で42.5%と最も高く、次いで第14地域が41.8%となっている。

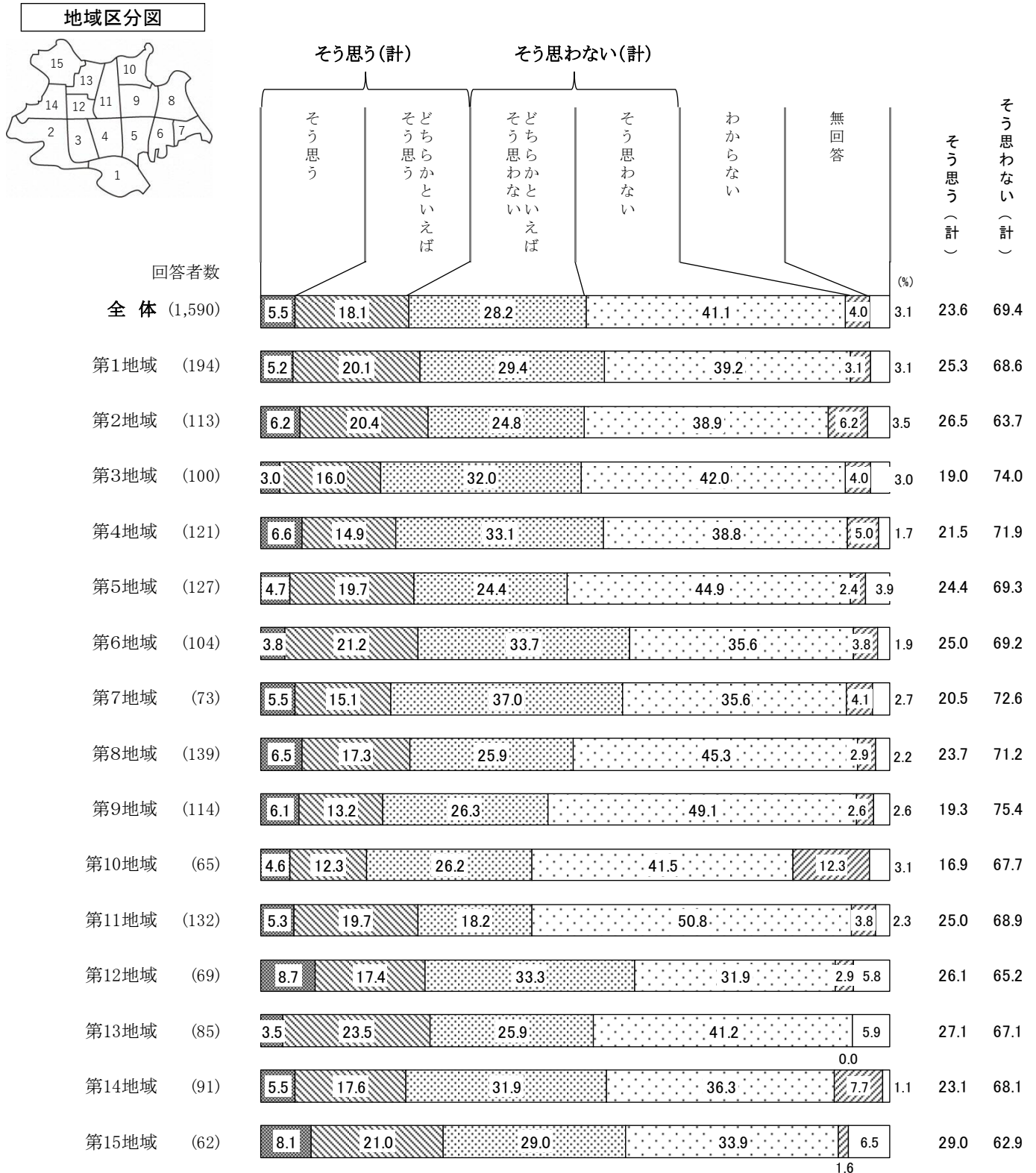
図1-1-2-⑤ 地域別／居住地域の評価／普段の買い物が便利である



〈自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる〉について、【**そう思う**】は第15地域で29.0%と最も高く、次いで第13地域が27.1%となっている。一方、【**そう思わない**】は第9地域で75.4%と最も高く、次いで第3地域が74.0%で続くが、第4地域、第7地域、第8地域でも7割を超えて高くなっている。

図1-1-2-⑥ 地域別／居住地域の評価

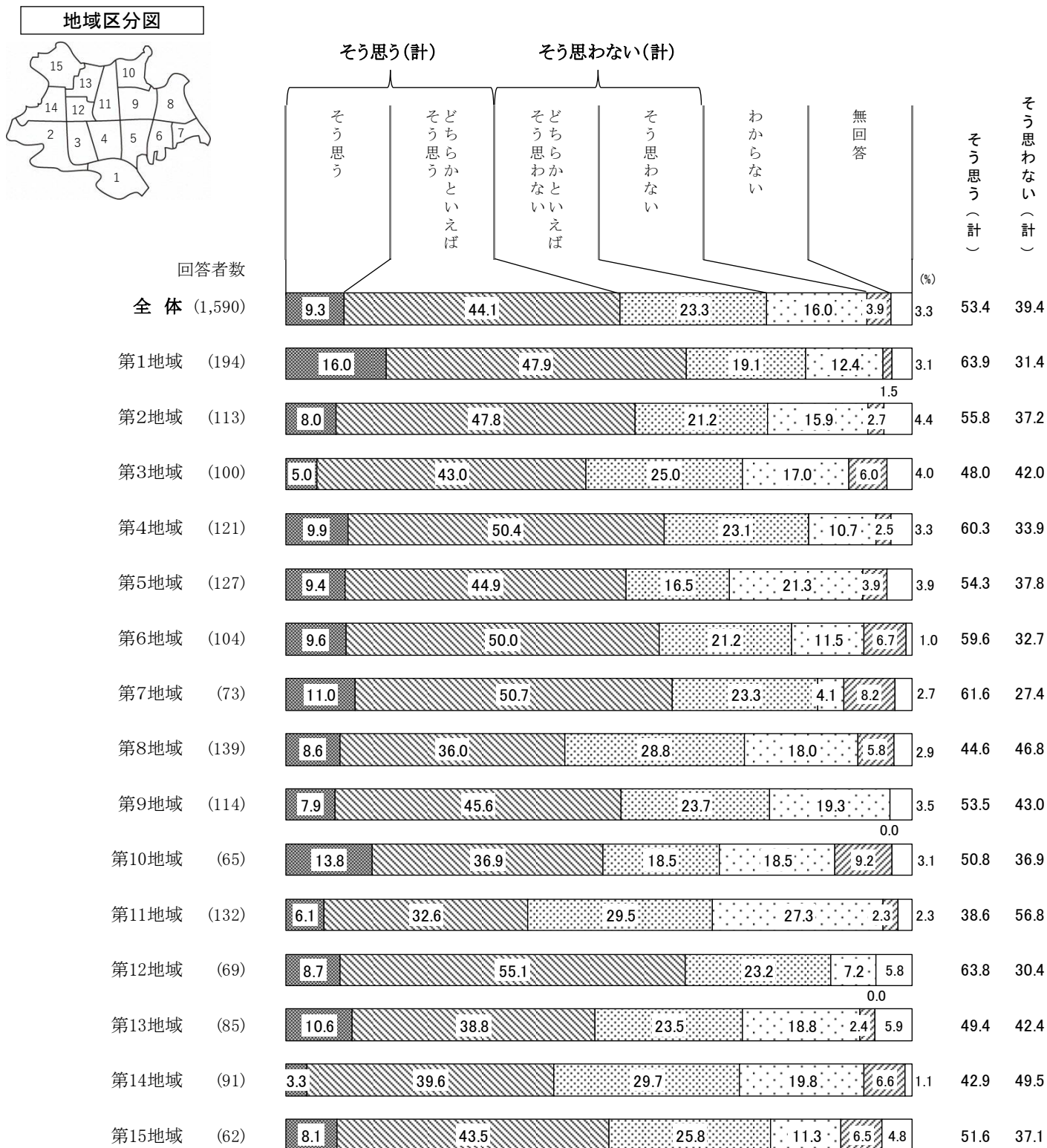
／自転車利用者の交通ルール、走行マナーが良いと感じる



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈快適で安全なまちである〉について、【**そう思う**】は第1地域で63.9%と最も高く、次いで第12地域が僅差の63.8%で続くほか、第4地域と第7地域でも6割台と高くなっている。一方、【**そう思わない**】は第11地域で56.8%と最も高く、次いで第14地域が49.5%で高くなっている。

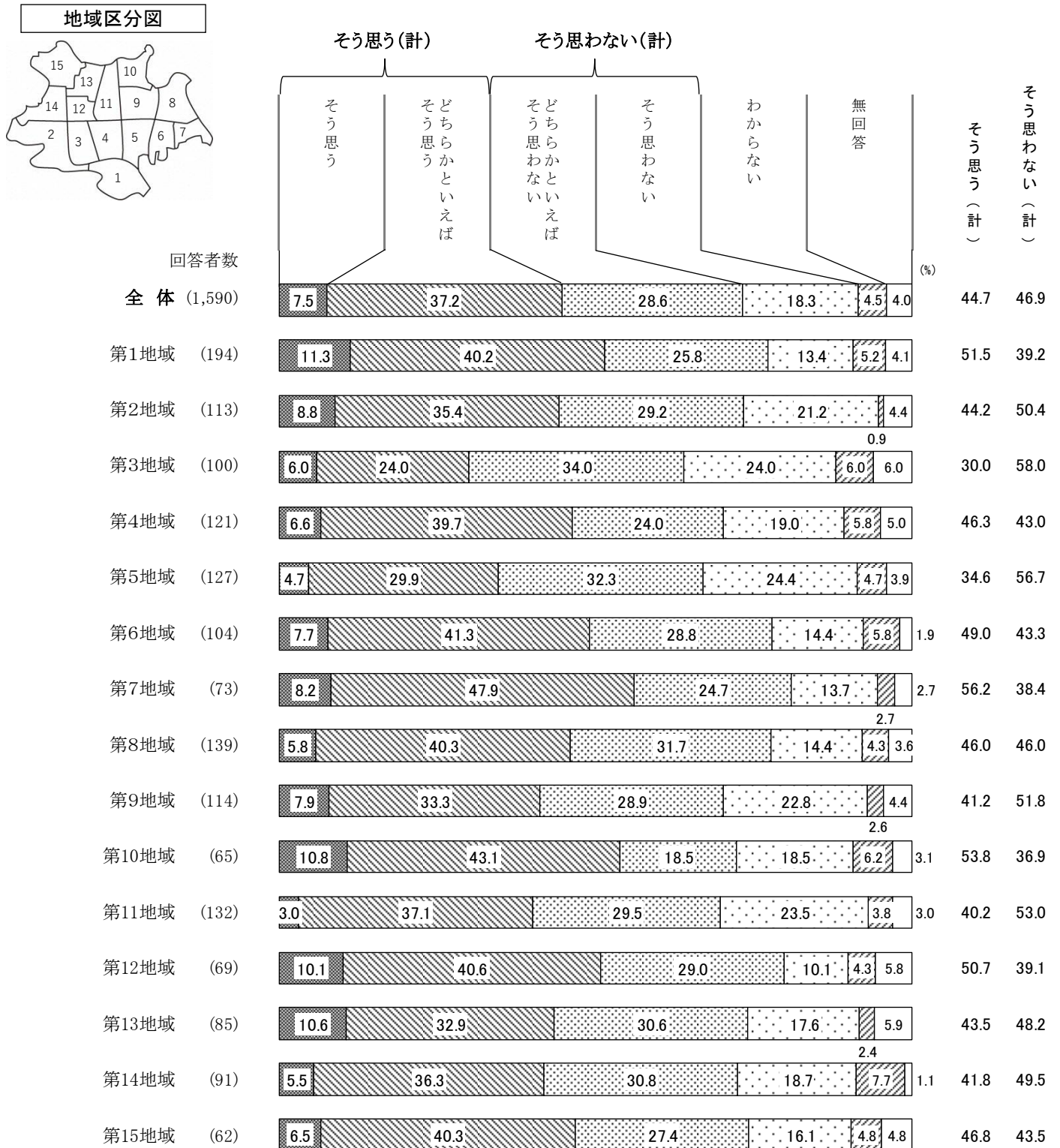
図1-1-2-⑦ 地域別／居住地域の評価／快適で安全なまちである





〈景観・街並みが良好である〉について、【**そう思う**】は第7地域で56.2%と最も高く、次いで第10地域が53.8%となっている。一方、【**そう思わない**】は第3地域で58.0%と最も高く、次いで第5地域で56.7%となっている。

図1-1-2-⑧ 地域別／居住地域の評価／景観・街並みが良好である

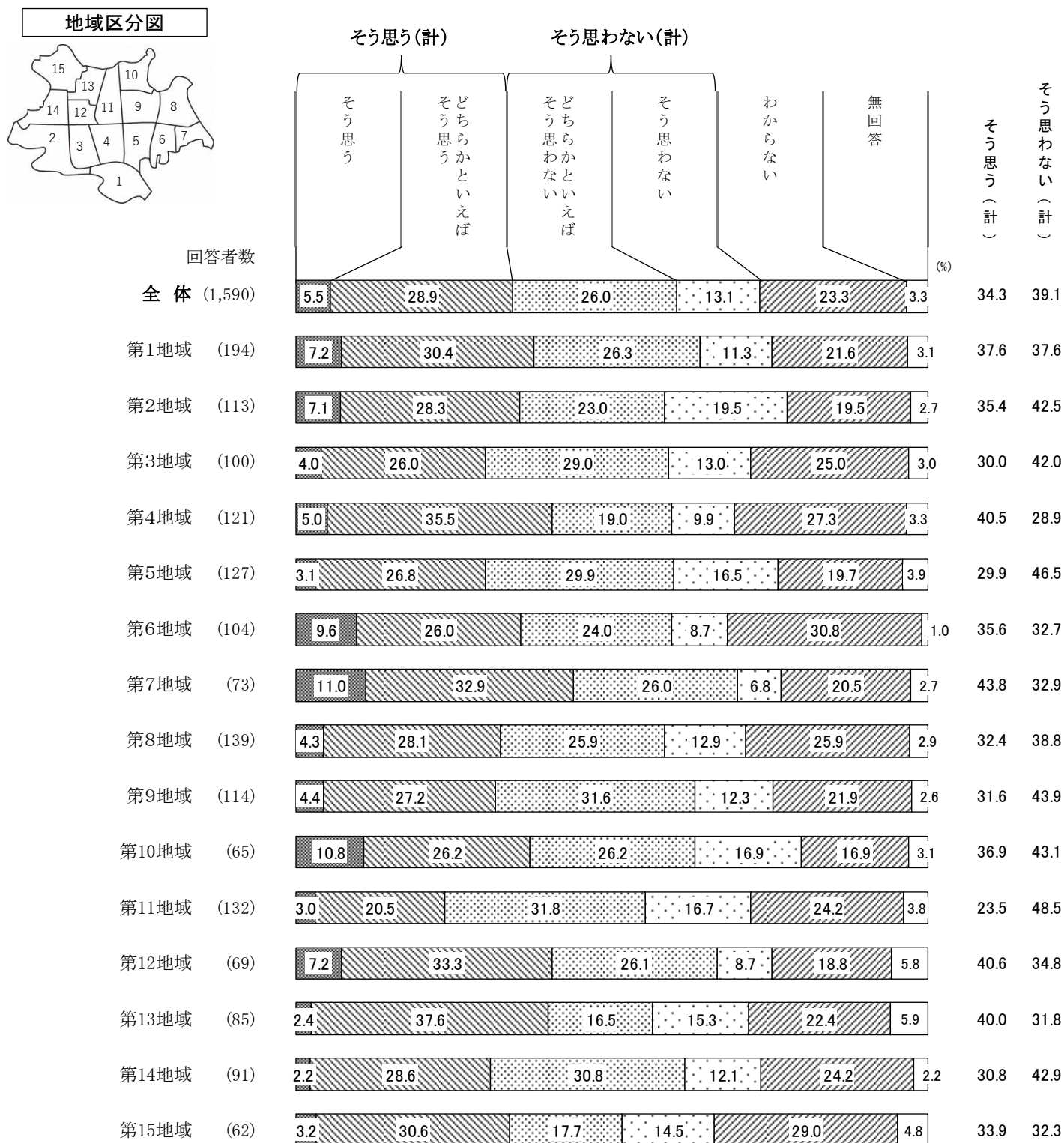


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している〉について、【そう思う】は第7地域が43.8%と最も高く、これに第4地域、第12地域、第13地域が4割台が続いている。一方、【そう思わない】は第11地域で48.5%と最も高く、第5地域が46.5%で続いている。

図1-1-2-⑨ 地域別／居住地域の評価

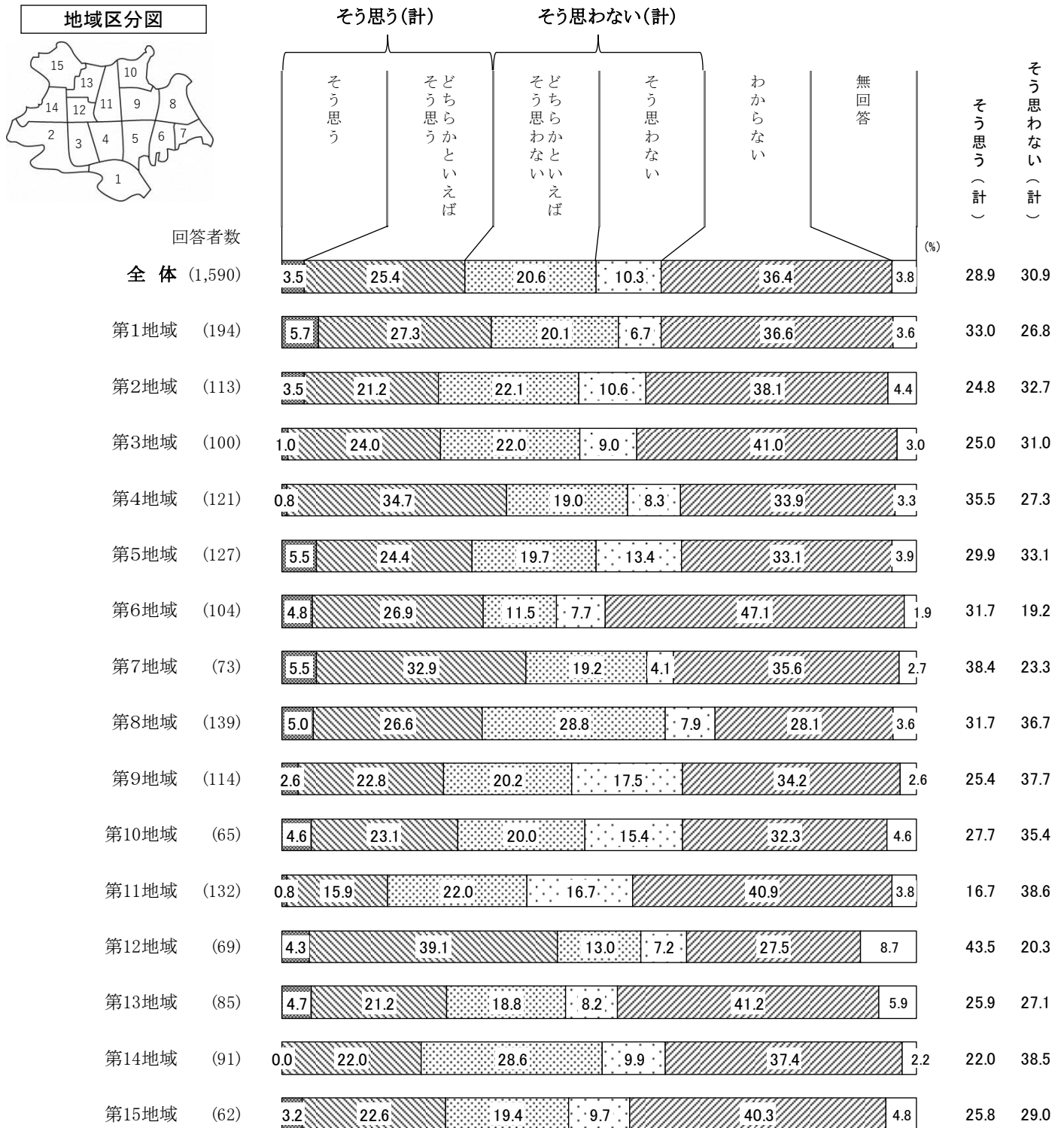
／地域の人々が、日常生活で高齢者や障がいのある方などに配慮している



〈男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている〉について、【**そう思う**】は第12地域で43.5%と最も高く、第7地域が38.4%が続いている。一方、【**そう思わない**】は第11地域で38.6%と最も高く、次いで第14地域が僅差の38.5%が続いている。

図1-1-2-⑩ 地域別／居住地域の評価

／男女が対等な立場で意思表示や活動ができ、また責任も分かちあっている



(2) 居住地域評価の経年比較

■ 〈ごみやタバコのポイ捨て〉及び〈ペットのふん〉で【減っている】がともに5割前後

問2 あなたのお住まいの地域についてうかがいます。以下のア～エの項目について、現在は以前と比べてどのように感じていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

図1-2-1-① 経年比較／居住地域評価

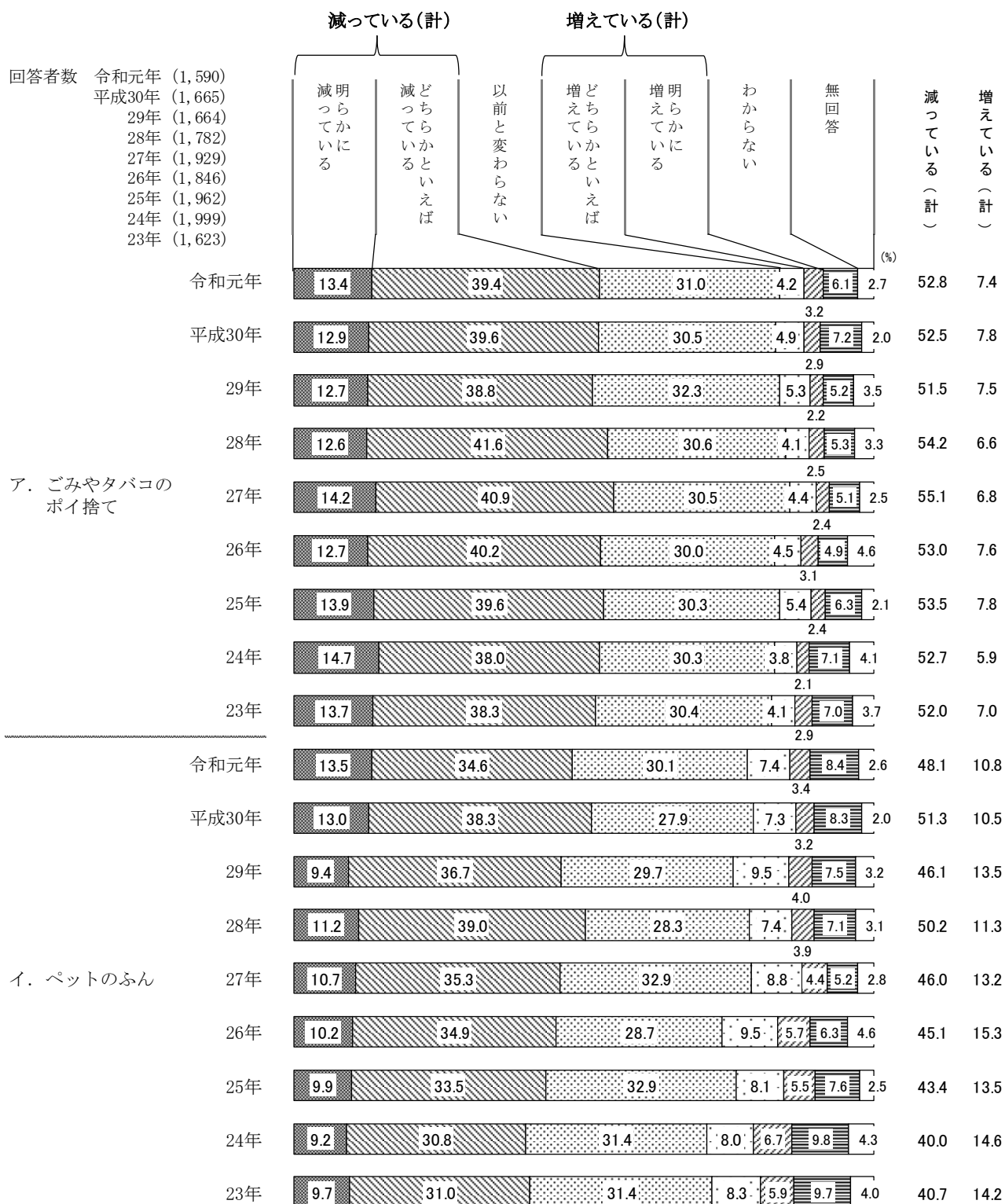
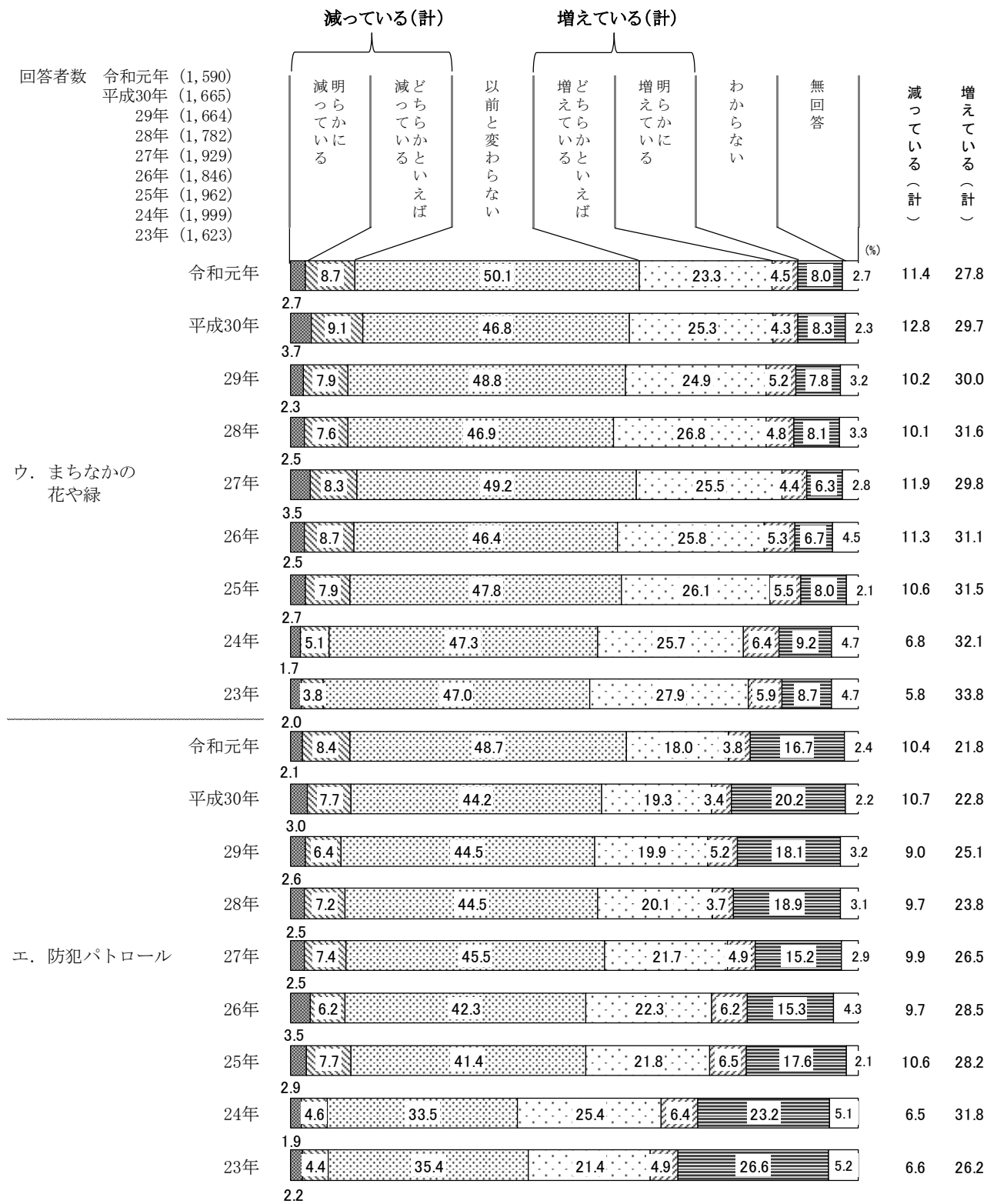


図1-2-1-② 経年比較／居住地域評価



### 第3章 調査結果の分析〈定住性〉

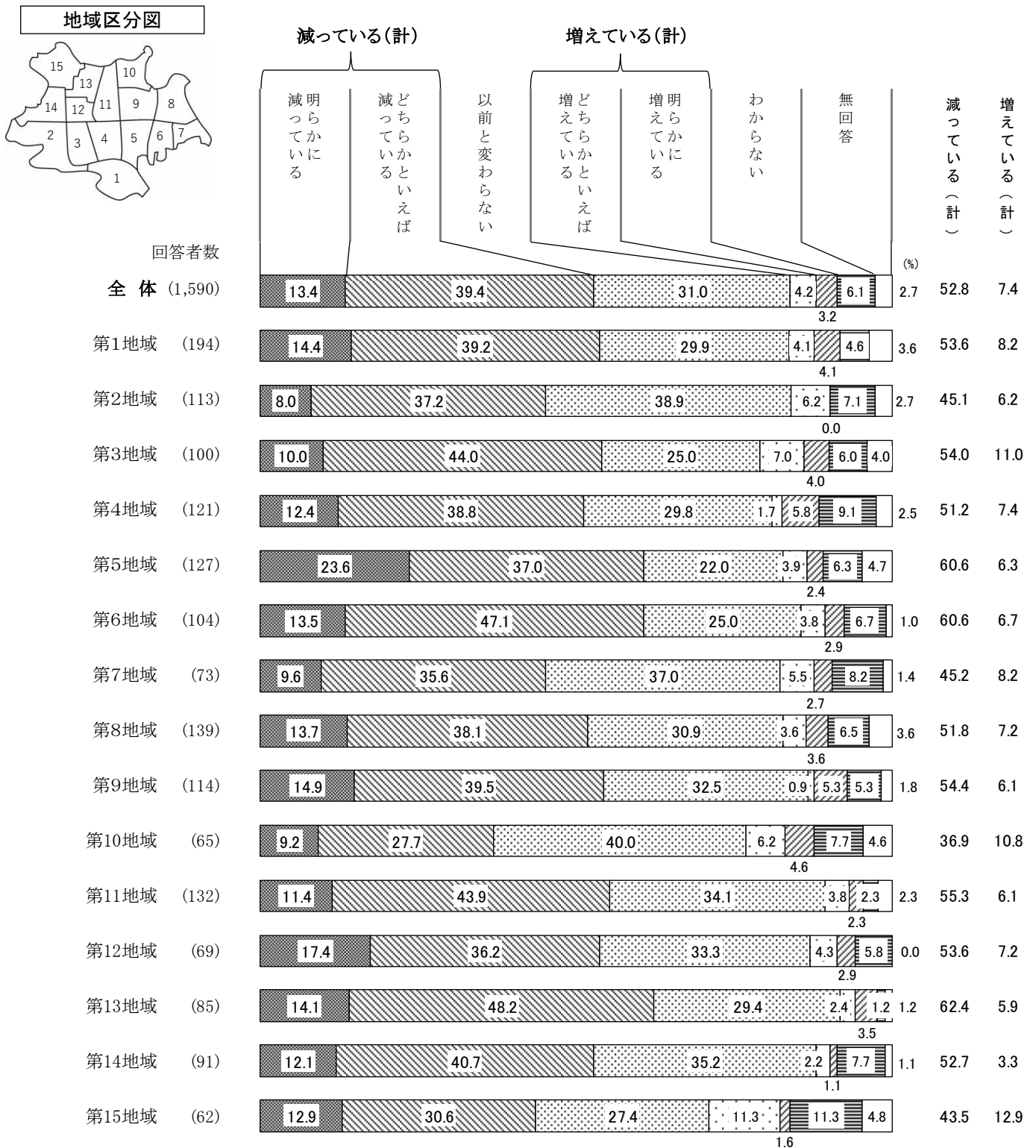
お住まいの地域の状況について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」を合わせた【減っている】の高い順にみると、〈ごみやタバコのポイ捨て〉が52.8%で最も高く、次いで〈ペットのふん〉が48.1%となって、ともに5割前後に達している。一方、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」を合わせた【増えている】の高い順にみると、〈まちなかの花や緑〉が27.8%で最も高く、次いで〈防犯パトロール〉が21.8%となっている。

経年で比較すると、〈ペットのふん〉について【減っている】が今回48.1%と前回の平成30年調査の51.3%より3.2ポイント減少しているが、〈ごみやタバコのポイ捨て〉では【減っている】が僅かながら増加している。一方、〈まちなかの花や緑〉について【増えている】が今回27.8%と前回の29.7%より1.9ポイント減少し、〈防犯パトロール〉も【増えている】が前回より微減している。

各項目について、地域別でみた。

〈ごみやタバコのポイ捨て〉について、【減っている】は第13地域で62.4%と最も高く、次いで第5地域と第6地域でも6割台と高くなっている。一方、【増えている】は第15地域で12.9%と最も高く、第3地域と第10地域でそれぞれ10%台となっている。

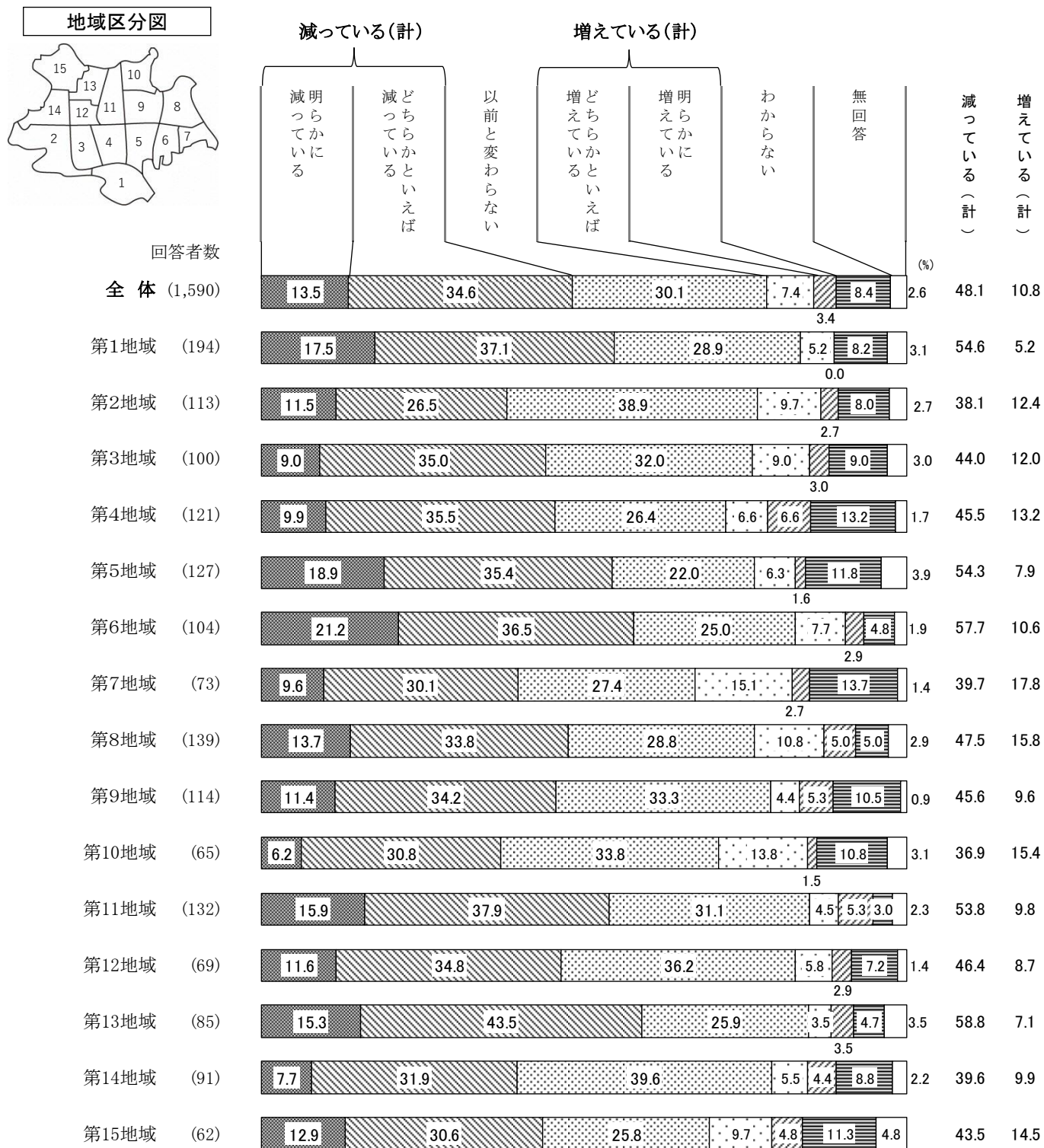
図1-2-2-① 地域別／ごみやタバコのポイ捨て



第3章 調査結果の分析〈定住性〉

〈ペットのふん〉について、【減っている】は第13地域が58.8%と最も高く、次いで第6地域が57.7%で続いている。一方、【増えている】は第7地域で17.8%と最も高く、第8地域、第10地域、第15地域でもそれぞれ1割台半ばと高くなっている。

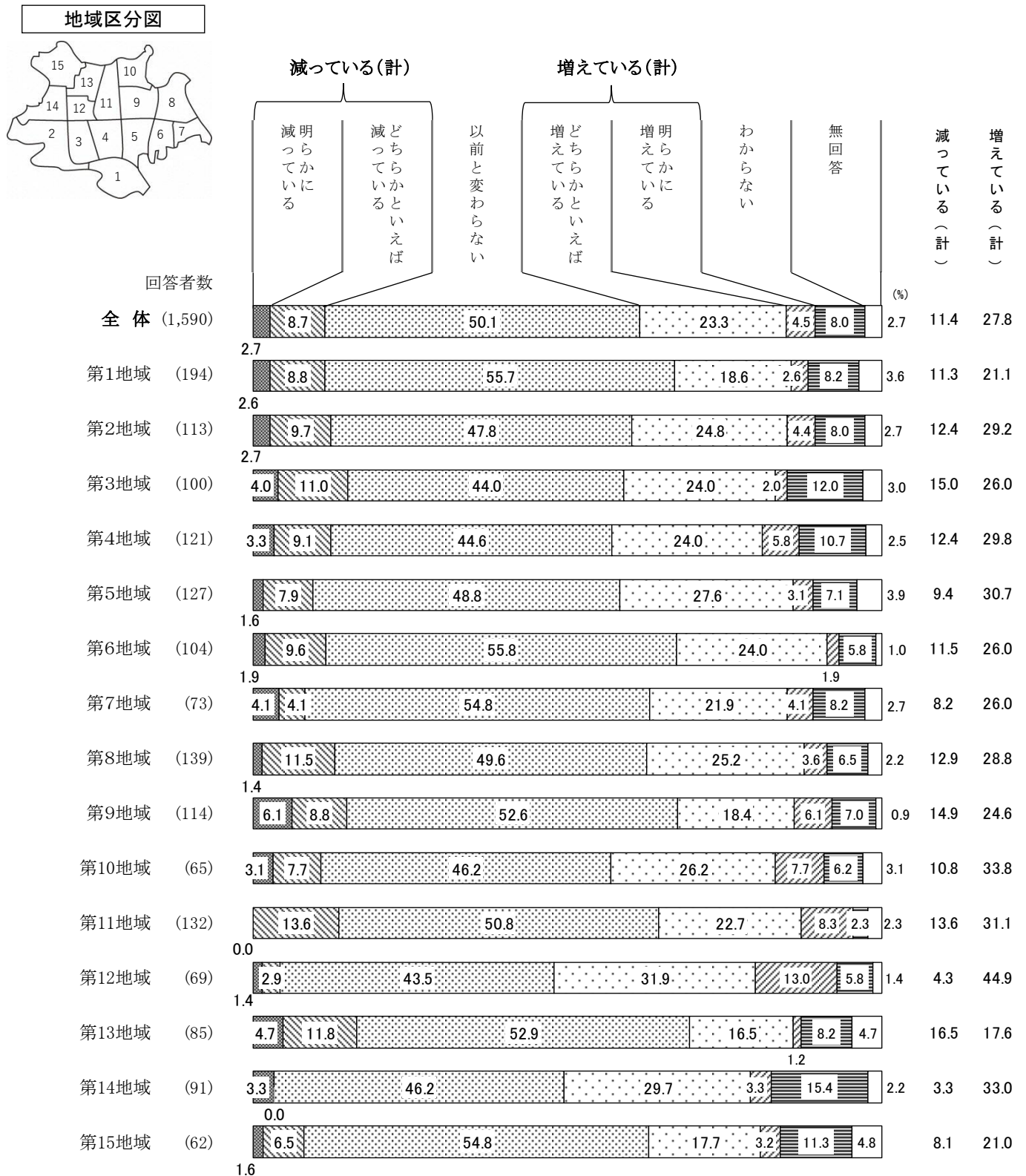
図1-2-2-② 地域別／ペットのふん





〈まちなかの花や緑〉について、【増えている】は第12地域で44.9%と最も高く、第10地域と第14地域でそれぞれ3割強と、他の地区より高くなっている。一方、【減っている】については、第3地域、第9地域、第13地域でそれぞれ1割台半ば以上と高くなっている。

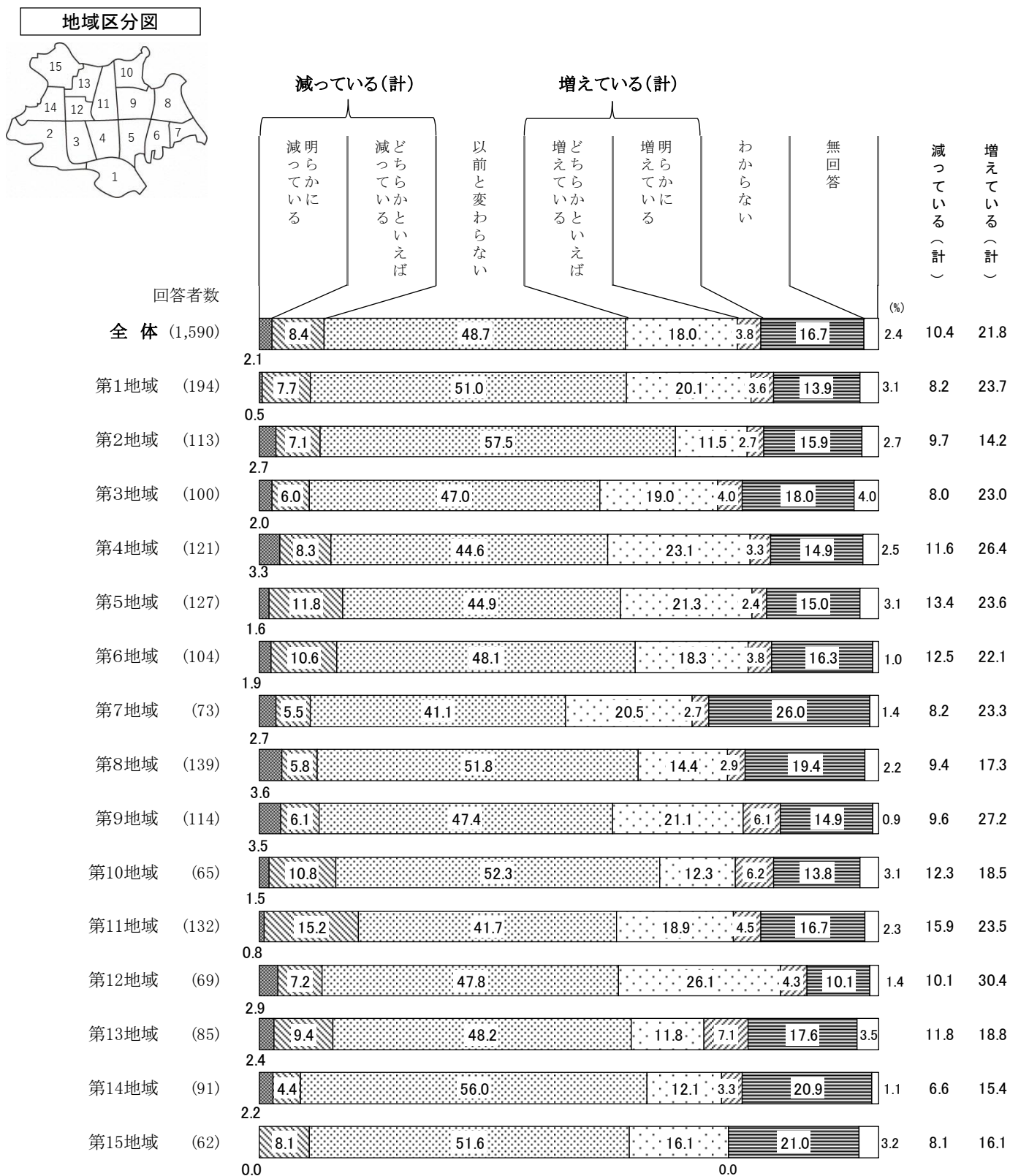
図1-2-2-③ 地域別／まちなかの花や緑



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

〈防犯パトロール〉について、【増えている】は第12地域が30.4%と最も高く、これに第4地域と第9地域が2割台半ば以上で続いている。一方、【減っている】は第11地域で15.9%と最も高くなっている。

図1-2-2-④ 地域別／防犯パトロール



(3) 地域の暮らしやすさ

■ 【暮らしやすい】は3年続けて8割を超えている

問3 問1、問2を踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じていますか（〇は1つだけ）。

図1-3-1-① 経年比較/地域の暮らしやすさ

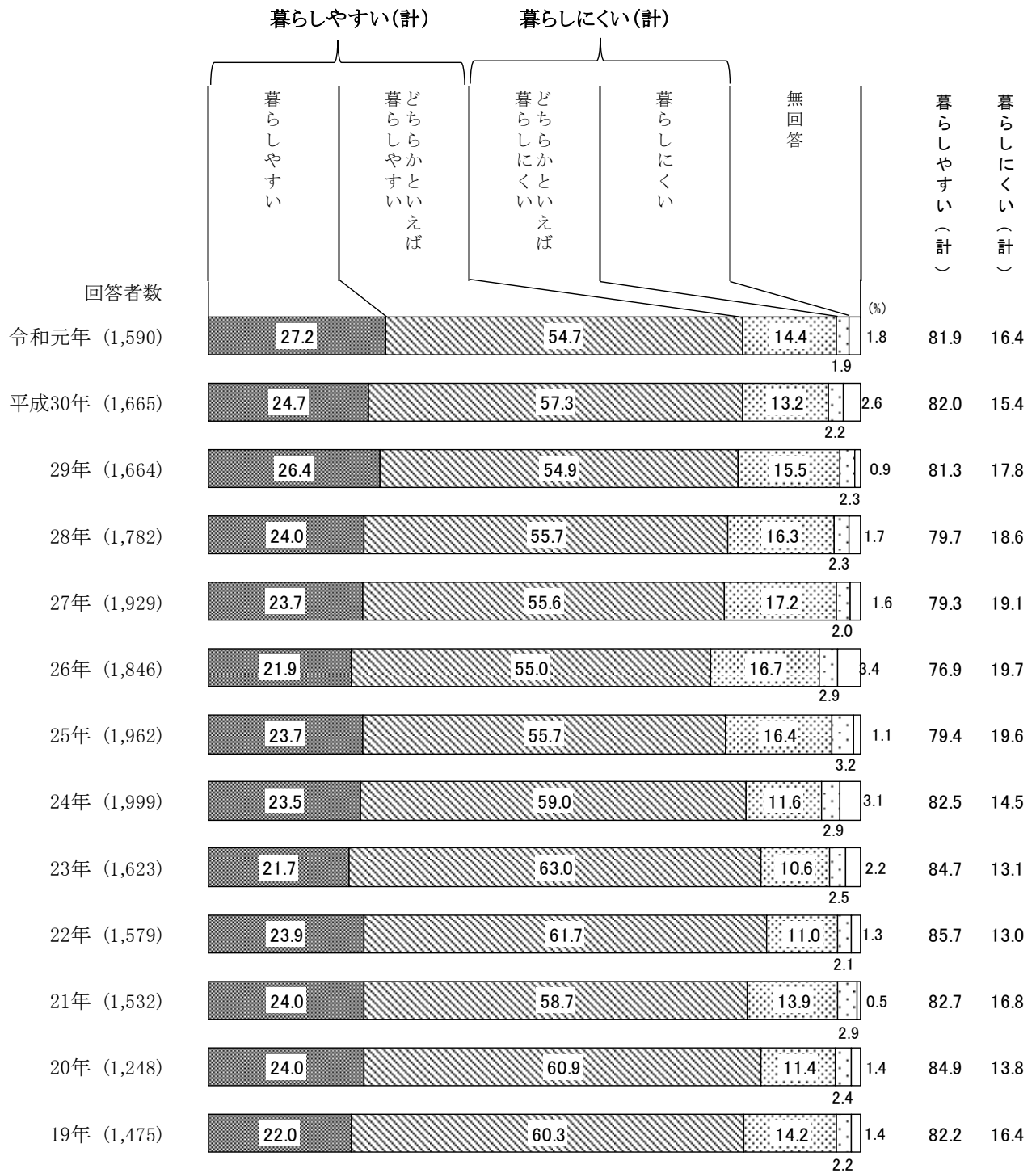
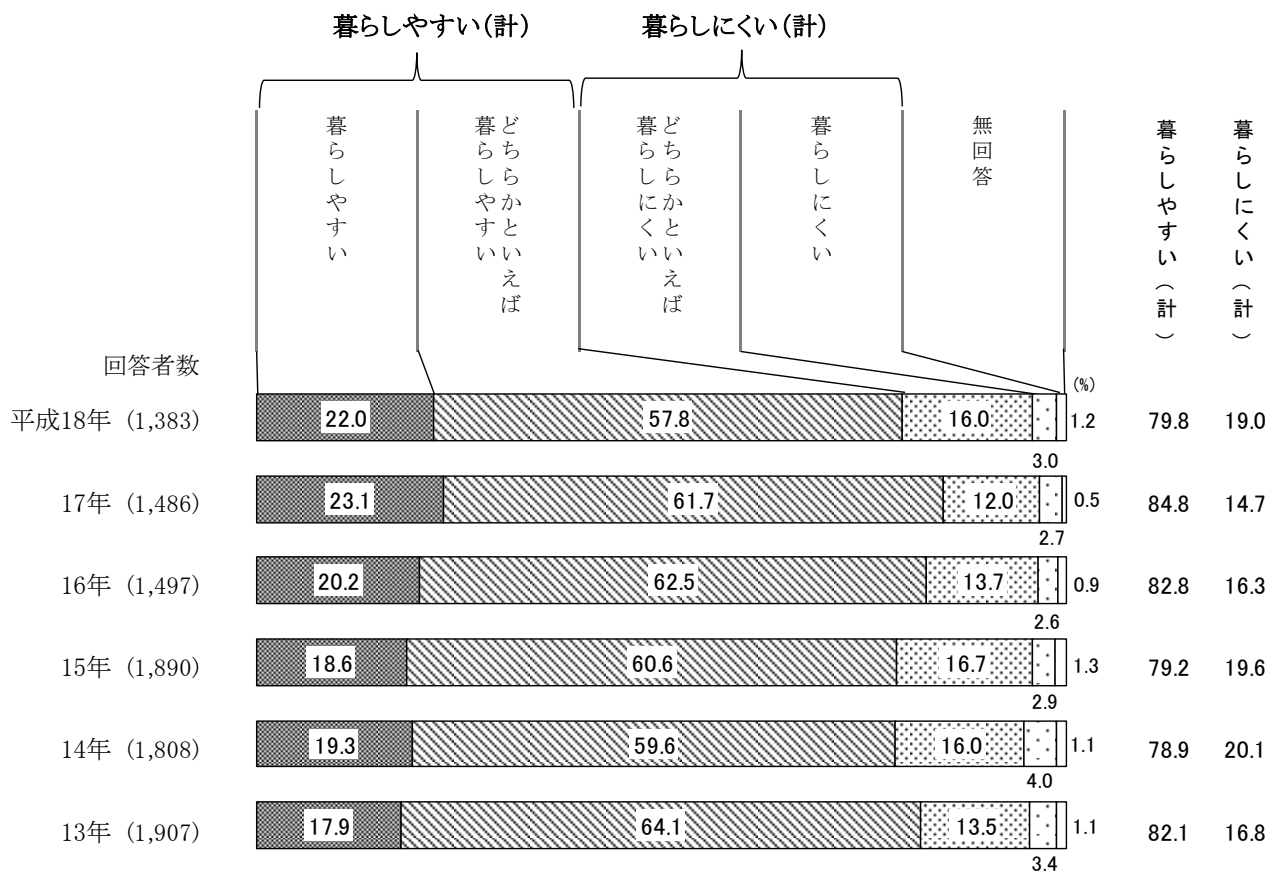


図1-3-1-② 経年比較/地域の暮らしやすさ

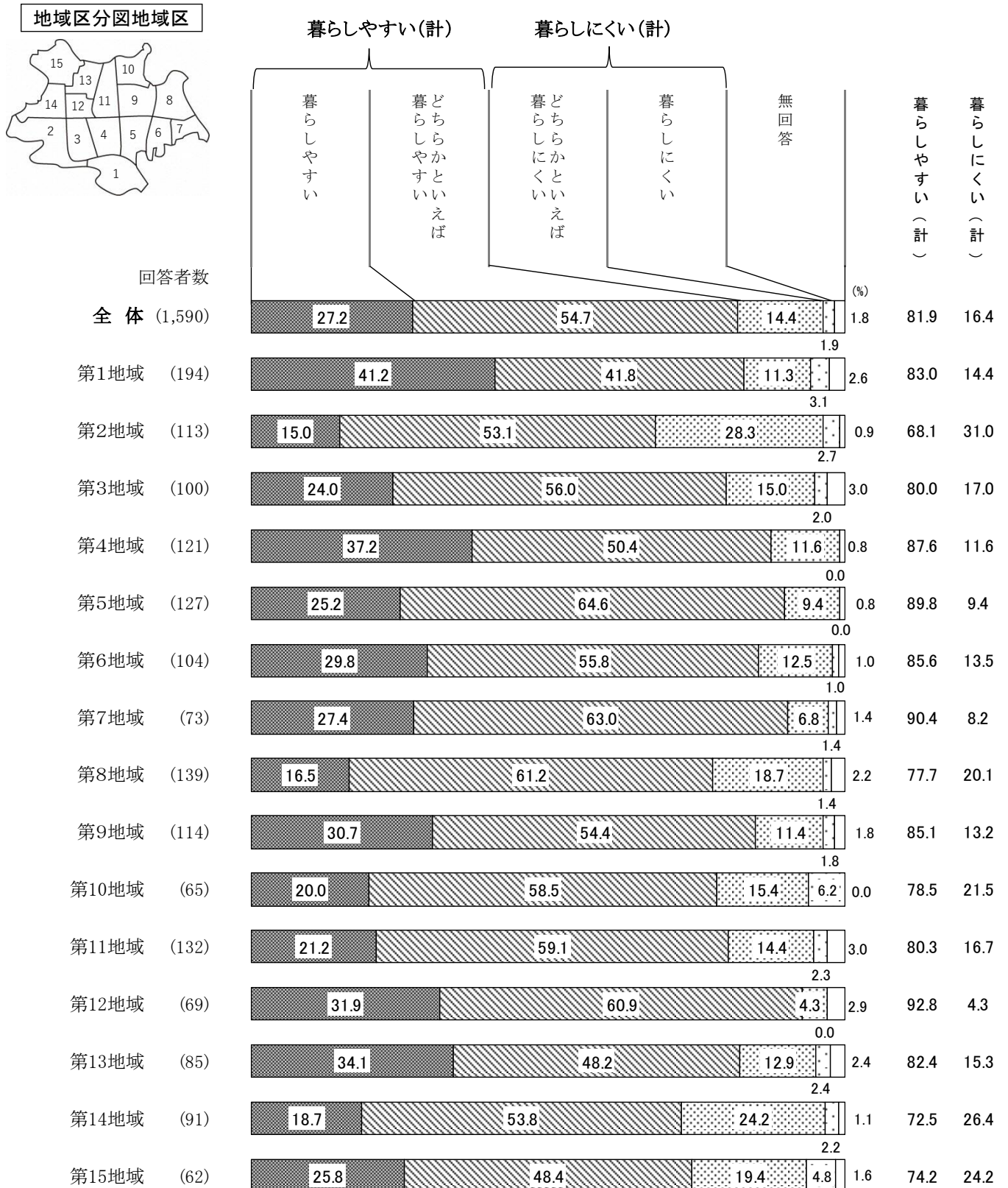


地域の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」は27.2%で、「どちらかといえば暮らしやすい」(54.7%)を合わせた【暮らしやすい】は8割強を占めている。一方、「暮らしにくい」は1.9%で、「どちらかといえば暮らしにくい」(14.4%)を合わせた【暮らしにくい】は1割台半ばである。

経年でみると、【暮らしやすい】は、平成22年の85.7%を頂点として以降4年続けて漸減傾向にあったが、平成27年調査で79.3%と増加に転じ、今回調査でも前回の平成30年調査(82.0%)とほぼ同じの81.9%と、平成29年以降3年続けて8割を超えている。一方、「暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた【暮らしにくい】は、今回の調査では16.4%と、前回の平成30年調査(15.4%)に比べると1.0ポイント増加しているものの、平成25年～平成29年の5年間と比べると引き続き低めにとどまる傾向が継続している。

地域別でみると、【暮らしやすい】は第12地域で92.8%と最も高く、次いで第7地域（90.4%）と第5地域（89.8%）が9割前後で続いている。一方、【暮らしにくい】は第2地域（31.0%）で3割を超えており、他の地域より高くなっている。

図1-3-2 地域別／地域の暮らしやすさ



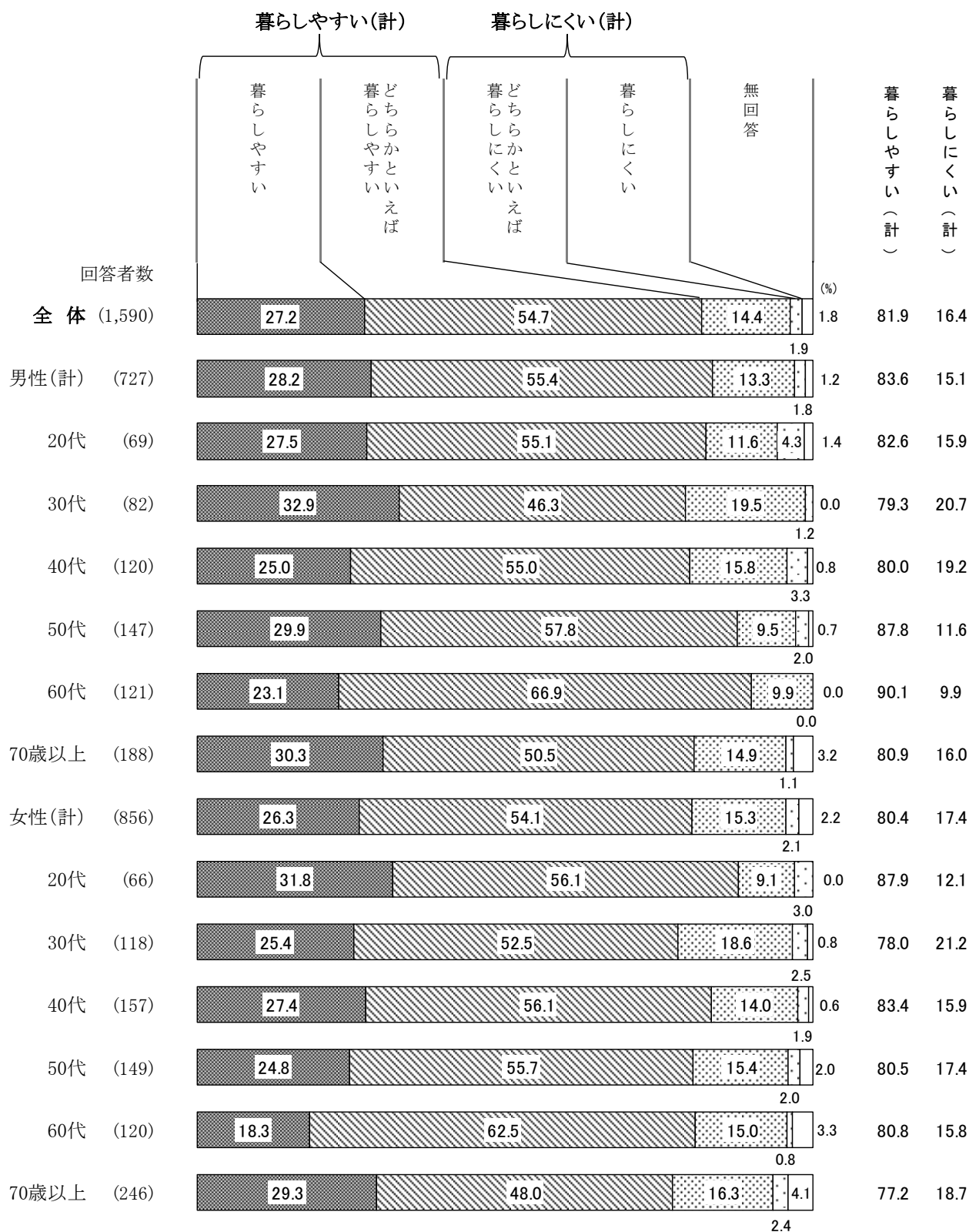
第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると【暮らしやすい】は、男性83.6%、女性80.4%となっている。

性・年代別でみると、男性では60代で【暮らしやすい】が90.1%と9割に達して高い。

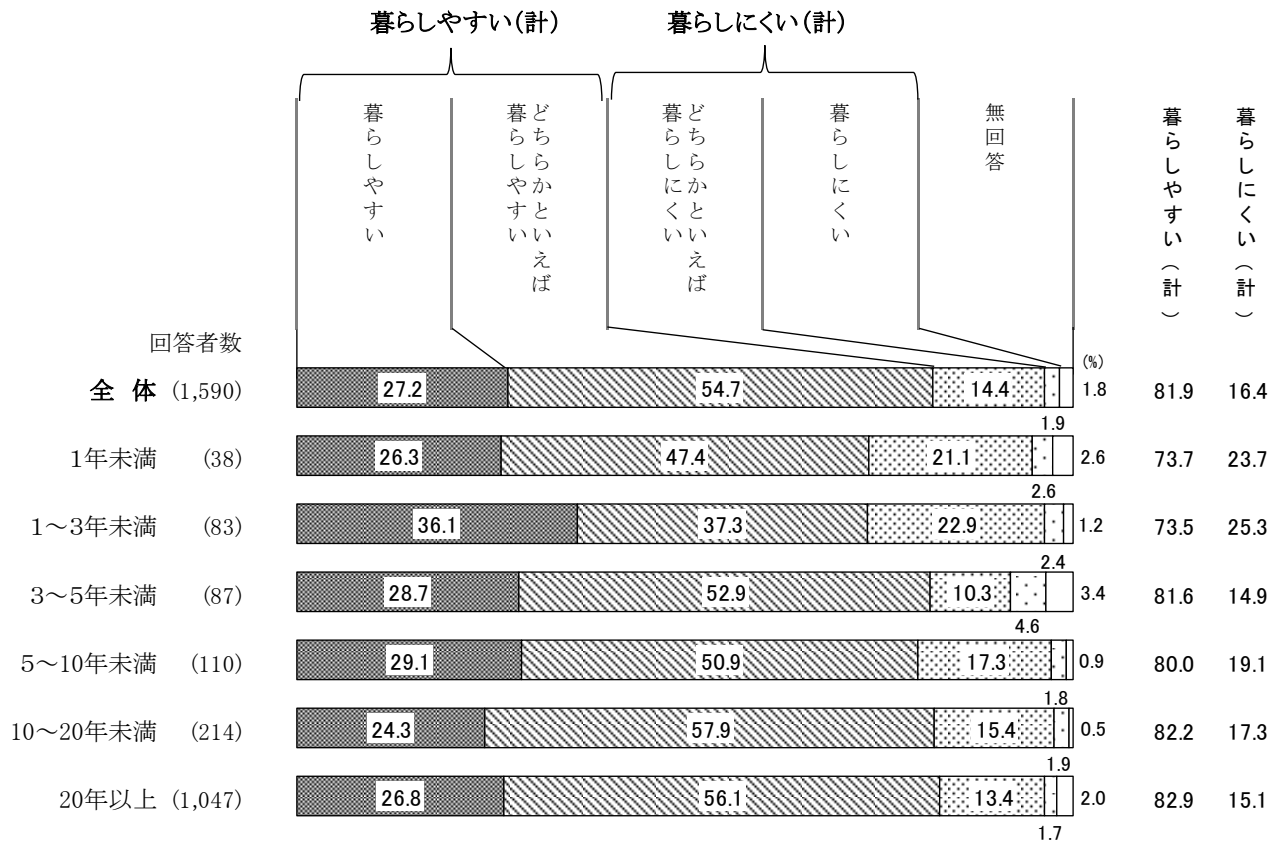
女性では、【暮らしやすい】は20代で87.9%と最も高く、【暮らしにくい】は30代で21.2%と最も高くなっている。

図1-3-3 性別、性・年代別／地域の暮らしやすさ



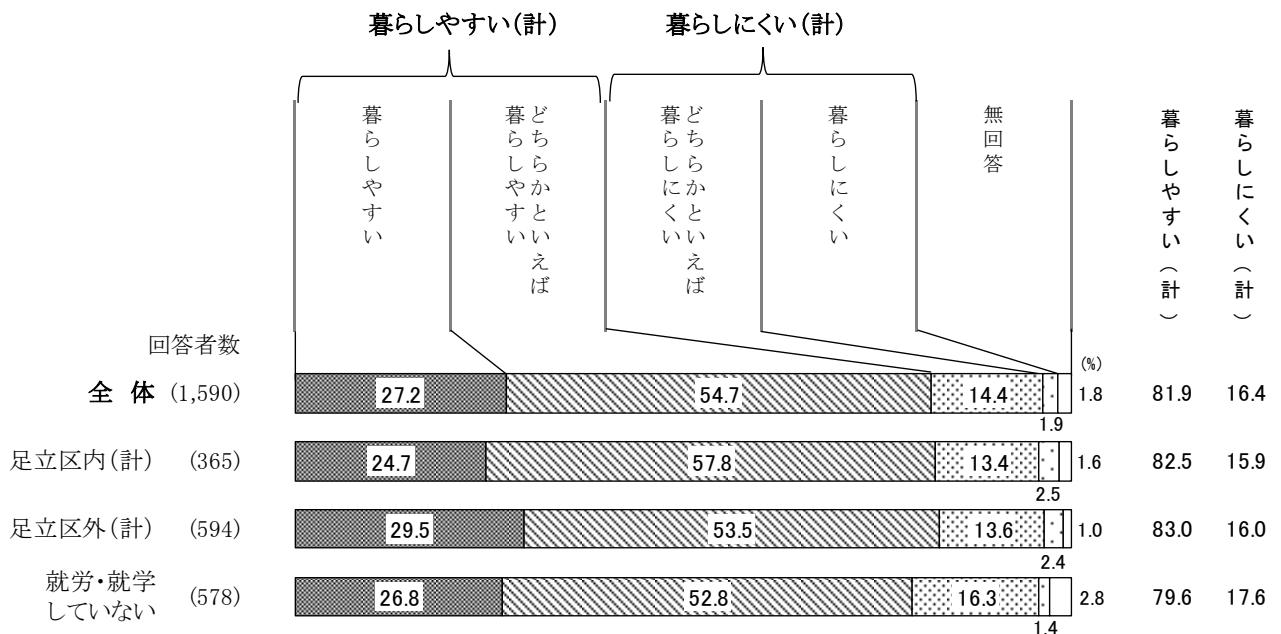
居住年数別で見ると、「1年未満」と「1～3年未満」の両層で【暮らしやすい】が7割前半となっており、他の層と比べると低い傾向がみられる。

図1-3-4 居住年数別／地域の暮らしやすさ



就労・就学場所別にみると、いずれの層でも【暮らしやすい】が8割前後と大きな違いはみられない。

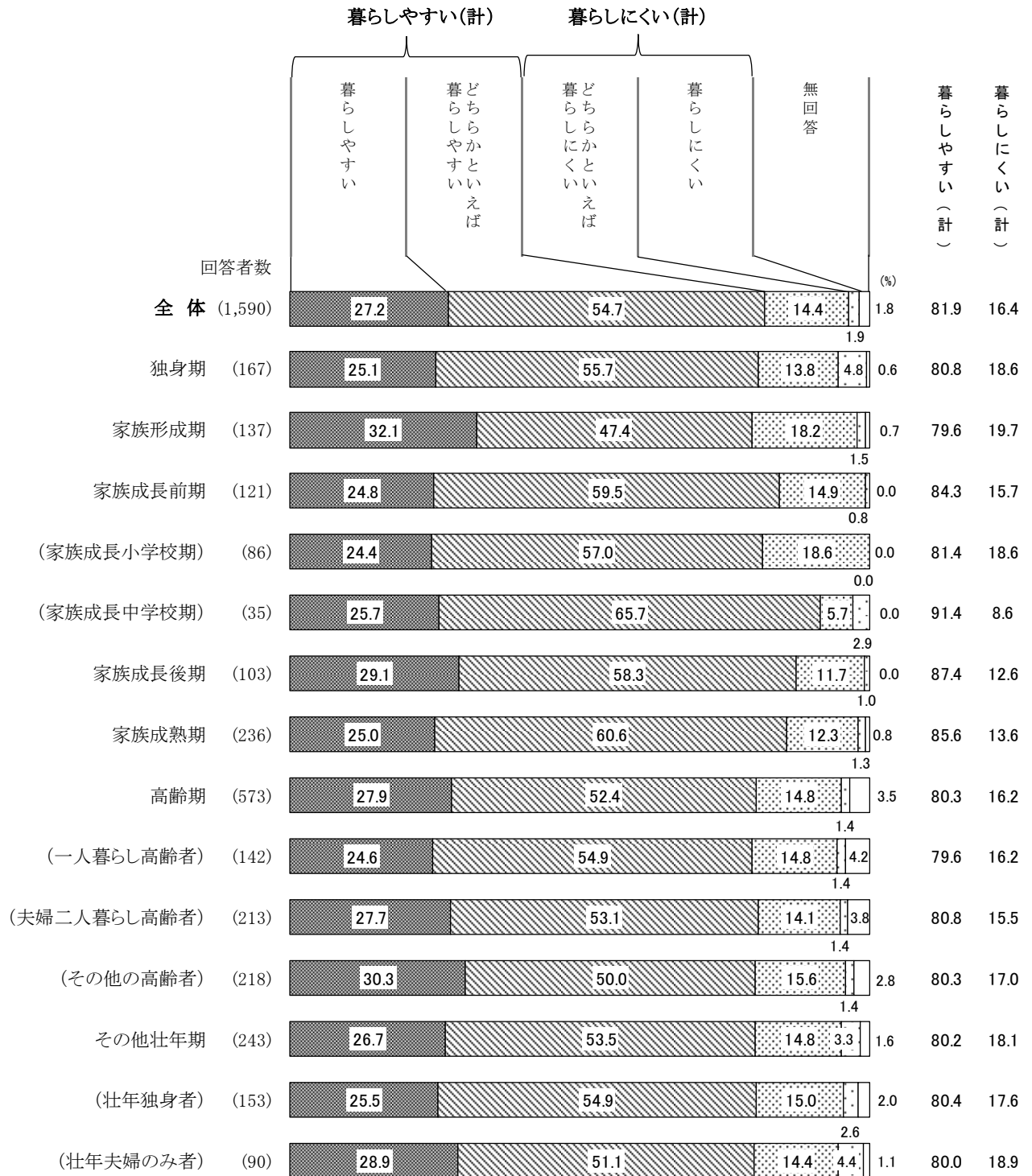
図1-3-5 就労・就学場所別／地域の暮らしやすさ



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

ライフステージ別で見ると、いずれのステージでも【暮らしやすい】が8割弱から9割弱と大きな違いはみられないが、中では家族成長後期が87.4%で最も高い。

図1-3-6 ライフステージ別／地域の暮らしやすさ





(4) 特に暮らしにくいと感じること

■ “交通の便の悪さ”が4割台半ばで最多、“マナーやルールへの意識の低さ”が4割弱

問3で「3. どちらかといえば暮らしにくい」、または「4. 暮らしにくい」とお答えの方に  
 問3-1 特に暮らしにくいと感じることは何ですか (〇は3つまで)。

図1-4-1-① 経年比較/特に暮らしにくいと感じること

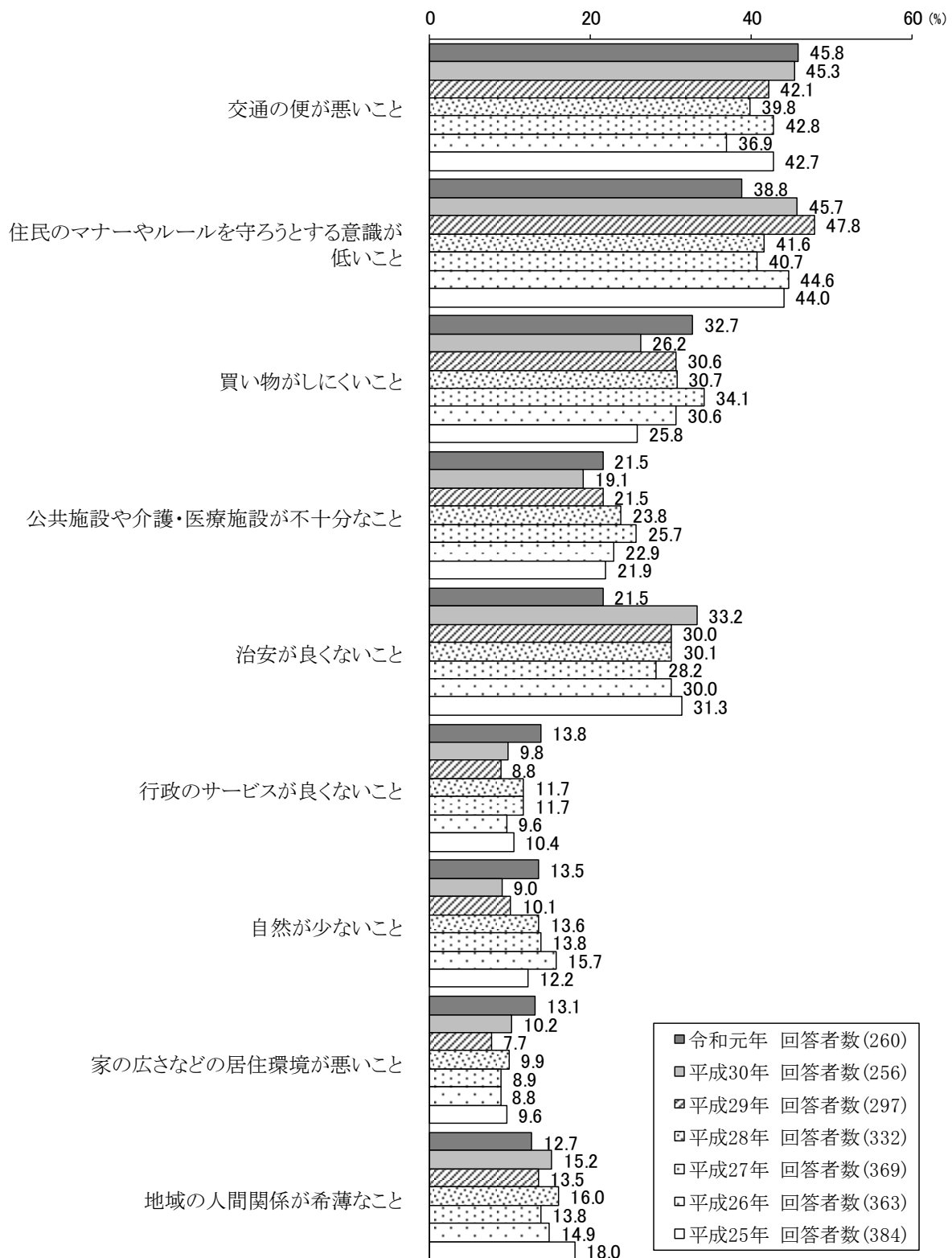
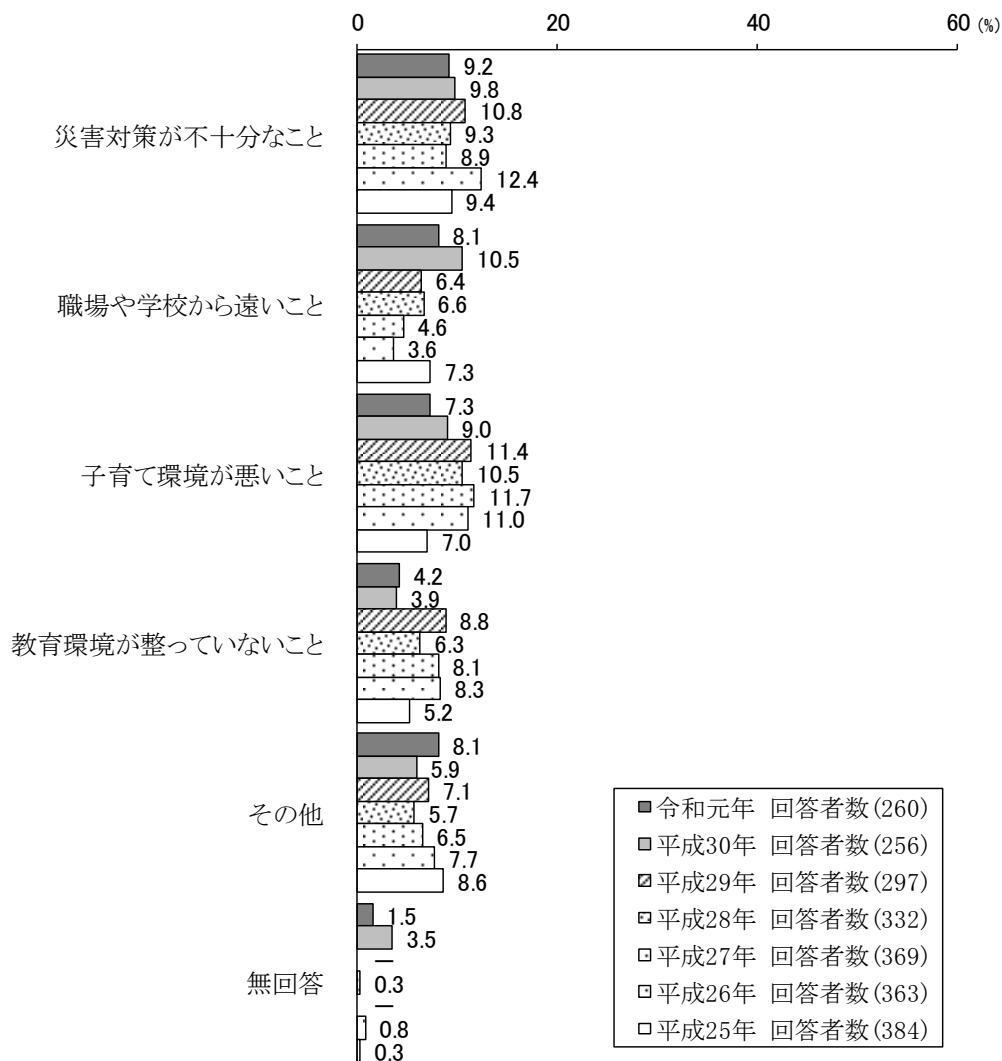


図1-4-1-② 経年比較／特に暮らしにくいと感じること



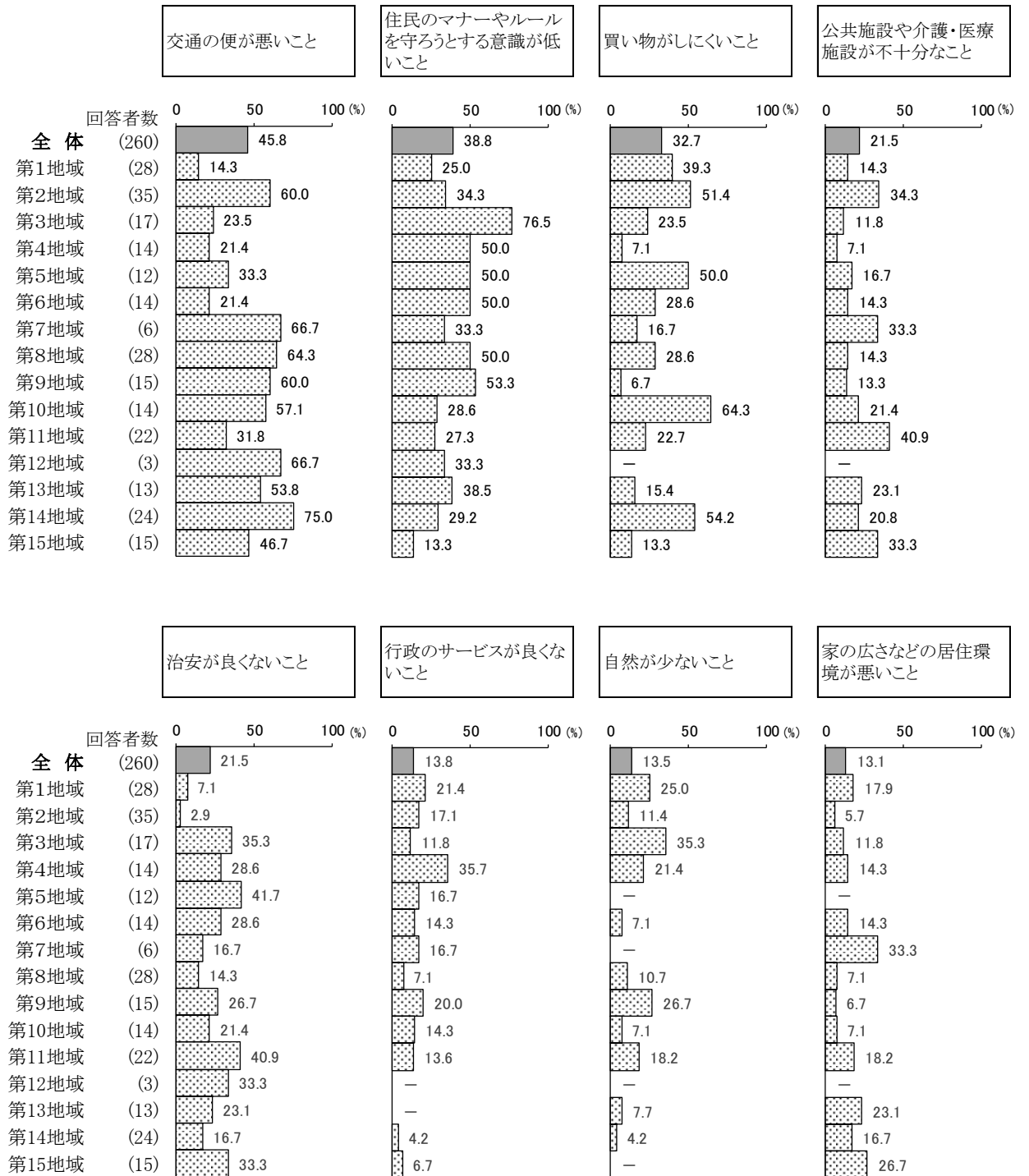
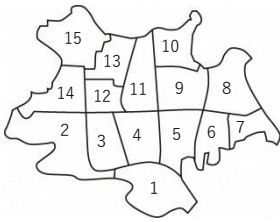
【暮らしにくい】という人に、その理由を聞いたところ、「交通の便が悪いこと」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」(38.8%)が4割弱で続き、「買い物がしにくいこと」(32.7%)も3割強と高くなっている。

上位項目について経年でみると、平成30年調査に比べて、「交通の便が悪いこと」はほぼ同率ながら、次点の「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」と同率4位の「治安が良くないこと」はともに前回より10ポイント前後も減少しているのに対し、3位の「買い物がしにくいこと」は前回の26.2%から今回32.7%と6.5ポイント増加している。

地域別でみると、地域によって回答者数が少ないところがあることから参考値にとどめる必要があるものの、「交通の便が悪いこと」は第14地域で7割台半ば、「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」は第3地域で7割台半ば、「買い物がしにくいこと」は第10地域が6割台半ばで、それぞれ全地域中最も高くなっている。

図1-4-2 地域別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

地域区分図

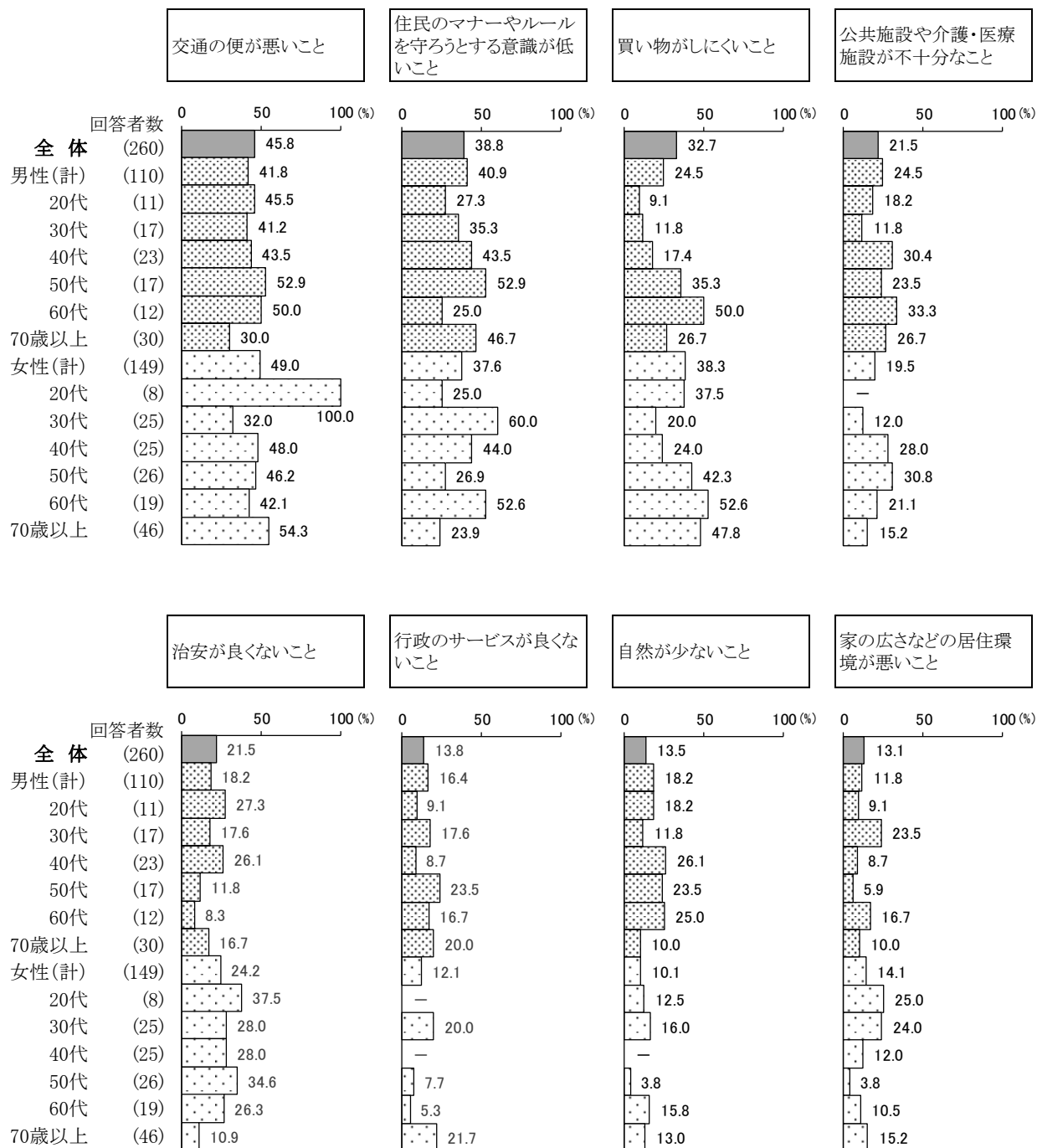


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると、「交通の便が悪いこと」と「住民のマナーやルールを守ろうとする意識が低いこと」では男女で大きな違いはみられない。なお、「買い物がしにくいこと」では女性が38.3%と男性（24.5%）を上回っている。

性・年代別でみると、サンプル数が少ない層が多いことからあくまで参考値ながら、男女ともに60代で「買い物がしにくいこと」が他の年代に比べて高くなっている。また、女性20代ではサンプル数が8名ながら「交通の便が悪いこと」が100%で特に高い。

図1-4-3 性別、性・年代別／特に暮らしにくいと感じること／上位8項目

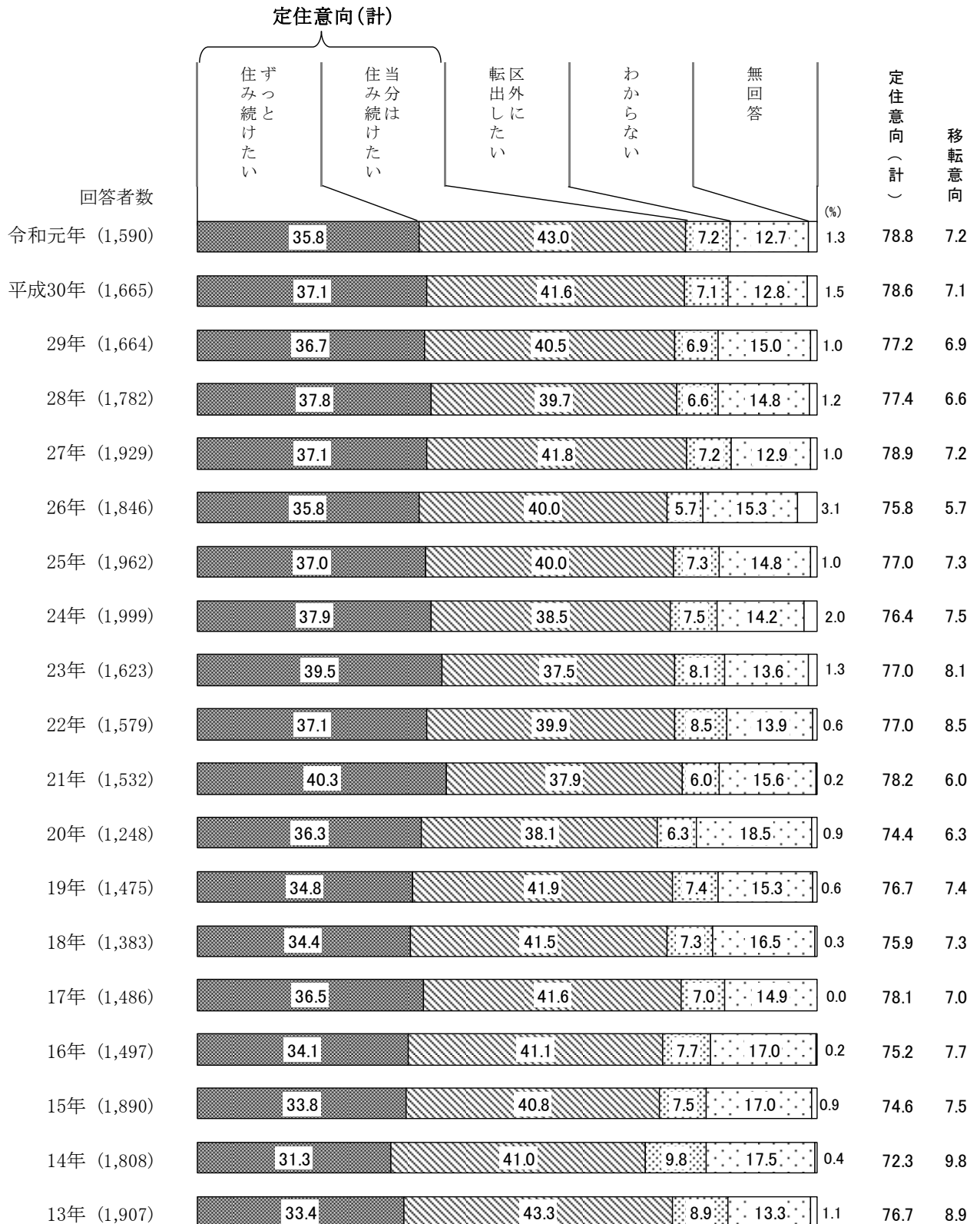


(5) 定住意向

■ 【定住意向】がある人は、前回と同じく8割弱

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか（○は1つだけ）。

図1-5-1 経年比較／定住意向



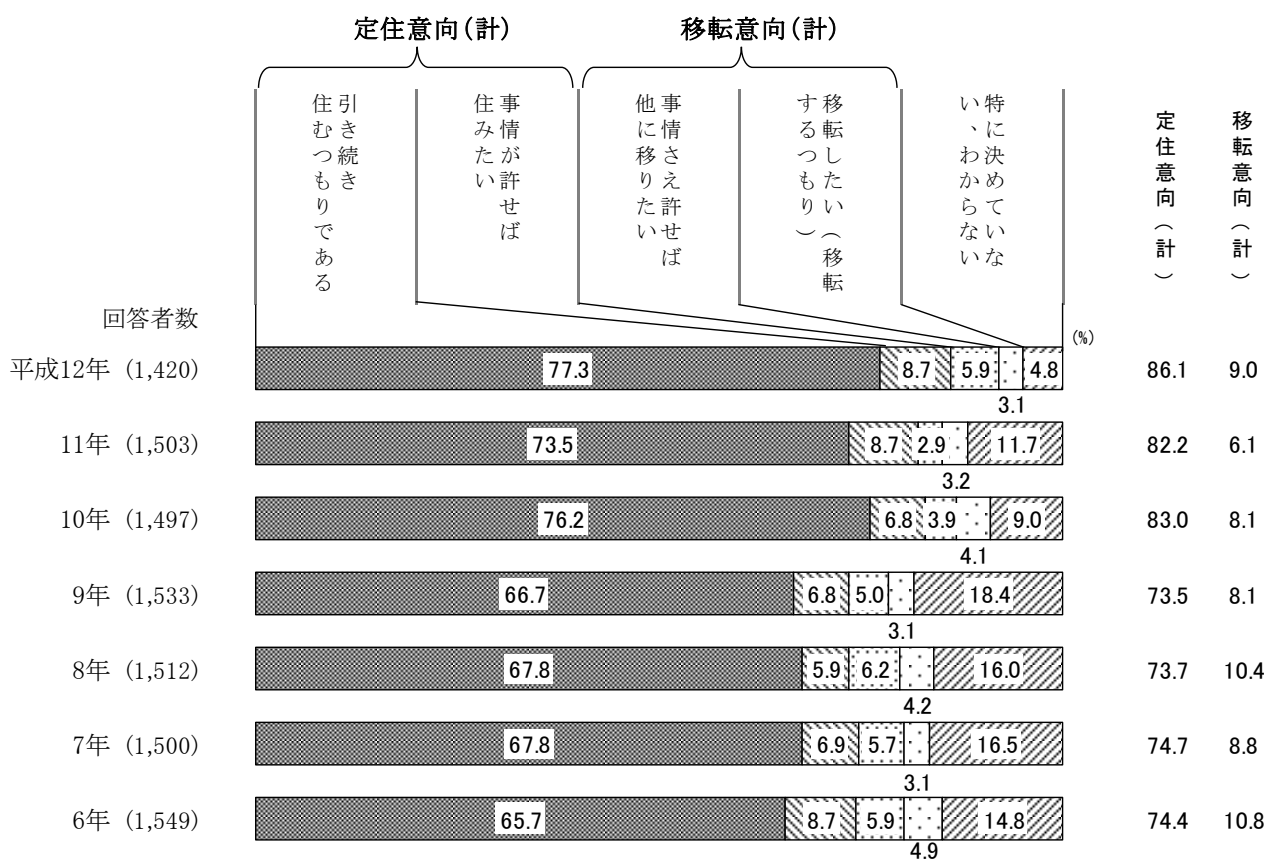
第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

足立区への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」は35.8%で、「当分は住み続けたい」(43.0%)を合わせた【定住意向】は78.8%と8割弱を占めている。一方、「区外に転出したい」は7.2%と1割未満である。

経年でみると、現行の選択肢となった平成13年以降、大きな変動はみられないが、今回の【定住意向】は78.8%と、平成30年(78.6%)とほぼ同レベルとなっている。

参考／定住・移転意向の推移

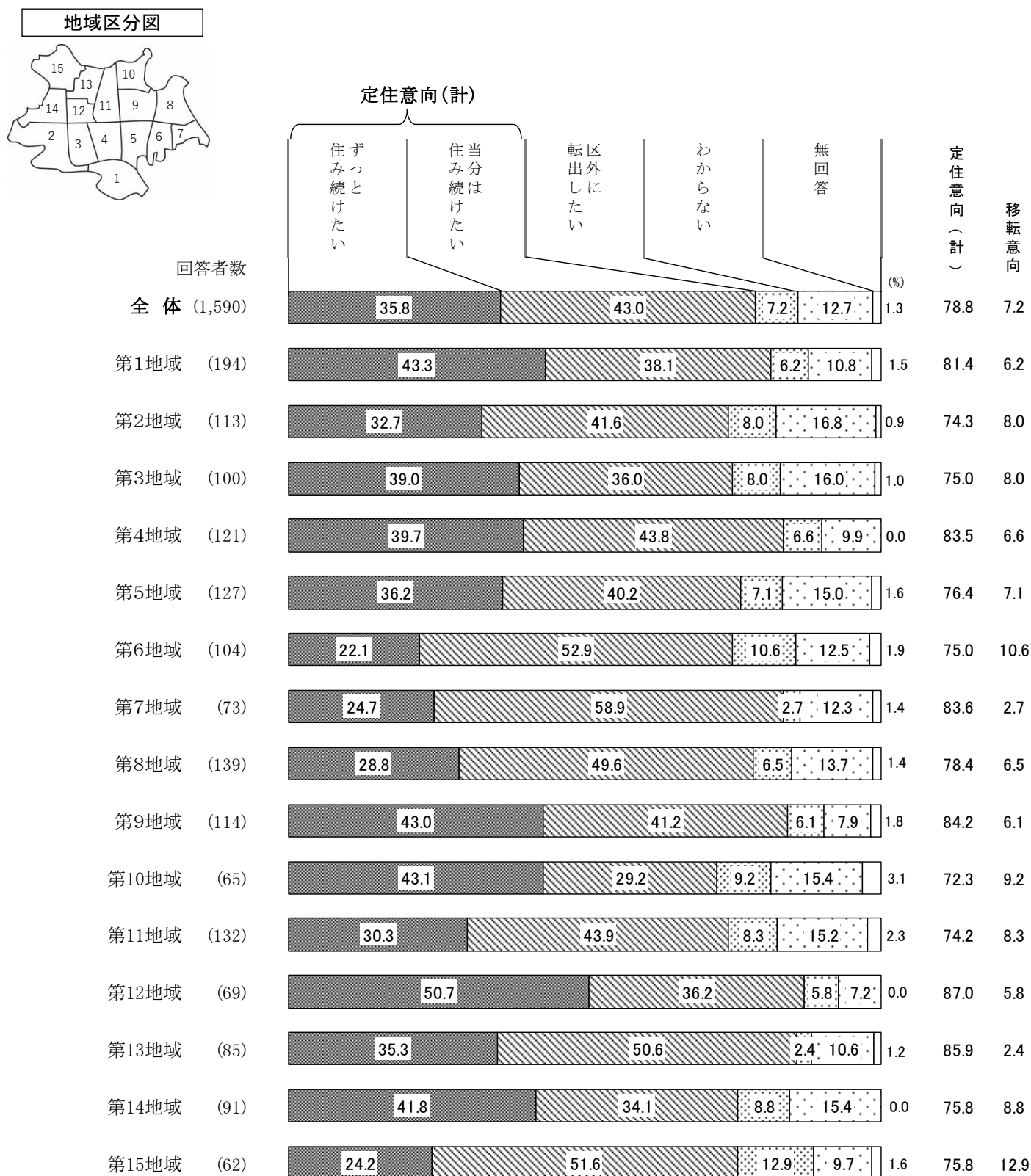
問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つにお答えください。  
(○は1つ)



※ 平成12年度までと平成13年度以降では、調査方法（平成12年度までは訪問面接法、平成13年度以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域別でみると、【定住意向】は第12地域で87.0%と最も高く、以下、第13地域（85.9%）、第9地域（84.2%）の順となっている。一方、「区外に転出したい」という【移転意向】は第15地域で12.9%と最も高い。

図1-5-2 地域別／定住意向

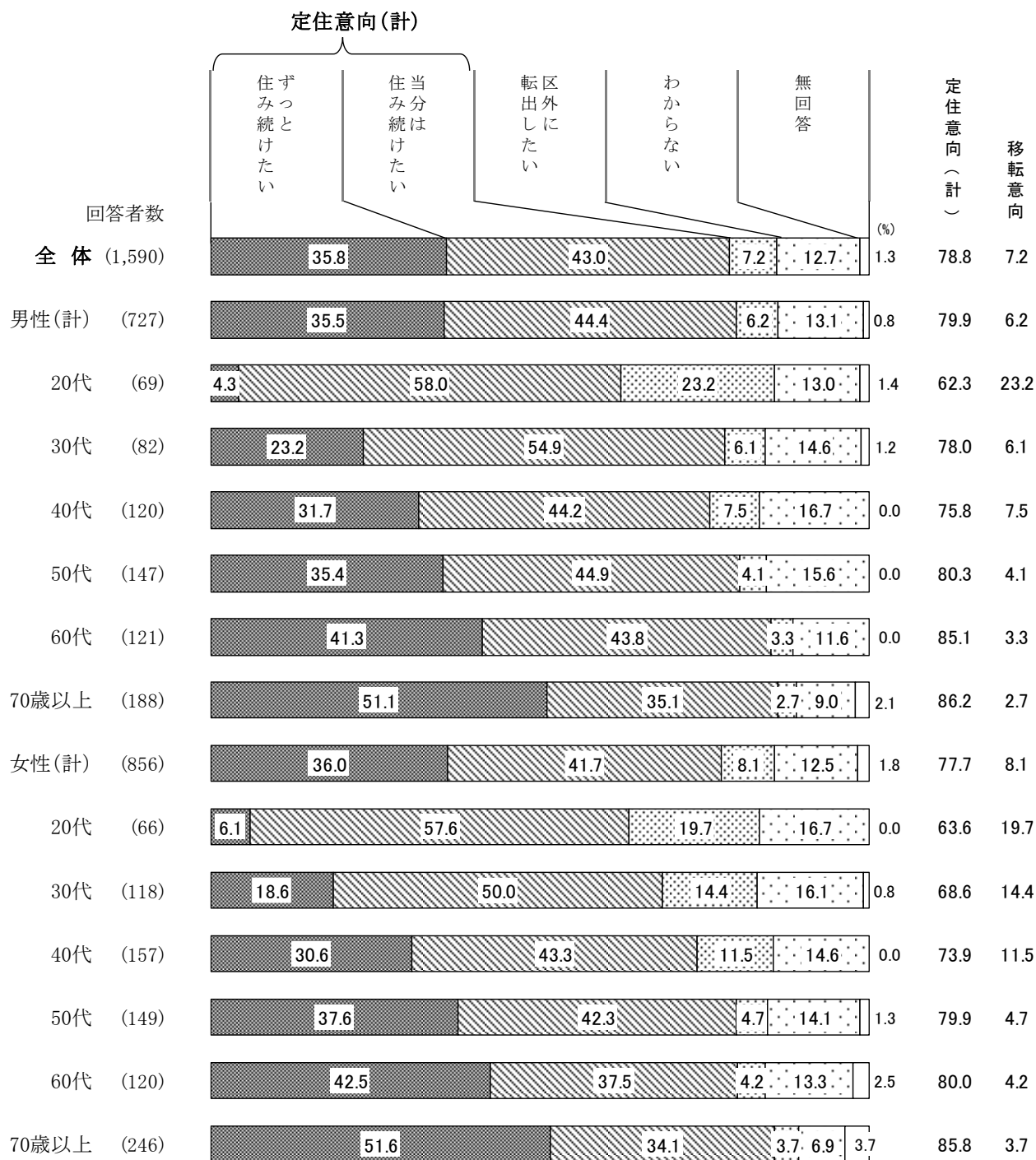


第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

性別でみると、【定住意向】は、男性79.9%、女性77.7%となっている。

性・年代別でみると、男性、女性ともに【定住意向】は70歳以上（男性86.2%、女性85.8%）で他の年代に比べて高く、20代（男性62.3%、女性63.6%）で低くなっている。

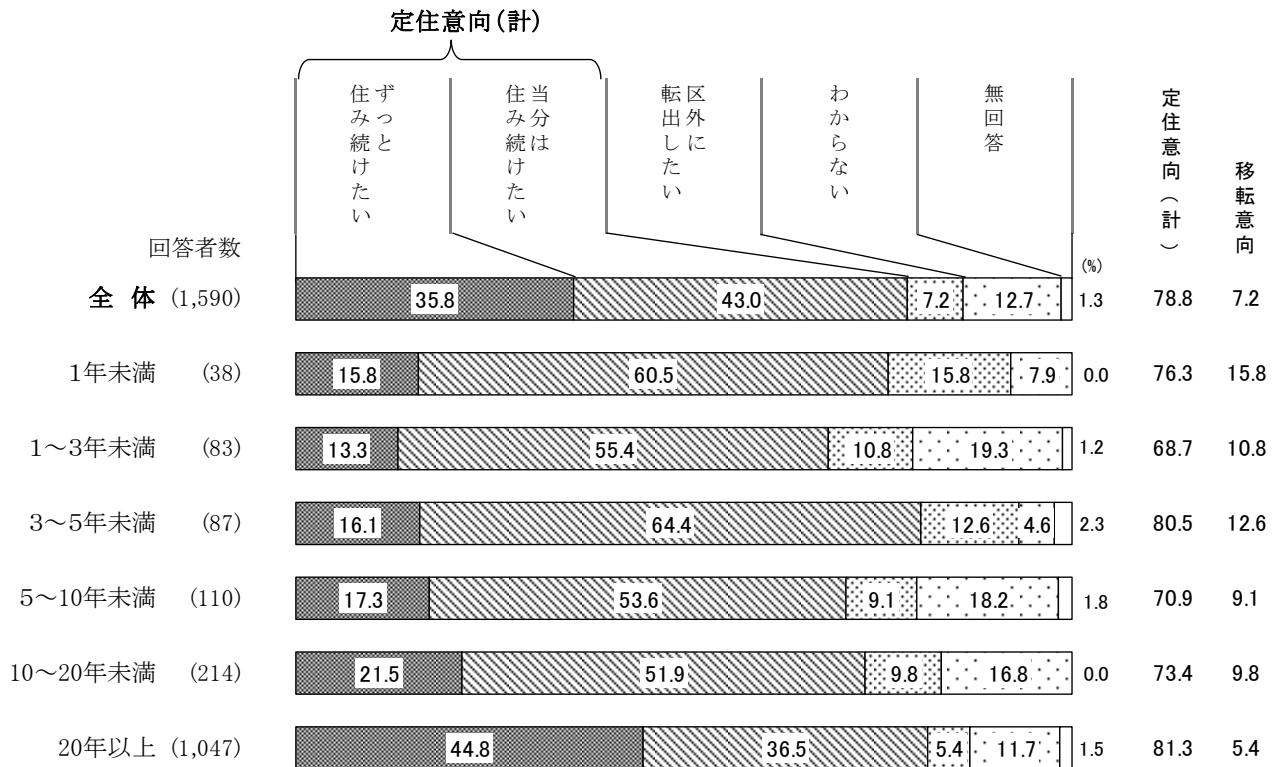
図1-5-3 性別、性・年代別／定住意向





居住年数別で見ると、【定住意向】は3～5年未満（80.5%）と20年以上（81.3%）の両層で8割を超えて高く、1～3年未満（68.7%）と5～10年未満（70.9%）の両層で7割前後と低くなっており、居住年数の長短による一定の傾向はみられない。

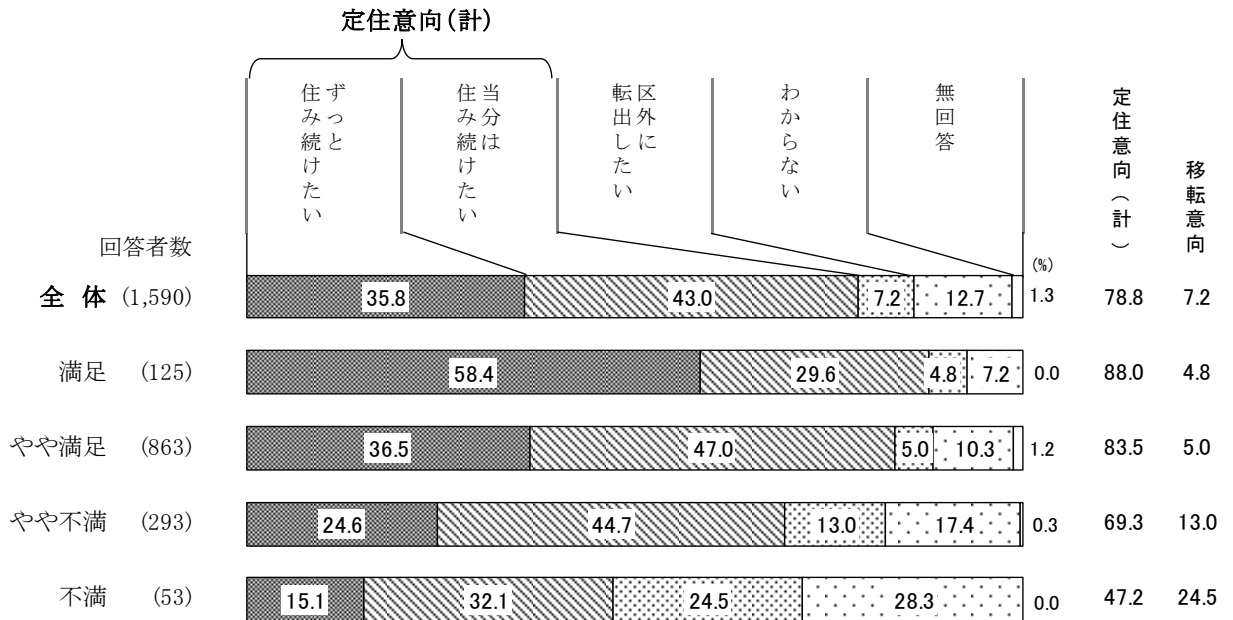
図1-5-4 居住年数別／定住意向



第3章 調査結果の分析 〈 定住性 〉

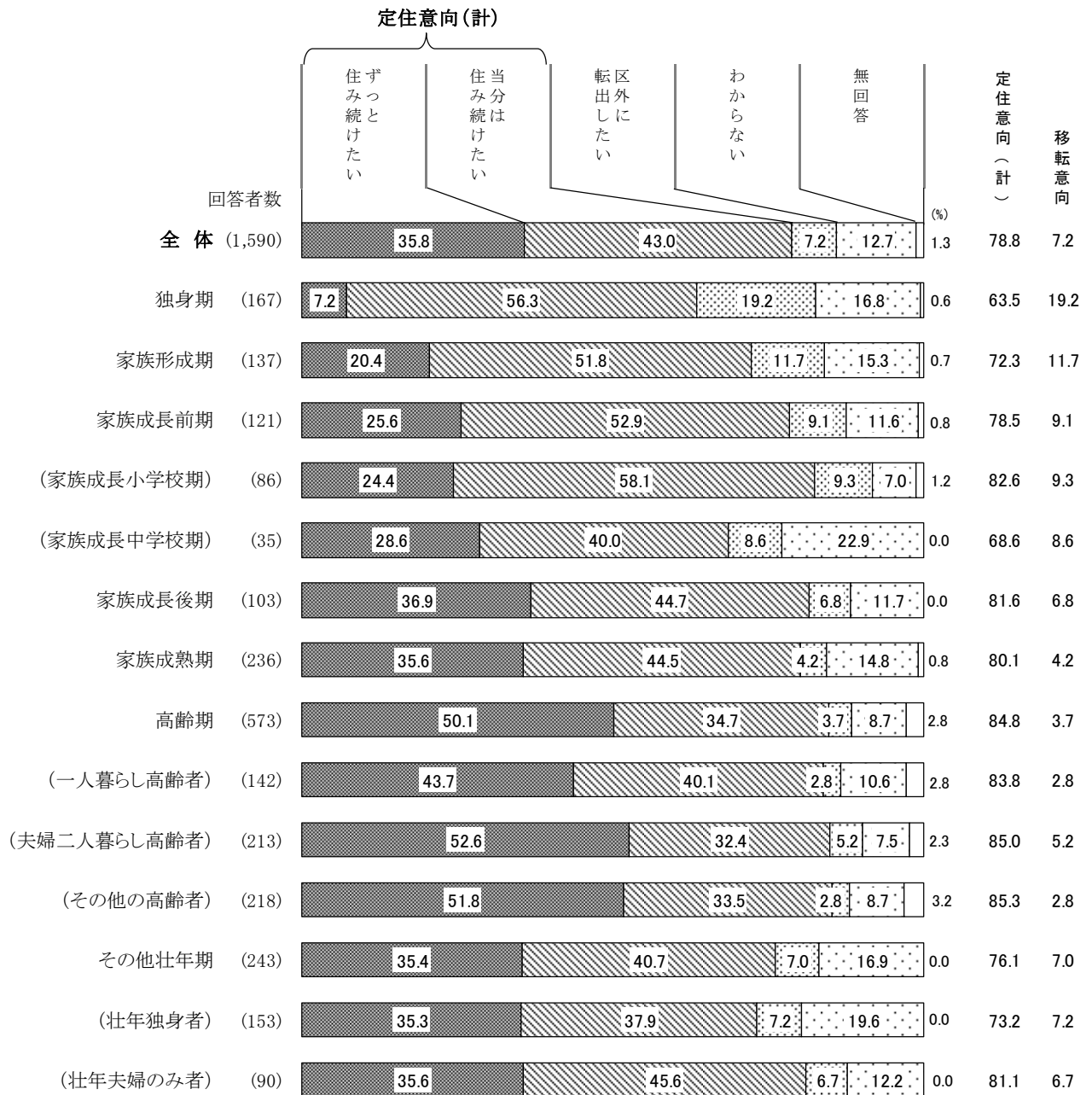
区政への満足度別にみると、満足度が高くなるにつれて【定住意向】は高くなり、満足という層では88.0%と9割弱となっている。

図1-5-5 区政満足度別／定住意向



ライフステージ別で見ると、【定住意向】は高齢期で84.8%と最も高く、家族成長後期（81.6%）と家族成熟期（80.1%）の両層も8割台となっている。

図1-5-6 ライフステージ別／定住意向





## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 災害発生時の水や食料の確保
  - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
  - (6) 対策をしていない理由
  - (7) 地域の避難場所の認知
  - (8) 避難場所の認知経路
  - (9) 大規模災害時の避難生活場所
  - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-



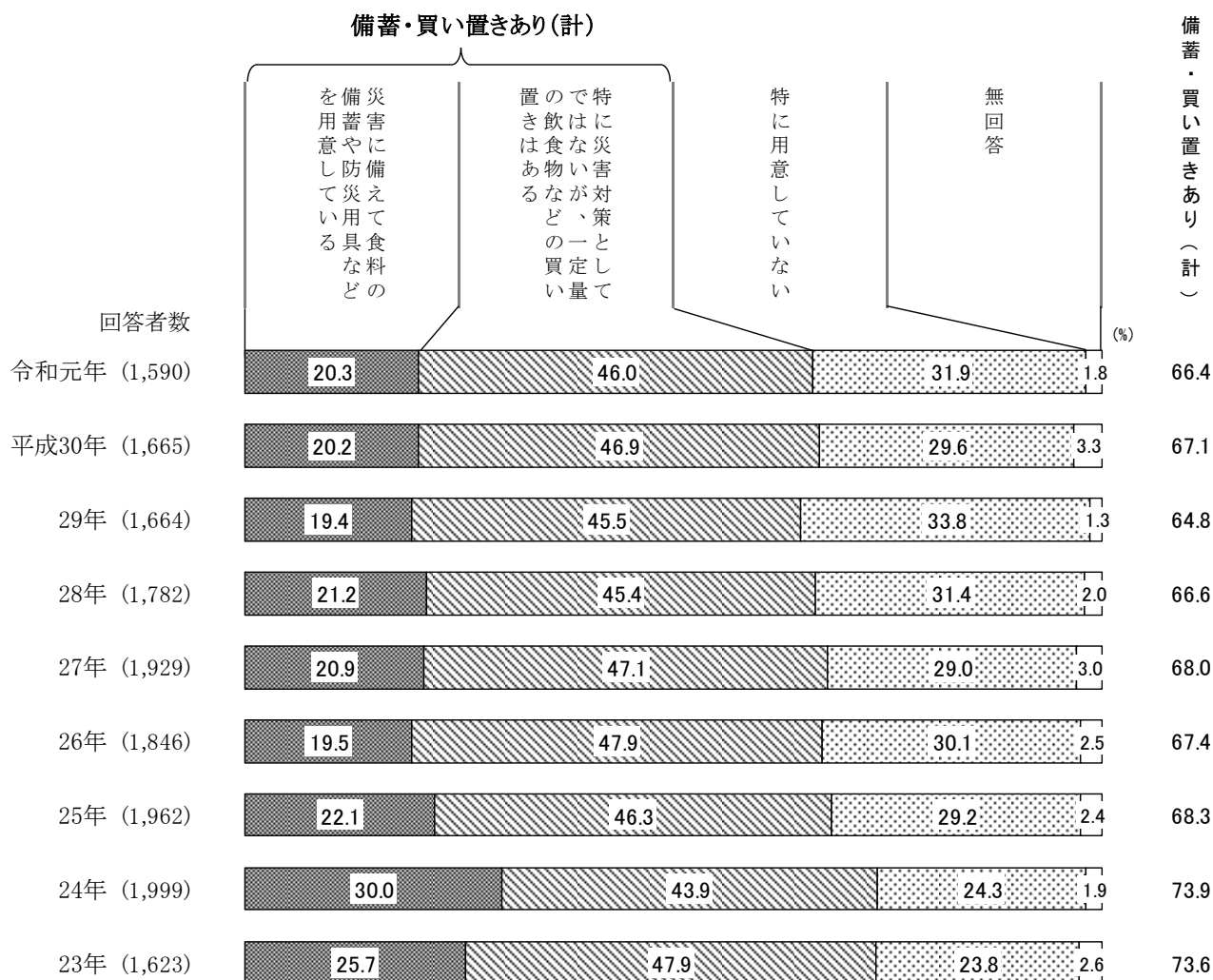
## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 備蓄や防災用具などの用意

#### ■ 備蓄・買い置きを用意している人は、3人に2人の割合

問5 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が20.3%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.0%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は66.4%となっている。一方、「特に用意していない」は31.9%となっている。

経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」と「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は今回66.4%と、平成30年調査（67.1%）に比べて0.7ポイントながら僅かに減少している。

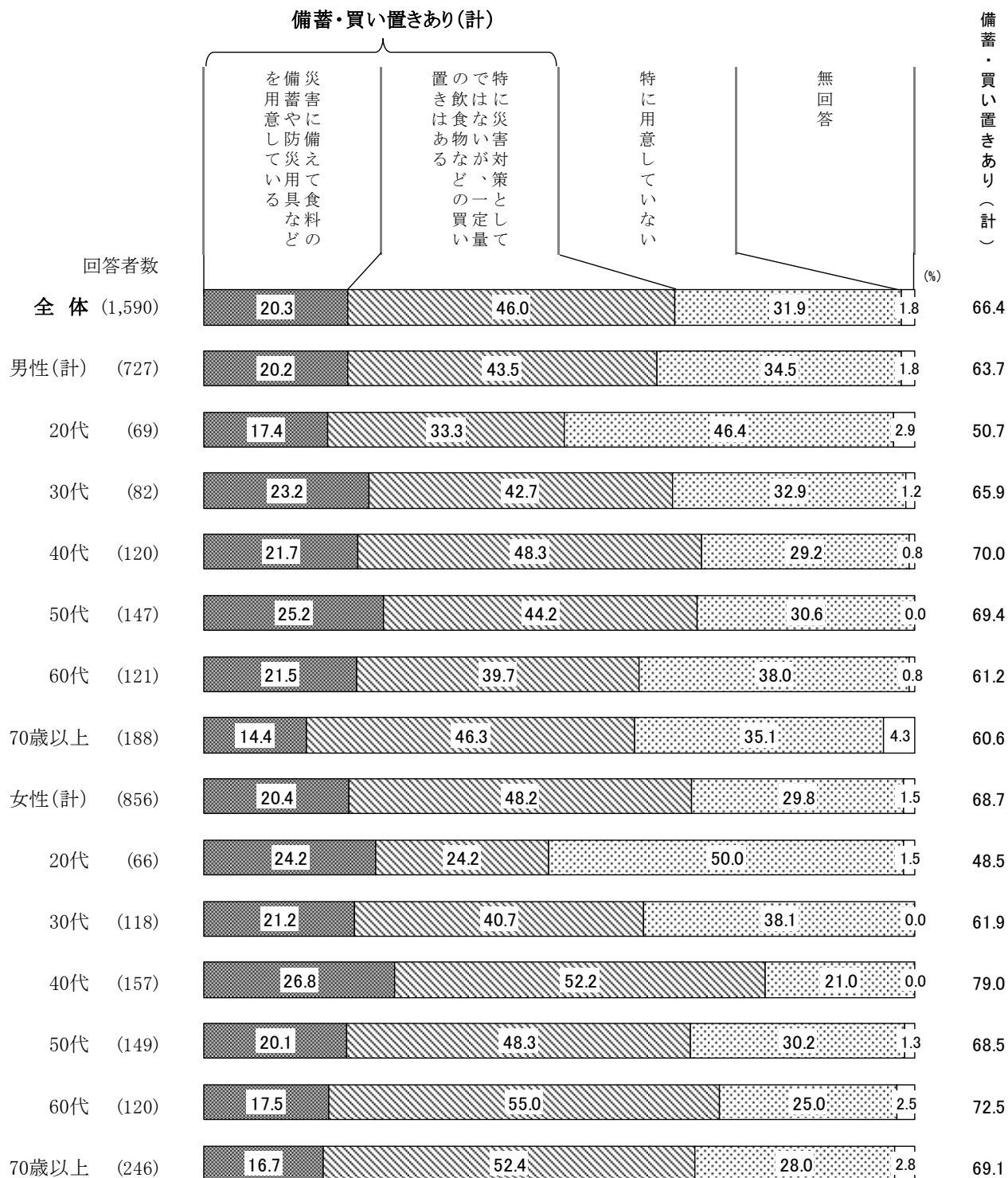
第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

性別でみると、女性では【備蓄・買い置きあり】が68.7%と、男性（63.7%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男性では、20代で「特に用意していない」が46.4%と高くなっている。

女性では、40代で【備蓄・買い置きあり】が79.0%と高くなっている。一方、20代で「特に用意していない」が50.0%と他の年代に比べて高くなっている。

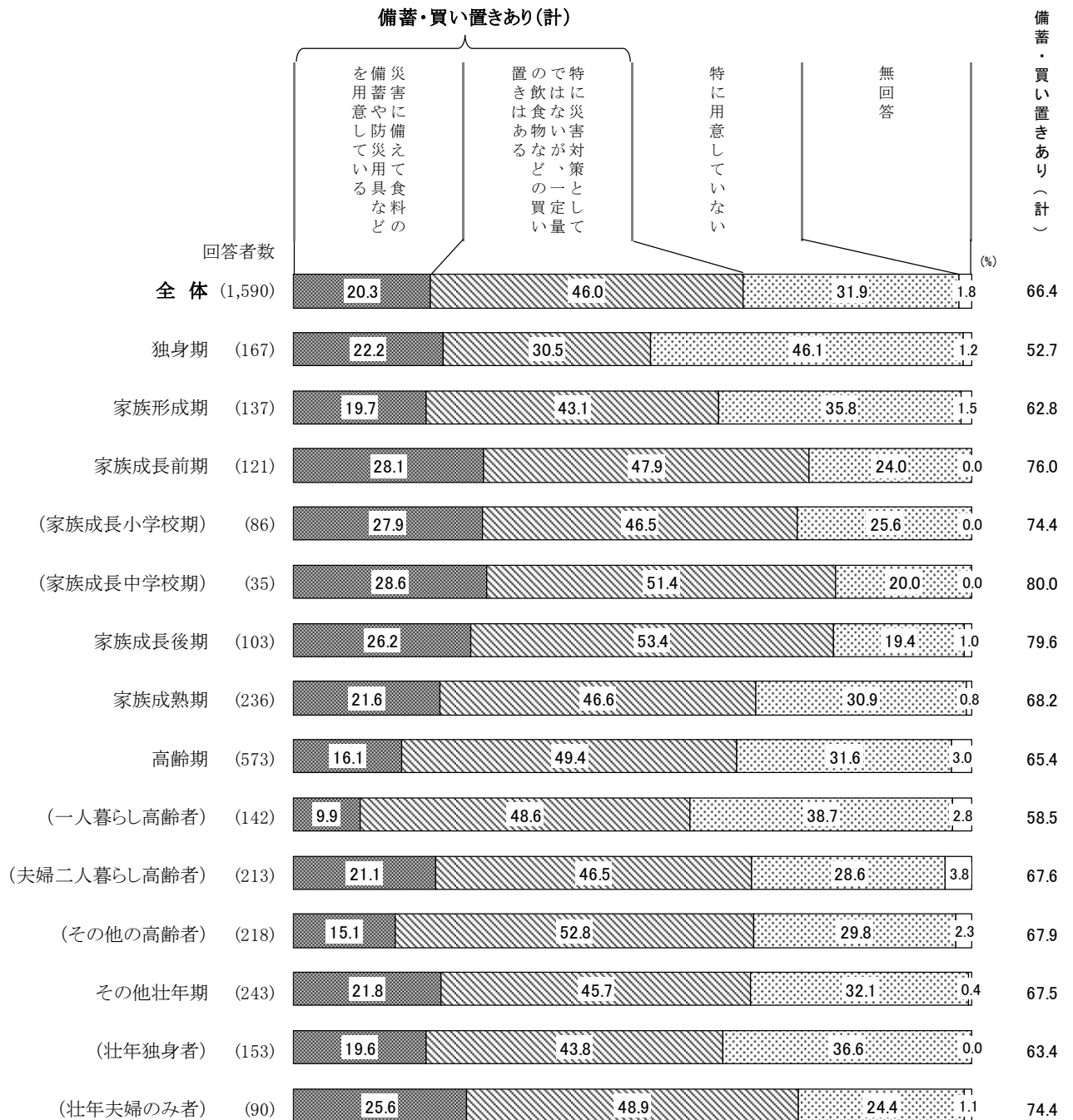
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意





ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は家族成長後期で79.6%と最も高く、家族成長前期（76.0%）がこれに続くが、独身期では52.7%で最も低くなっている。

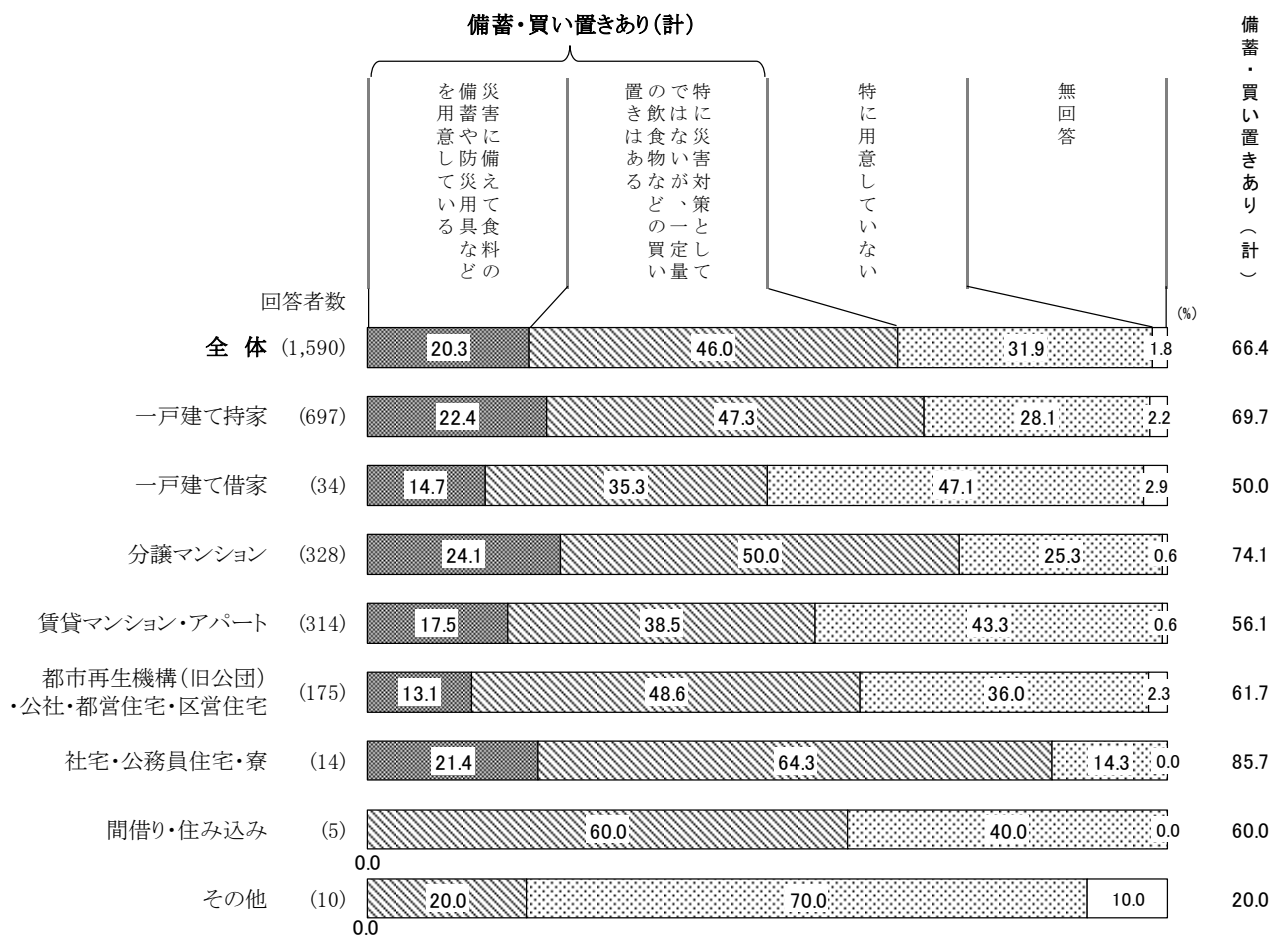
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、分譲マンションでは【備蓄・買い置きあり】が74.1%と、他の住居形態に比べて高くなっている。一方、一戸建て借家、賃貸マンション・アパートでは「特に用意していない」がそれぞれ47.1%、43.3%と高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 「水」が9割弱、「食料」が8割、「あかり」が7割台後半で上位

問5で「1. 災害に備えて～」、または「2. 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に  
 問5-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください  
 (〇はあてはまるものすべて)。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

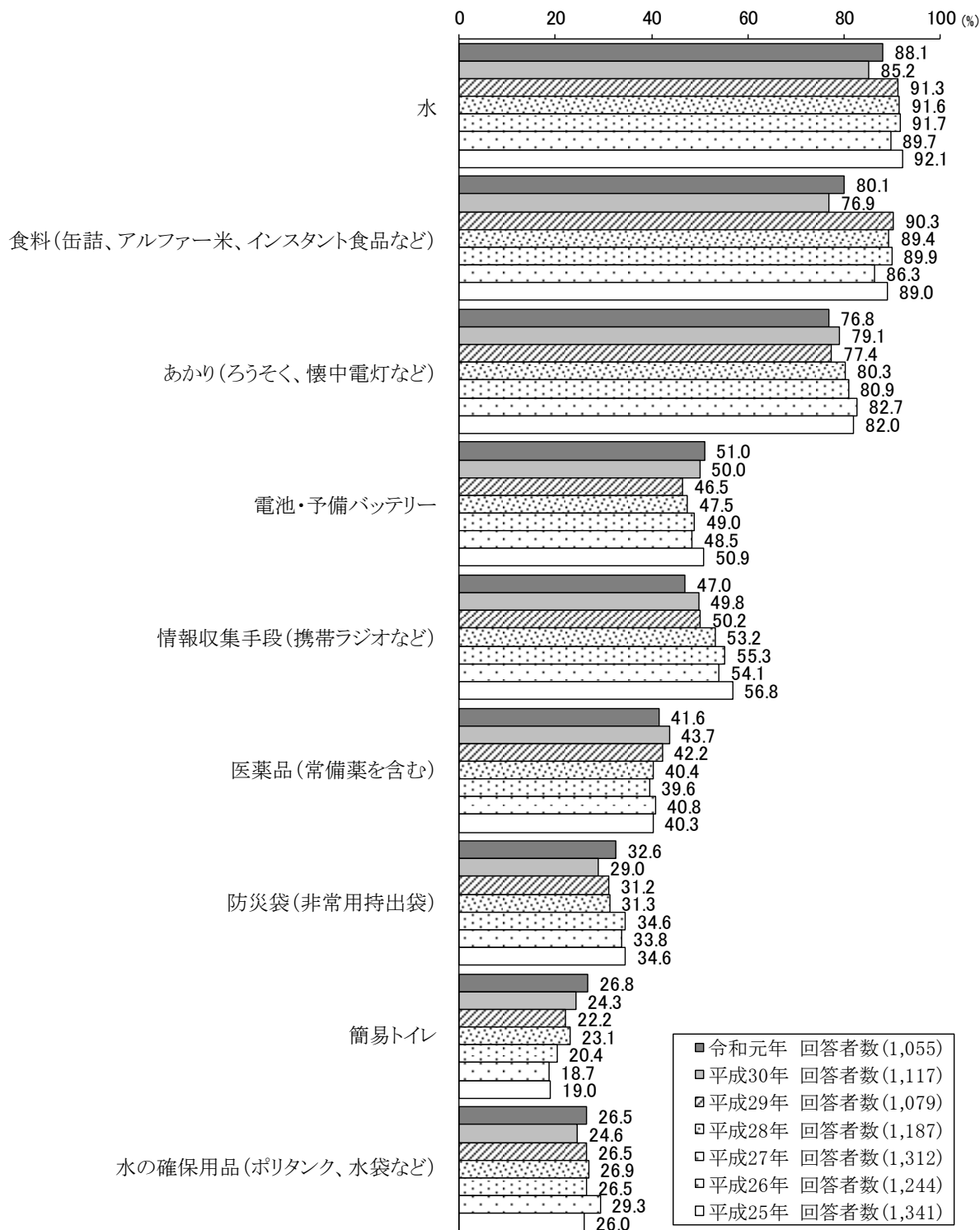
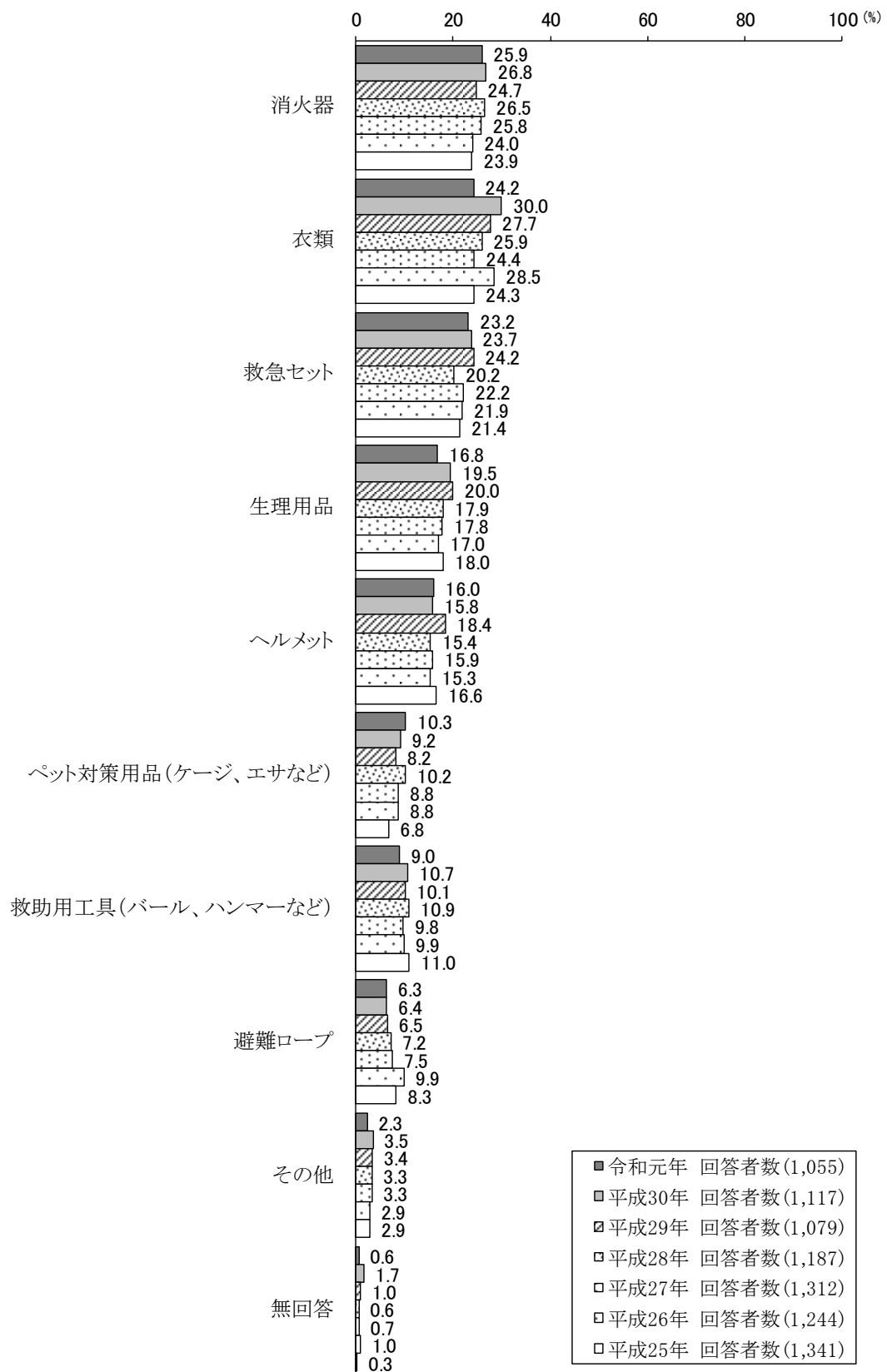


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】という人に、その内容を聴いたところ、「水」が88.1%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（80.1%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（76.8%）の順となっている。

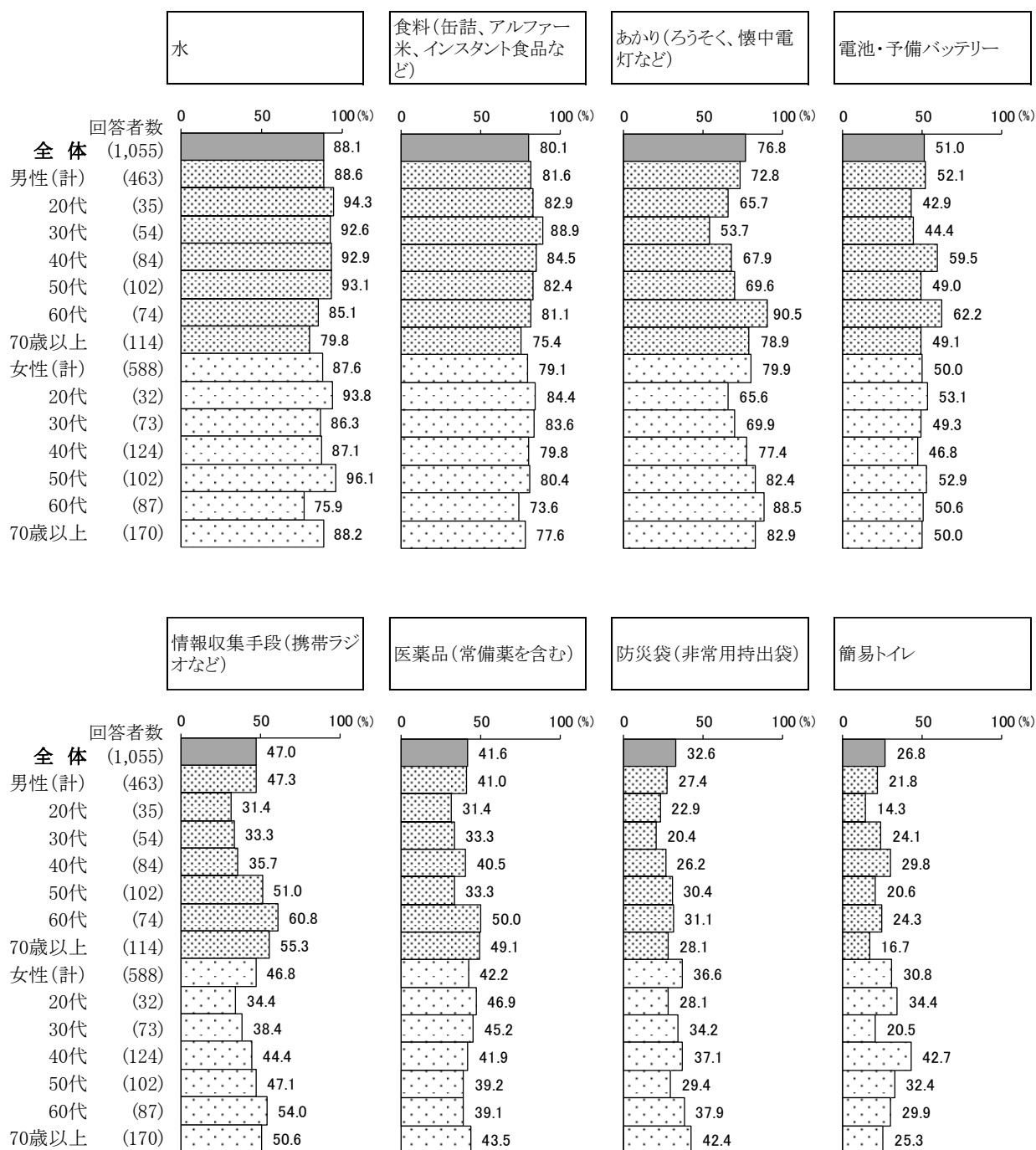
経年でみると、平成25年から前回平成30年までの調査と同様に、「水」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が上位3項目に挙げられるものの、今回の調査では「水」（88.1%）は前回に比べて2.9ポイント増加、前回減少幅の大きかった「食料」（80.1%）は前回より3.2ポイント増加して、前回より2.3ポイント減少した「あかり」（76.8%）を上回っており、「食料」は前回の3位から順位を1つ上げて、平成29年以前の2位に順位を戻している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

上位項目を中心に、性別でみると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」では男女で大きな違いはみられないが「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」では女性（79.9%）の方が男性（72.8%）より高くなっている。

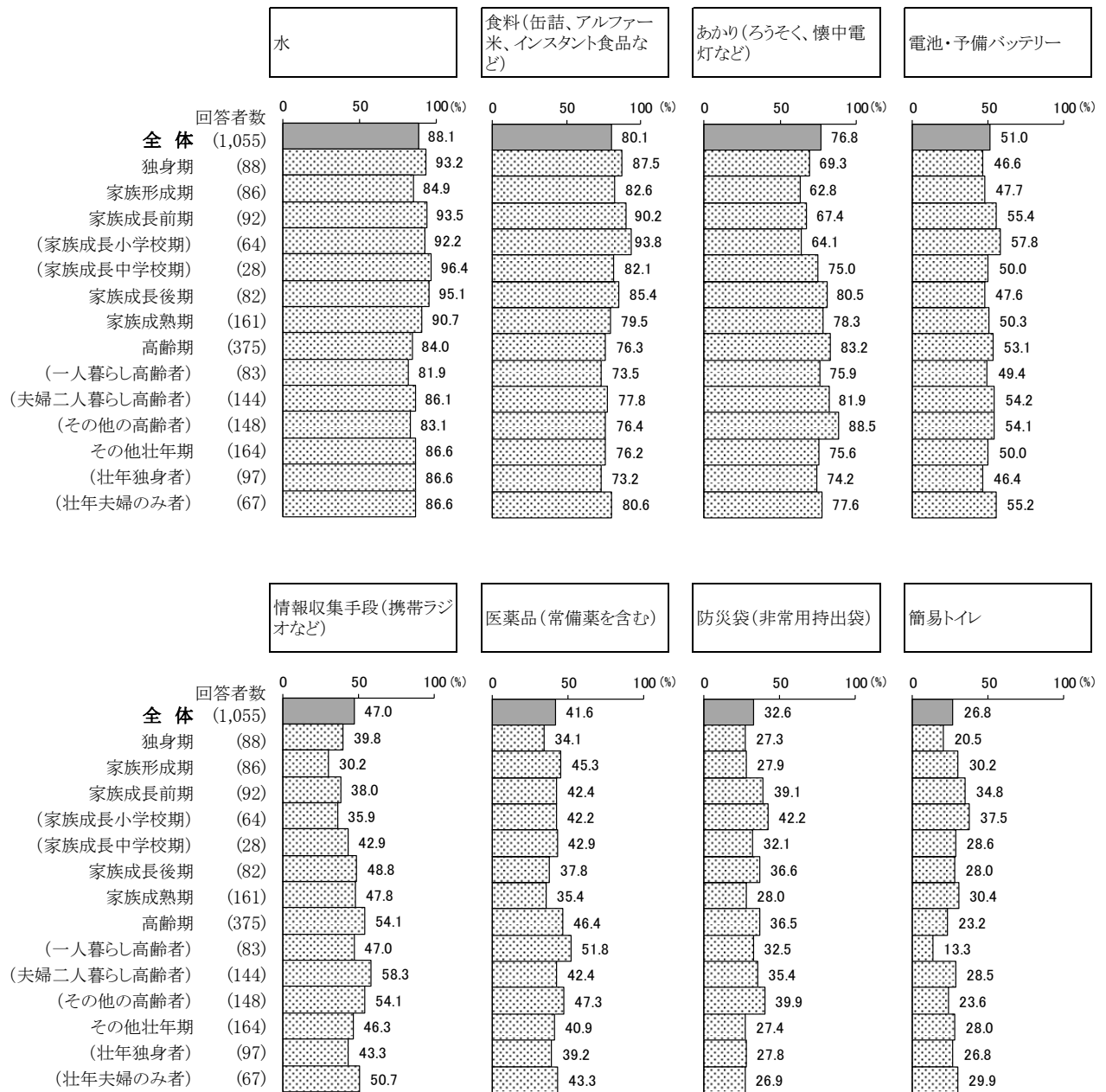
性・年代別でみると、男性では、「水」は20代から50代までの各年代で9割を超えて高く、「食料」は30代で9割弱と最も高くなっている。一方、60代は「あかり」「電池・予備バッテリー」「情報収集手段（携帯ラジオなど）」などで高い。女性では、「水」で50代が9割台半ばに達して最も高く、「あかり」は60代で9割弱と高くなっている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別で見ると、「水」と「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は家族成長前期と家族成長後期の両層で全体に比べて高く、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」と「情報収集手段（携帯ラジオなど）」は高齢期で高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目

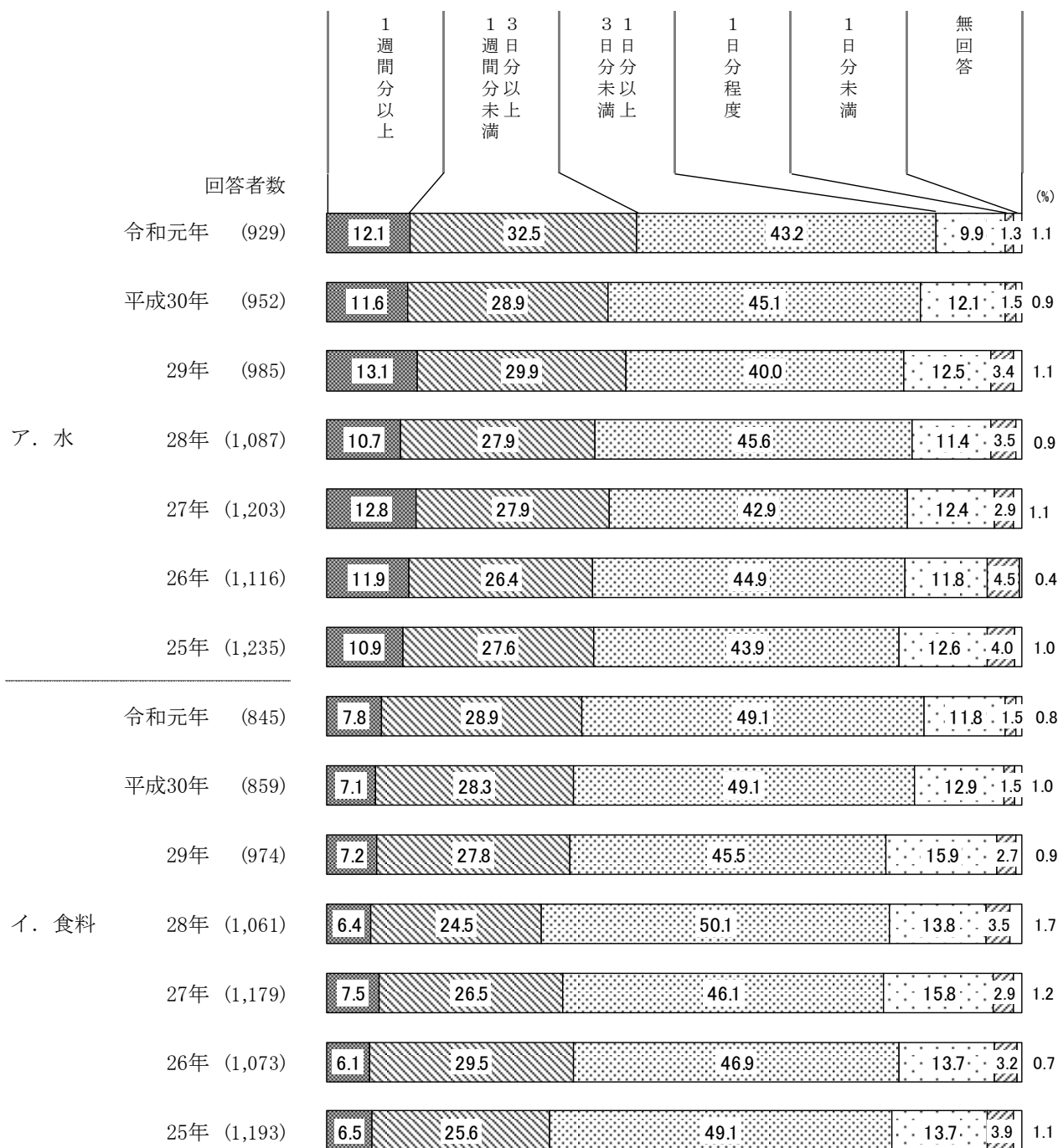


(3) 備蓄量

■ 備蓄ありの人の中で、3日以上の備蓄ありは、〈水〉で4割台半ば、〈食料〉で3割台半ば

問5-1で「1. 水」、または「2. 食料」とお答えの方に  
 問5-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。  
 「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です  
 (〇はそれぞれ1つずつ)。  
 ※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量





「水」か「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」を備蓄している人に、それぞれの備蓄量を聞いたところ、〈水〉については「1日分以上3日分未満」が43.2%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（32.5%）となっている。

一方、〈食料〉については「1日分以上3日分未満」が49.1%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」（28.9%）となっている。

経年でみると、「1日分以上3日分未満」は、〈食料〉では前回と同率で変わらず、〈水〉では前回に比べて1.9ポイント減少している。一方、「1週間分以上」と「3日分以上1週間分未満」を合わせた3日分以上の備蓄を持つ人は、〈水〉では前回より4.1ポイント増加し、〈食料〉でも1.3ポイントと僅かながら増加となっている。

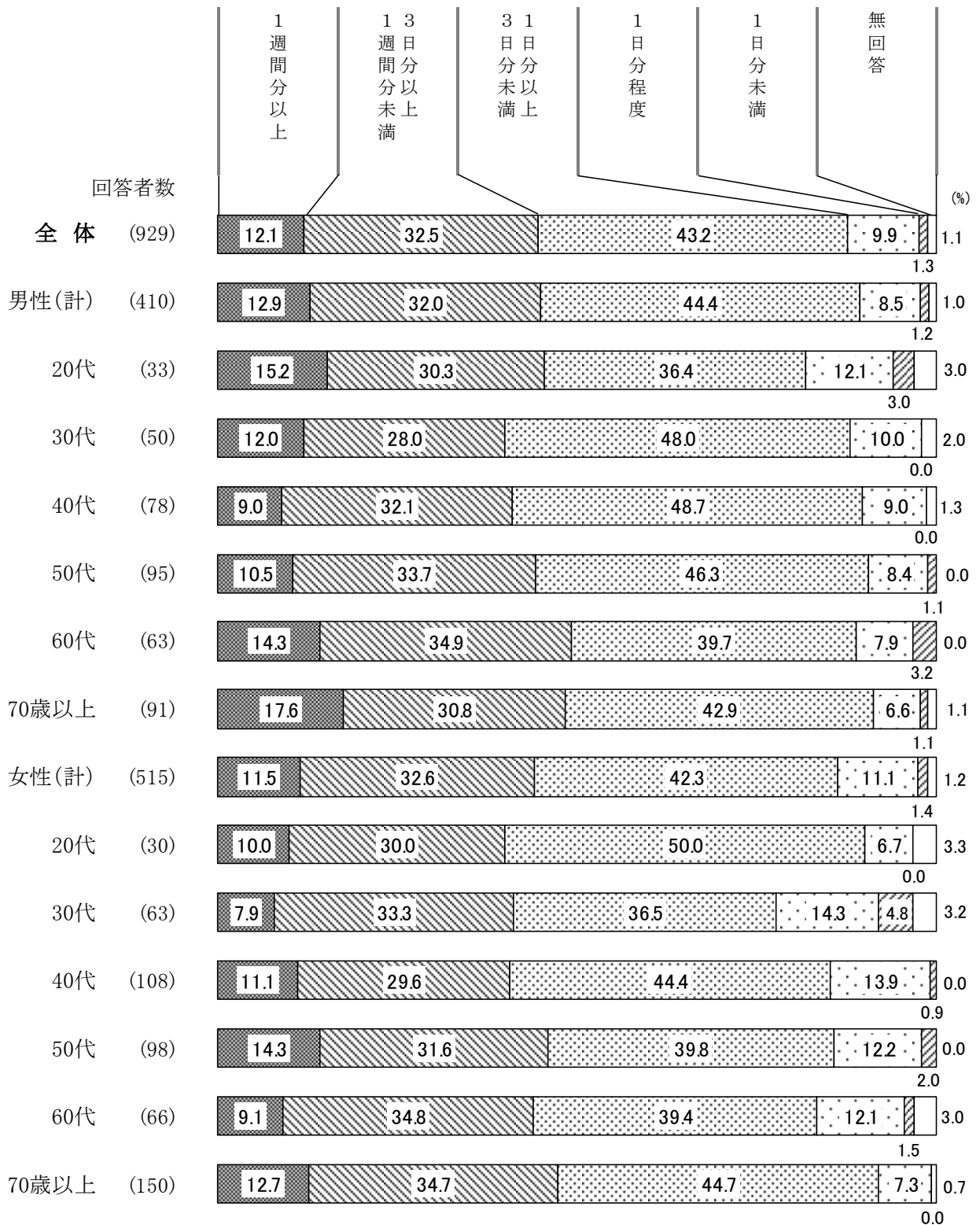
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

水の備蓄量を性別で見ると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で見ると、男性では、30代から50代の3年代層で「1日分以上3日分未満」がそれぞれ4割台後半で多く、3日分以上の備蓄を持つ人の割合を上回っている。

女性では、20代と40代を除く他の4年代層で3日分以上の備蓄を持つ人の割合が「1日分以上3日分未満」を上回って多くなっている。

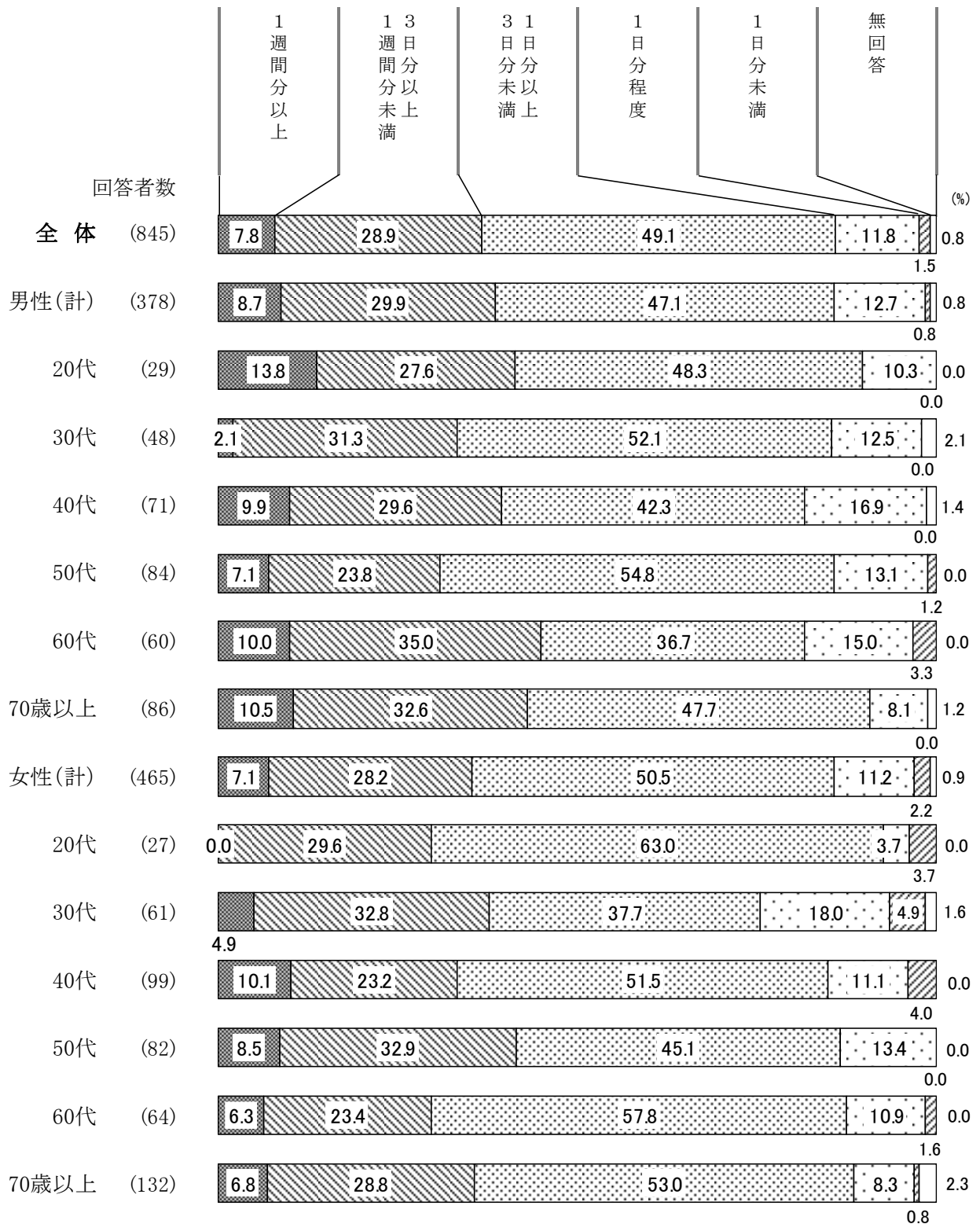
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



食料の備蓄量を性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男女とも、全年代で「1日分以上3日分未満」が最も多くなっているが、男性の60代では3割台半ばで、3日分以上の備蓄を持つ人の割合の方が高くなっている。

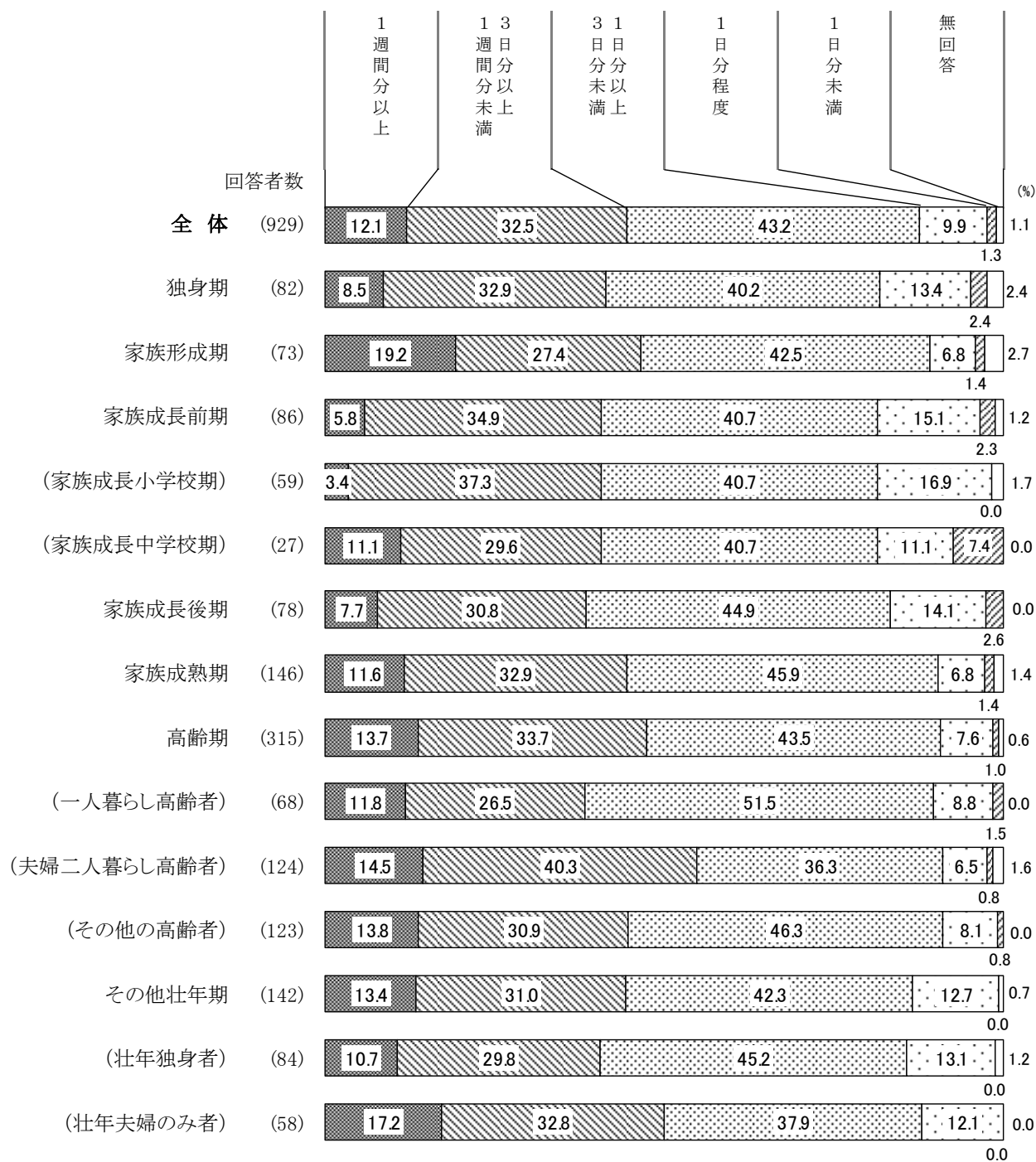
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

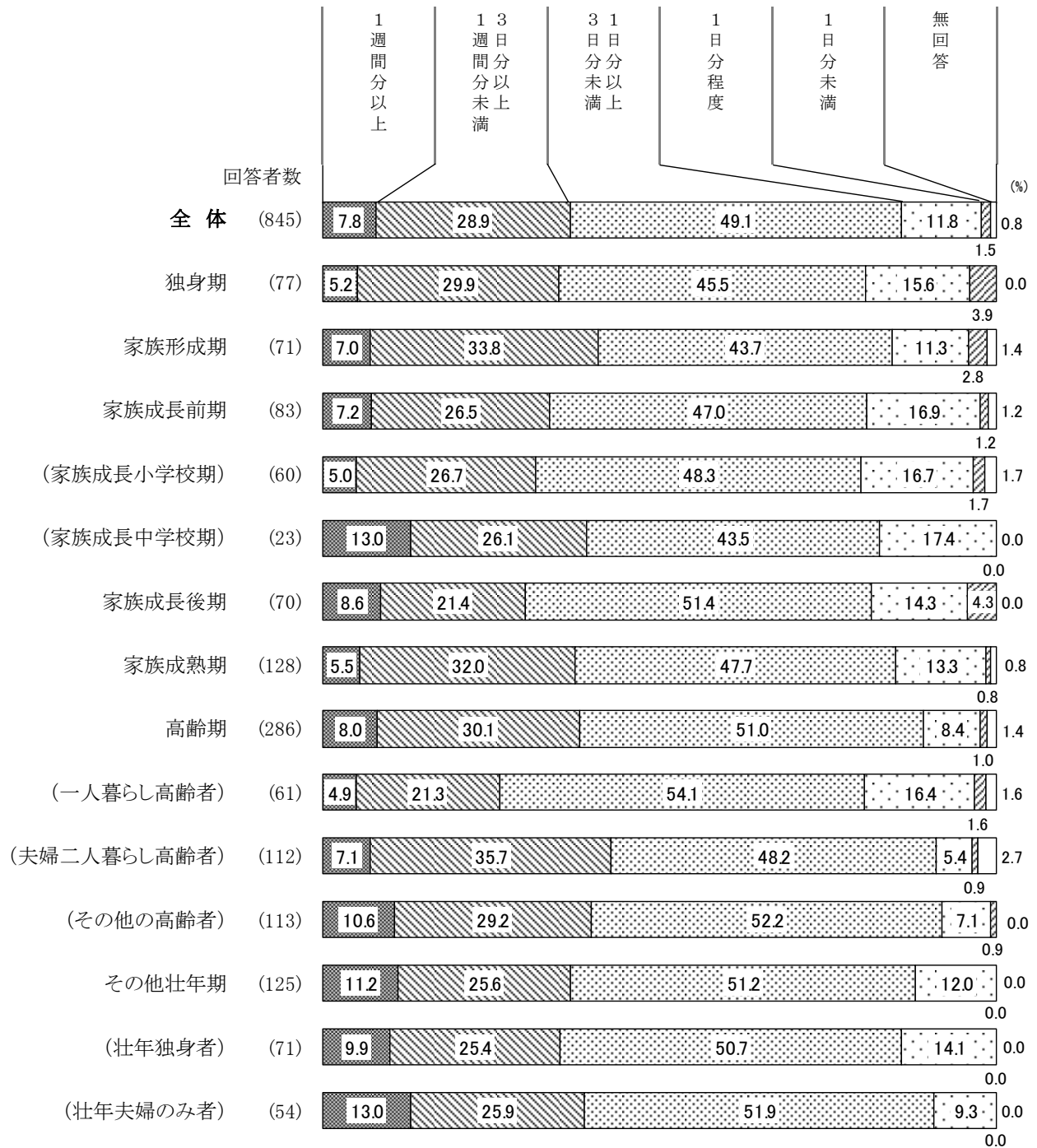
水の備蓄量をライフステージ別で見ると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



食料の備蓄量をライフステージ別にみると、全ステージで「1日分以上3日分未満」が「3日分以上1週間分未満」を上回っている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



(4) 災害発生時の水や食料の確保

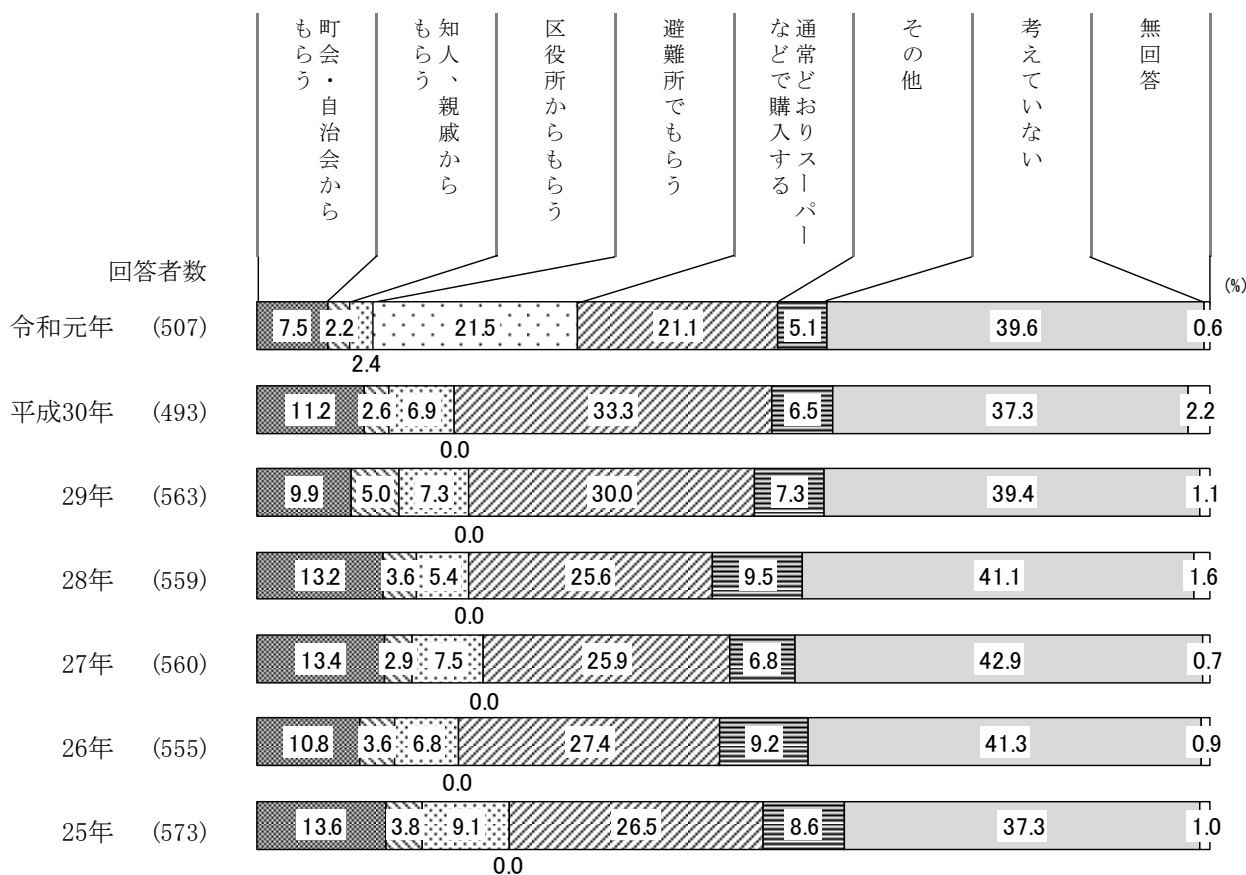
■ 「考えていない」が4割弱で最多だが「避難所でもらう」と「スーパー等で購入」も2割強

問6は、問5で「3. 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問6 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか

(○は1つだけ)。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



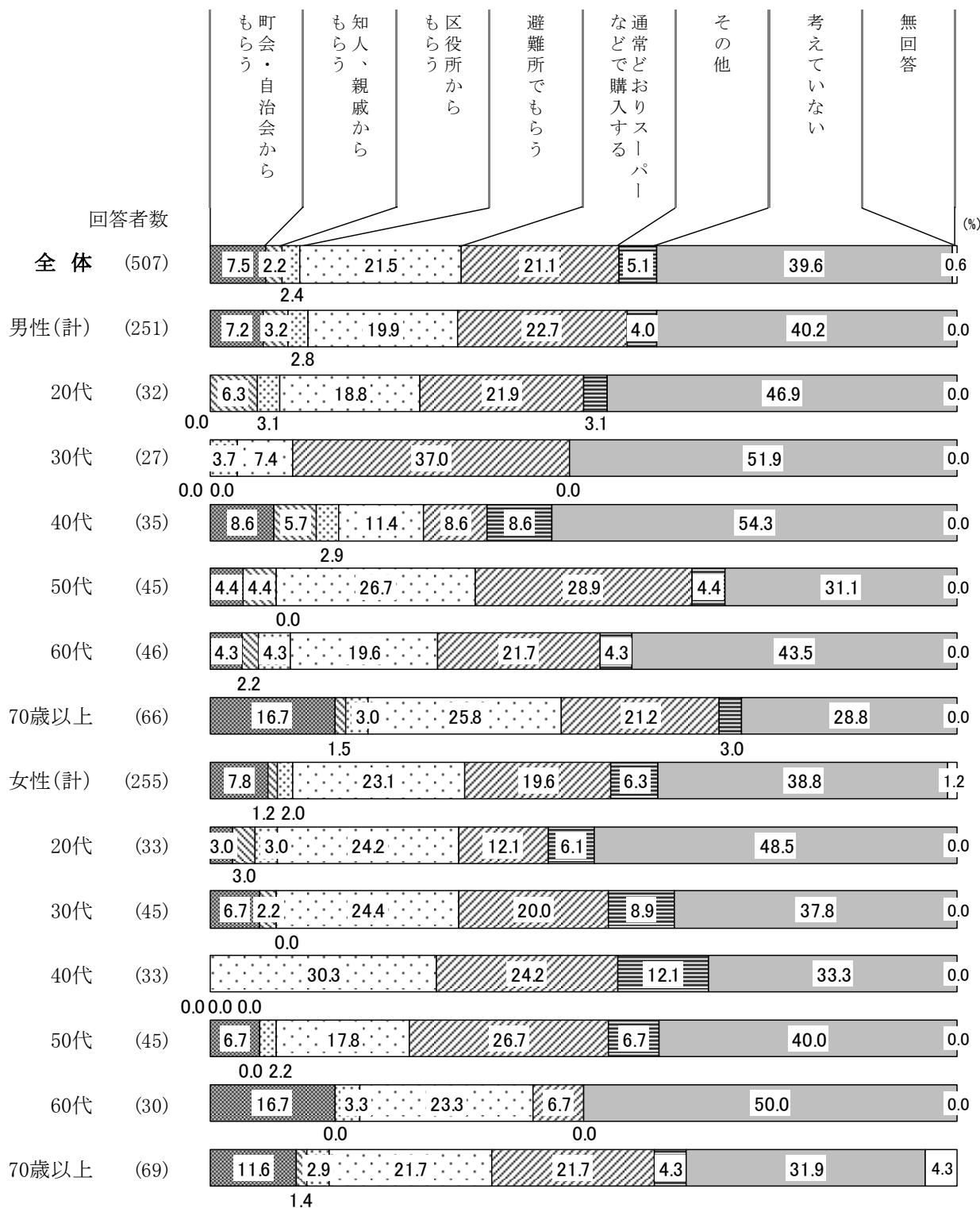
【備蓄・買い置きをしていない】という人に、災害発生時の水や食糧の確保について聞いたところ、今回調査から追加された新設項目の「避難所でもらう」(21.5%)と「通常どおりスーパーなどで購入する」(21.1%)の2項目がともに2割強で並んで多くなっており、次いで「町会・自治会からもらう」(7.5%)が1割弱となっている。一方、「考えていない」が39.6%で4割弱を占めている。

経年でみると、新設の「避難所でもらう」が2割強を占めている影響を受けて、前回に比べて「通常どおりスーパーなどで購入する」が12.2ポイント減少し、「町会・自治会からもらう」と「区役所からもらう」もそれぞれ4ポイント程度減少しているが、「考えていない」は前回より微増している。

性別でみると、男女で大きな違いはみられないが、新設の「避難所でもらう」は男性（19.9%）より女性（23.1%）の方が高くなっている。

性・年代別でみると、男性の30代で「通常どおりスーパーなどで購入する」（37.0%）が高く、新設の「避難所でもらう」は女性の40代（30.3%）と男性の50代（26.7%）と70歳以上（25.8%）でそれぞれ高くなっている。

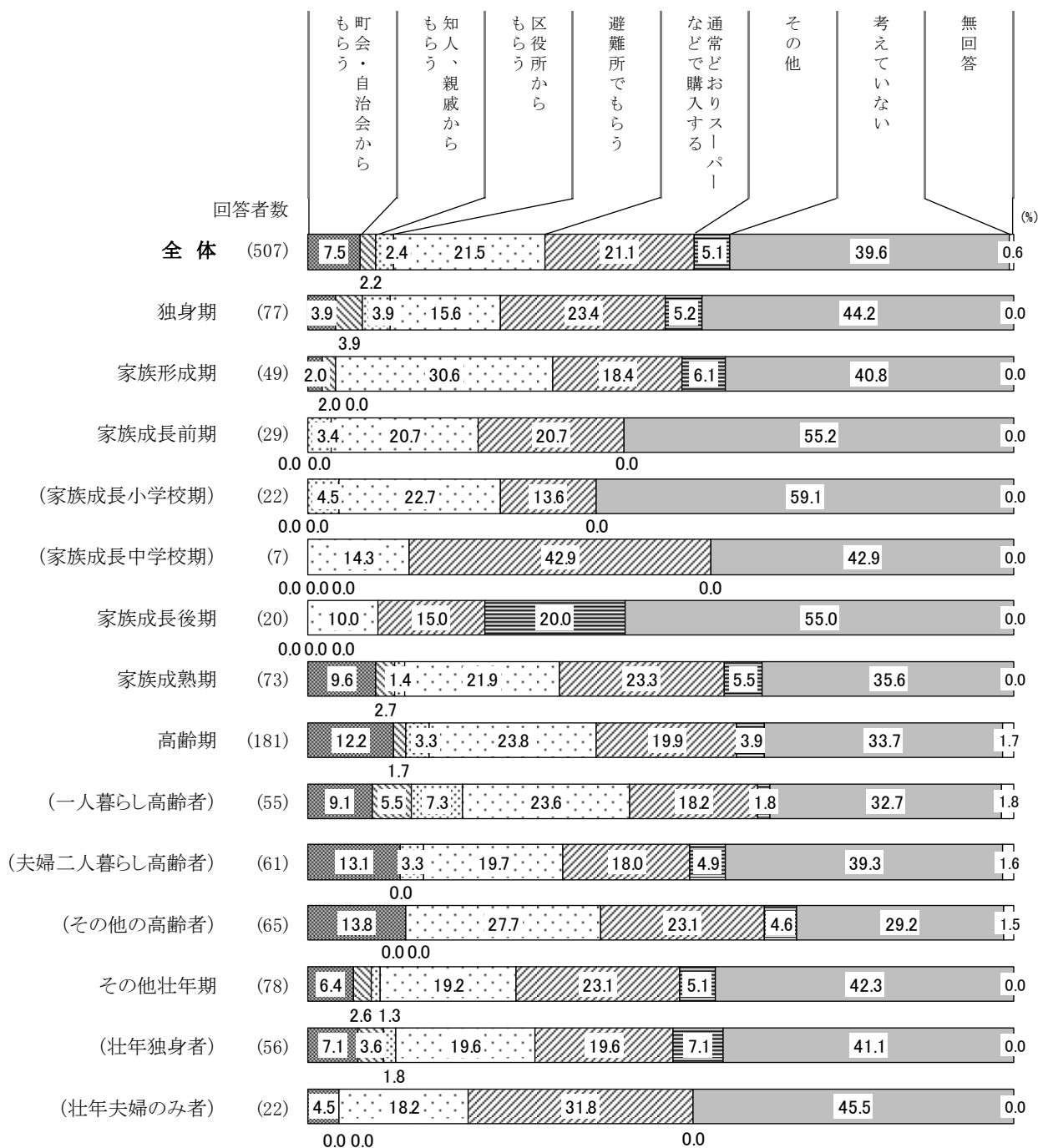
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

ライフステージ別で見ると、家族成長前期と家族成長後期で「考えていない」がともに5割台半ばと高く、新設の「避難所でもらう」は家族形成期で3割を超えて高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



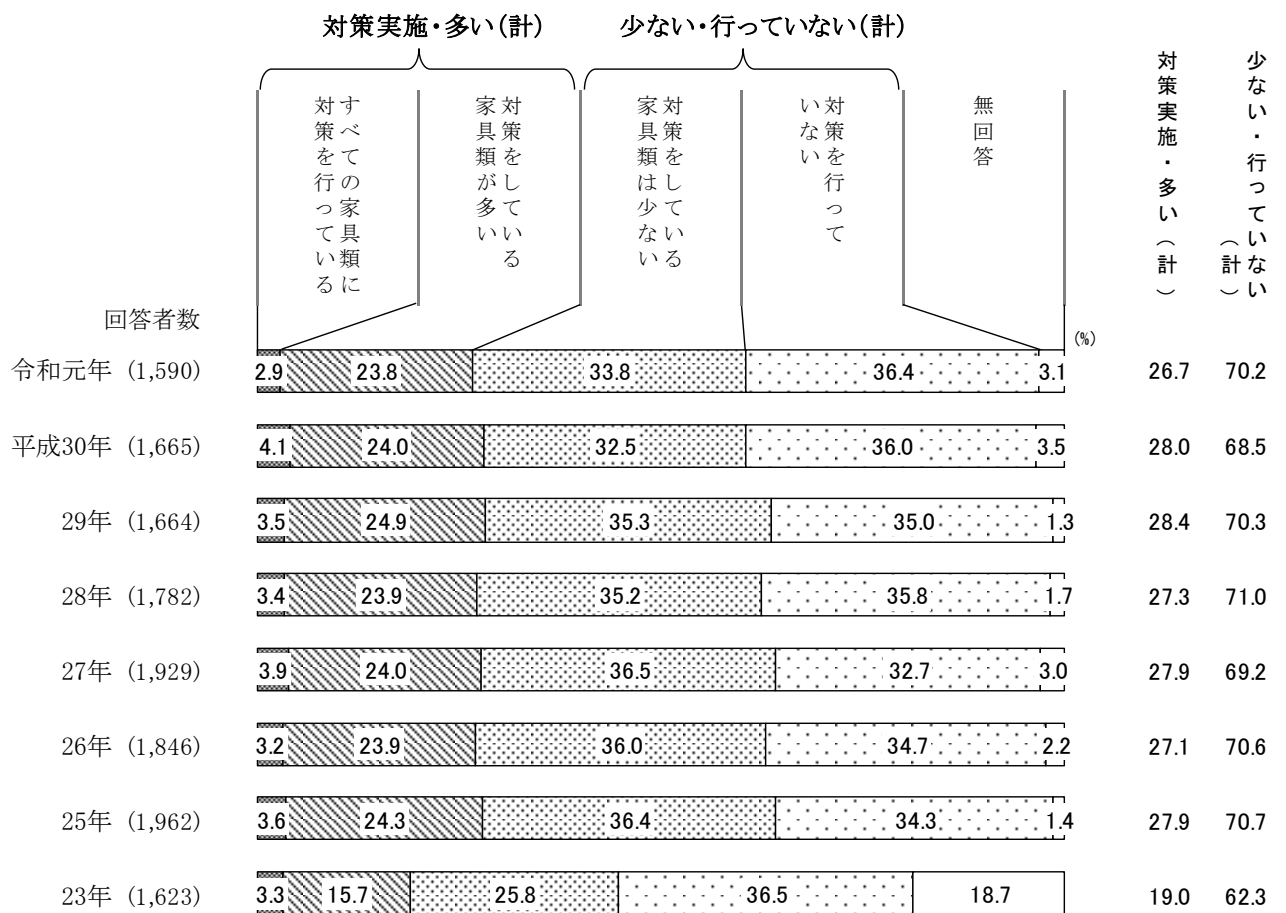


(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■ 対策は少ない・行っていない人が7割

問7 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類(※)の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか(○は1つだけ)。  
 ※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較/家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は2.9%で、これに「対策をしている家具類が多い」の23.8%を合わせた【対策実施・多い】は26.7%となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は33.8%、「対策を行っていない」は36.4%で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は70.2%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は、平成25年以降各年2割台後半で横ばい状態となっている。また、【少ない・行っていない】は、平成25年以降各年7割前後でほぼ横ばいながら、今回の調査では前回に比べて僅かに増加している。

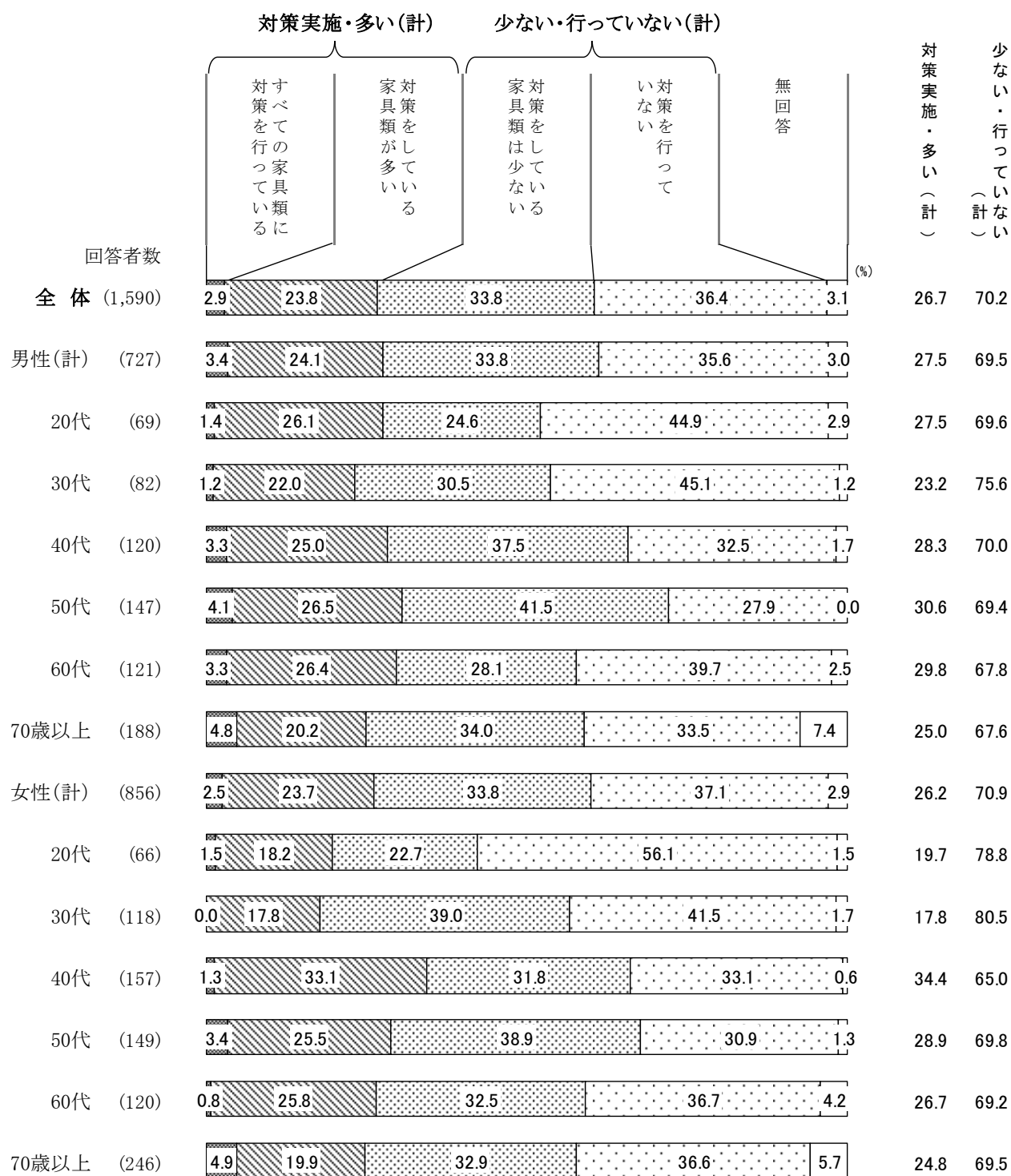
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、50代で【対策実施・多い】が3割台と高くなっている一方、30代では【少ない・行っていない】が7割台半ばで高くなっている。

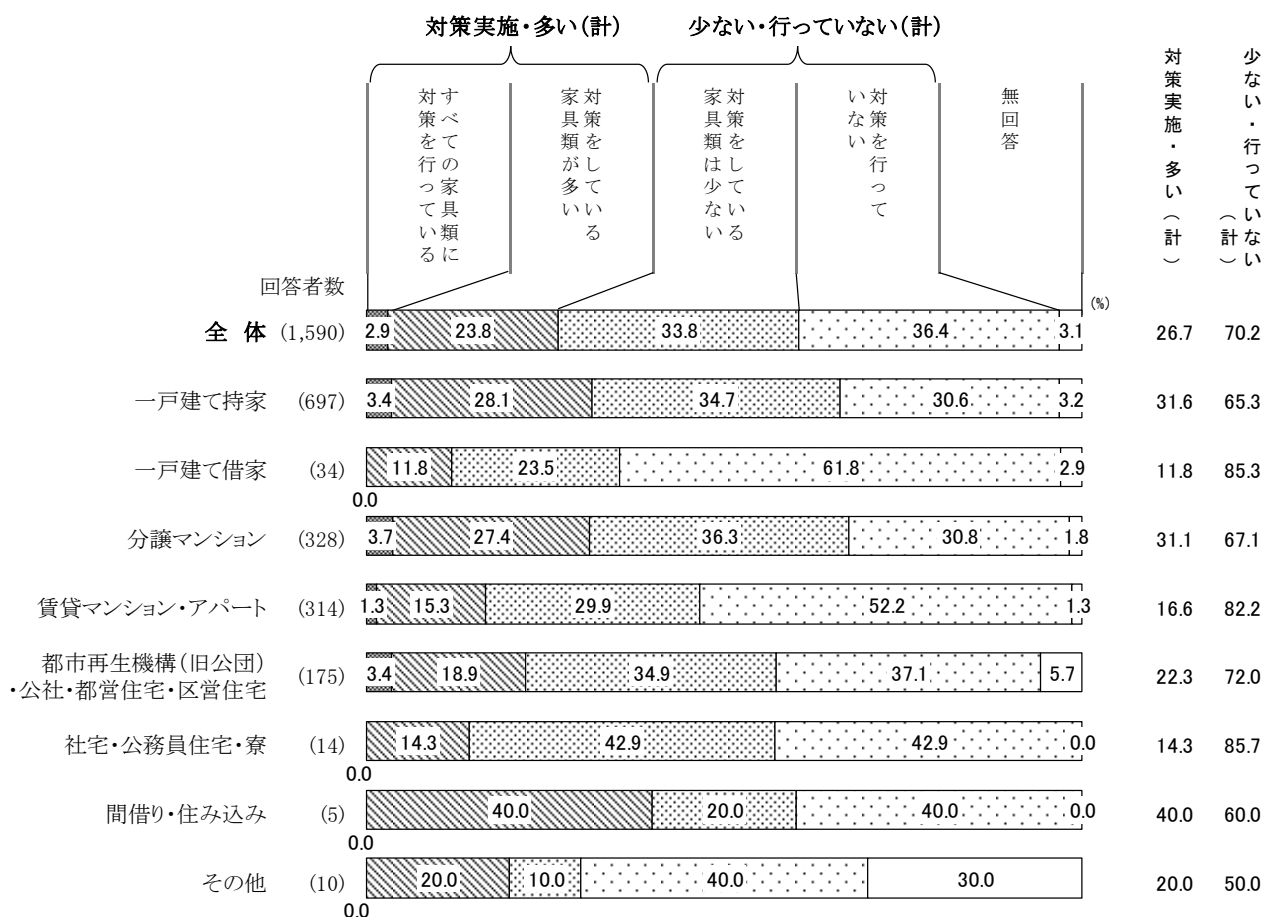
女性では、40代で【対策実施・多い】が3割台半ばと高くなっている一方、30代で【少ない・行っていない】が8割を超えて高くなっている。

図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



住居形態別で見ると、一戸建て持家と分譲マンションでは【対策実施・多い】がそれぞれ31.6%、31.1%と3割を超えて高くなっている。一方、一戸建て借家と賃貸マンション・アパートでは【少ない・行っていない】がそれぞれ85.3%、82.2%と高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

■ 「面倒である」が3割弱で最も高いのは変わらず

問7で「3. 対策をしている家具類は少ない」、または「4. 対策を行っていない」とお答えの方に

問7-1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1-① 経年比較／対策をしていない理由

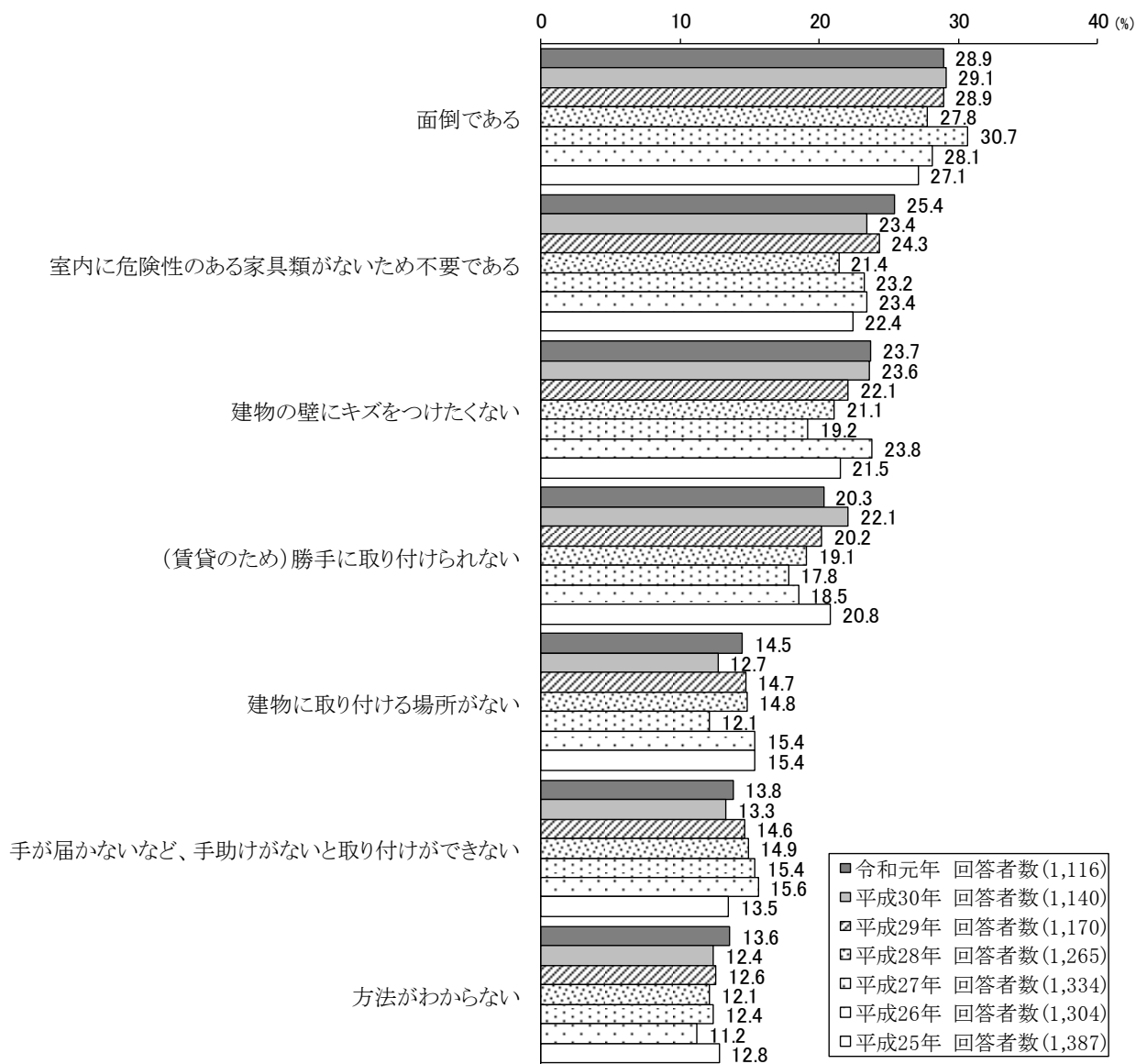
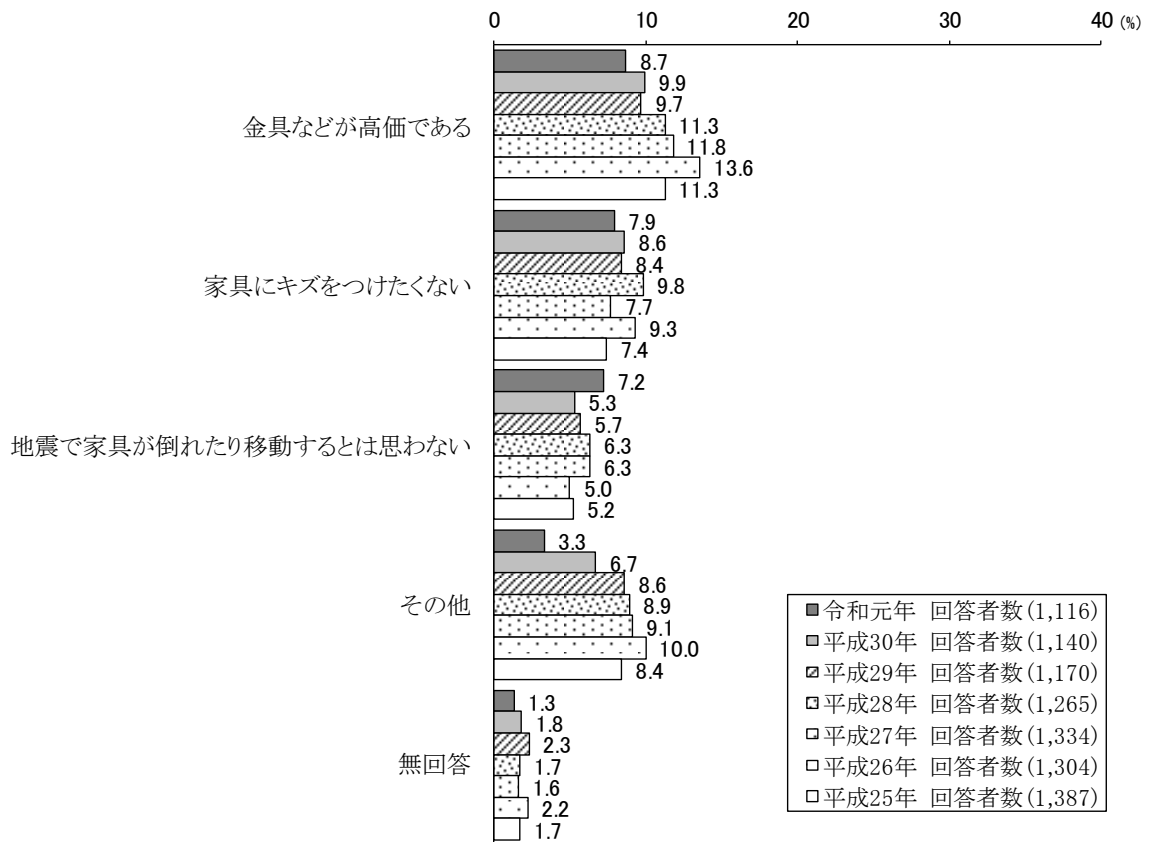


図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



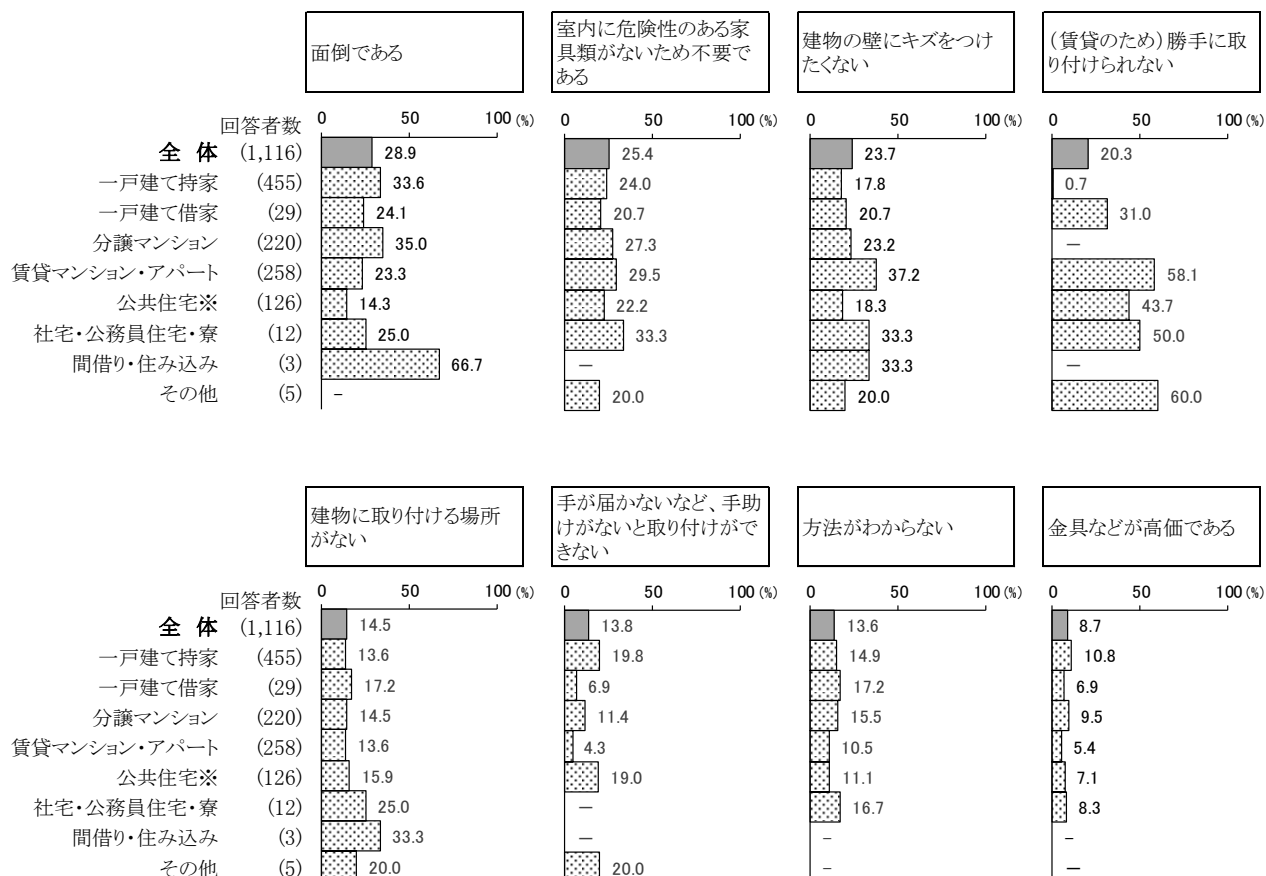
家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が28.9%で最も高く、以下「室内に危険性のある家具類がないため不要である」(25.4%)、「建物の壁にキズをつけたくない」(23.7%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(20.3%)の順となっている。

経年でみると、上位項目の数値に大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、「面倒である」は分譲マンション（35.0%）と一戸建て持家で（33.6%）で高くなっている。一方、賃貸マンション・アパートでは「建物の壁にキズをつけたくない」（37.2%）と「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（58.1%）が高くなっている。なお、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」は一戸建て借家（31.0%）と公共住宅※（43.7%）でも高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



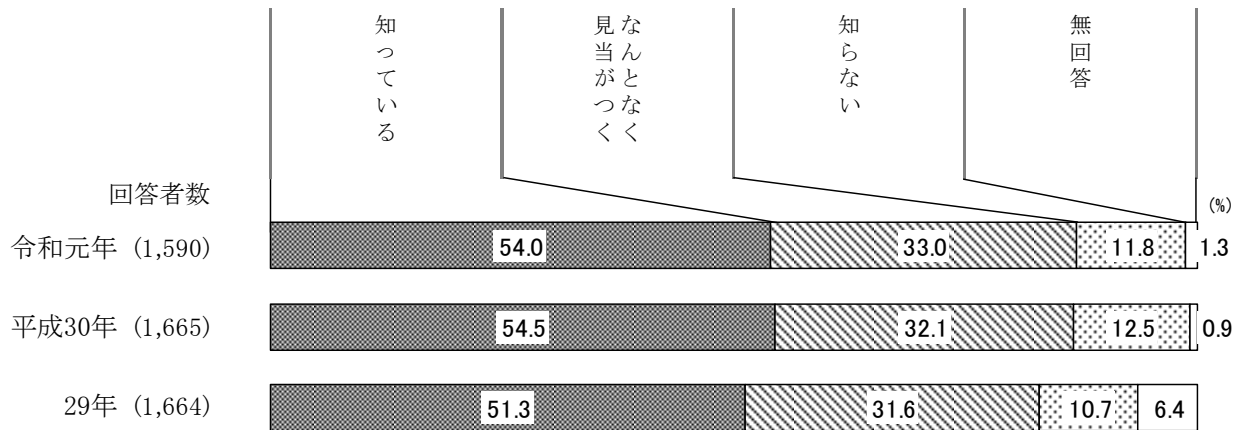
※ 「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

(7) 地域の避難場所の認知

■ 「知っている」が前回同様5割台半ば

問8 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は1つだけ）。

図2-7-1 経年比較／地域の避難場所の認知



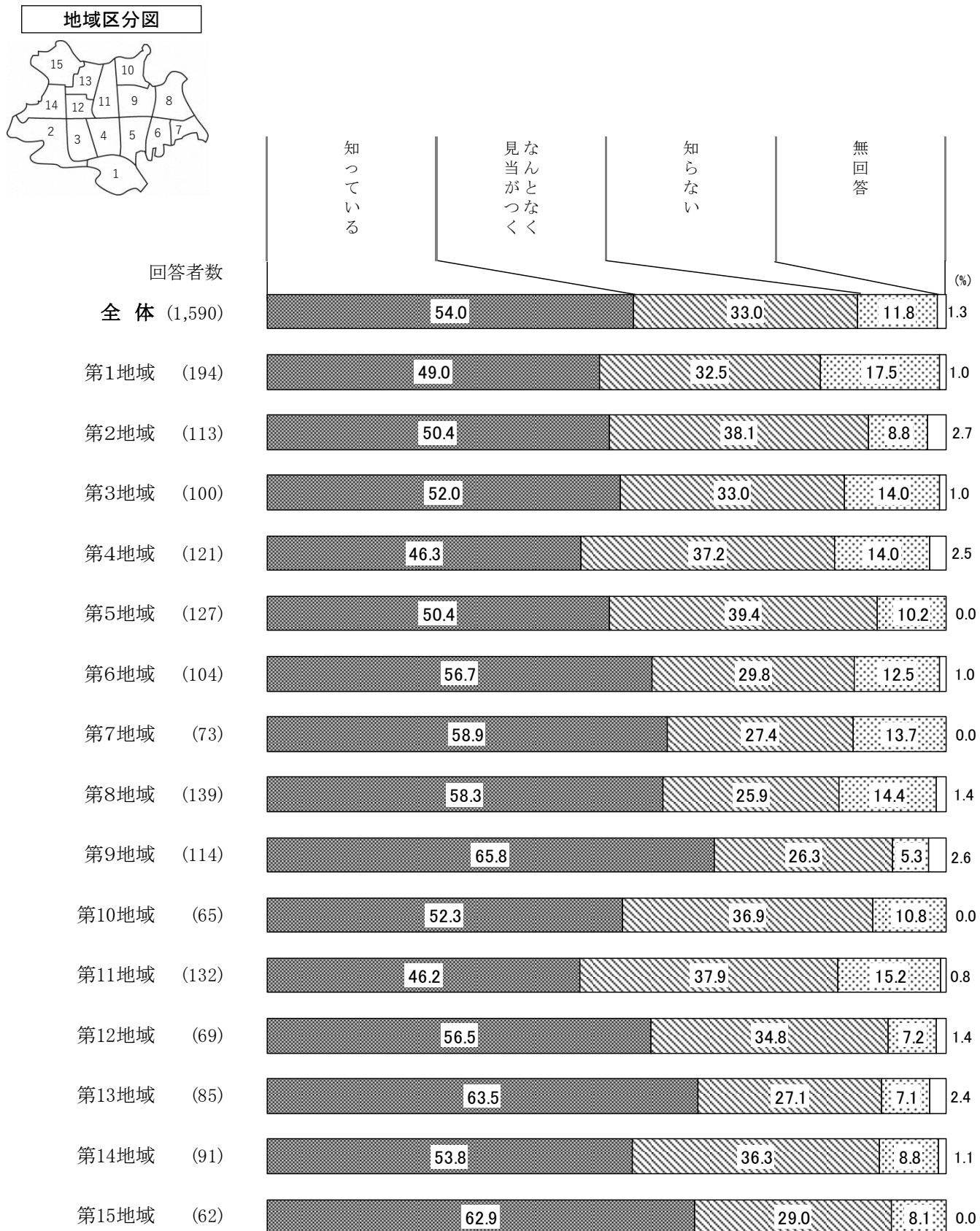
地域の避難場所の認知状況を見ると、「知っている」が54.0%、「なんとなく見当がつく」が33.0%となっている。一方、「知らない」は11.8%となっている。

経年でみても、ほぼ前回と同じ回答分布となっており、違いはみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

地域別でみると、「知っている」は第9地域、第13地域、第15地域でそれぞれ6割を超えて、他の地域より高くなっている。

図2-7-2 地域別／地域の避難場所の認知





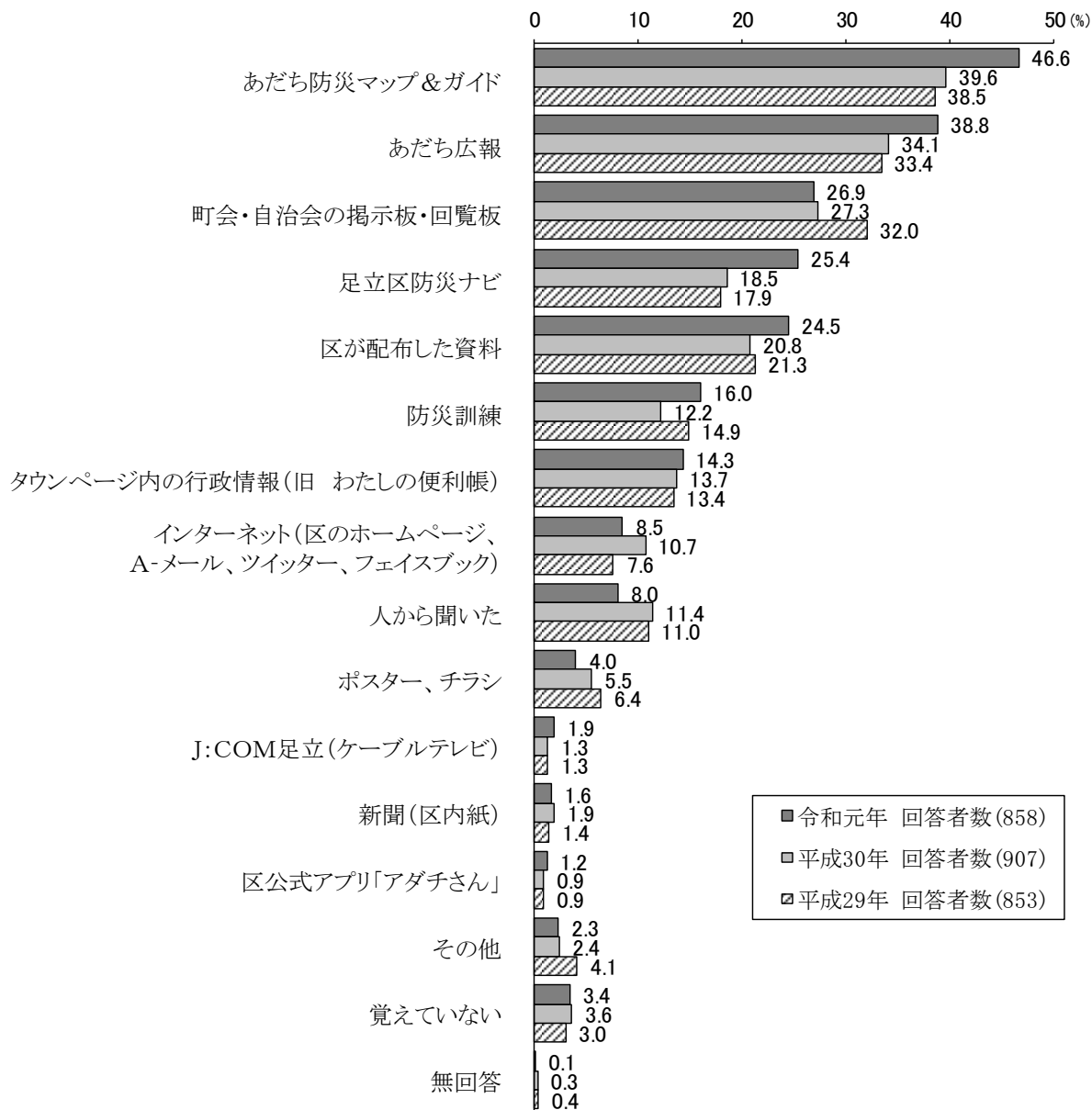
(8) 避難場所の認知経路

■ “防災マップ&ガイド”が5割弱と最も高く“広報”が4割弱で次点

問8で「1. 知っている」とお答えの方に

問8-1 避難場所をどのように知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-8-1 経年比較／避難場所の認知経路



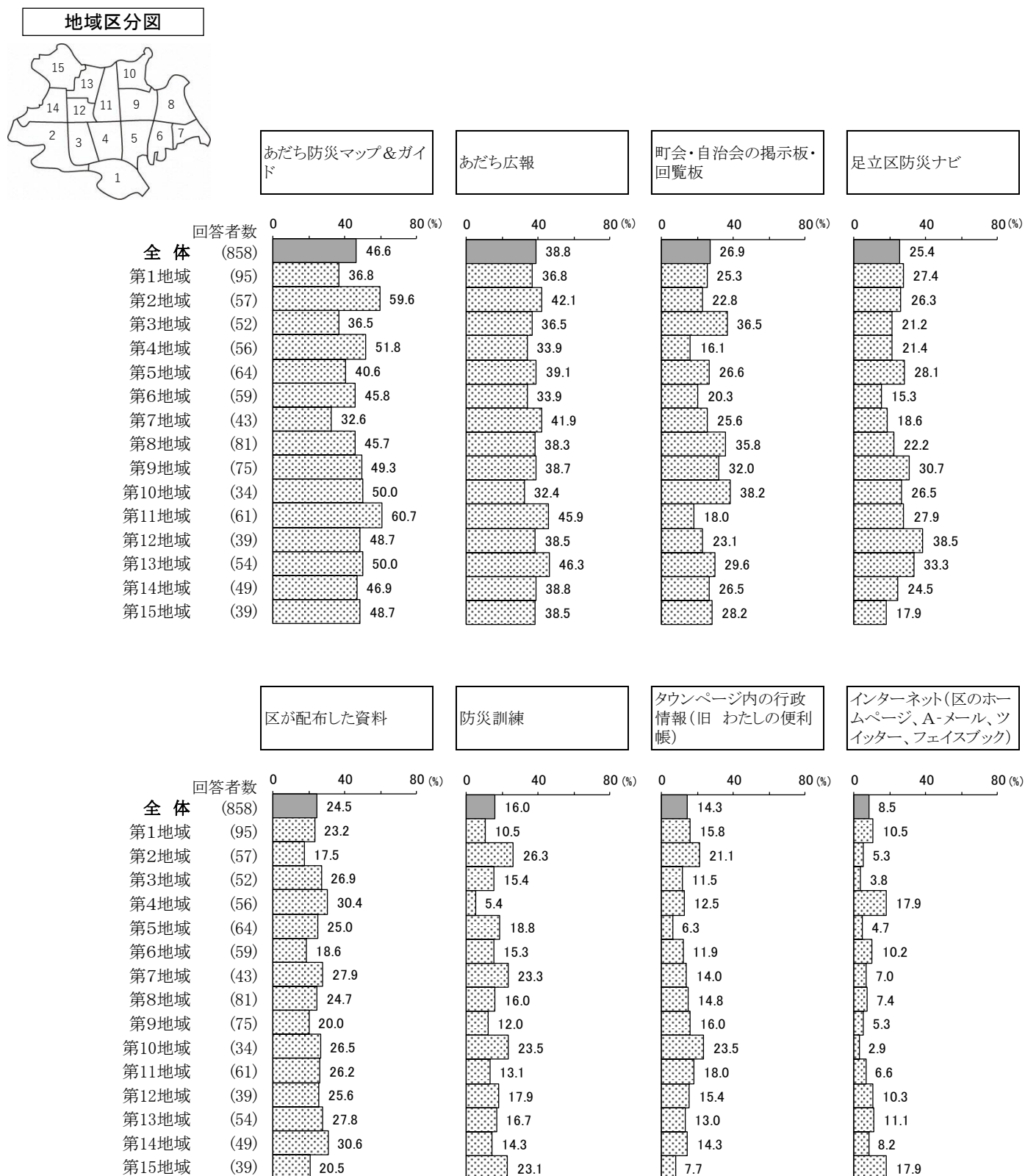
地域の避難場所を認知している人について、その認知経路をみると、「あだち防災マップ&ガイド」が46.6%で最も高く、以下「あだち広報」（38.8%）、「町会・自治会掲示板・回覧板」（26.9%）、「足立区防災ナビ」（25.4%）の順となっている。

経年でみると、上位項目の順位に大きな変動はみられないが、前回に比べて「あだち防災マップ&ガイド」は7.0ポイント増加し、「足立防災ナビ」も6.9ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈 大震災などの災害への備え 〉

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第2地域と第11地域で6割前後と高く、「あだち広報」は第11地域と第13地域で4割台半ばと高くなっている。なお、「町会・自治会掲示板・回覧板」は第3地域、第8地域、第10地域でそれぞれ3割台後半と高くなっている。

図2-8-2 地域別/避難場所の認知経路/上位8項目

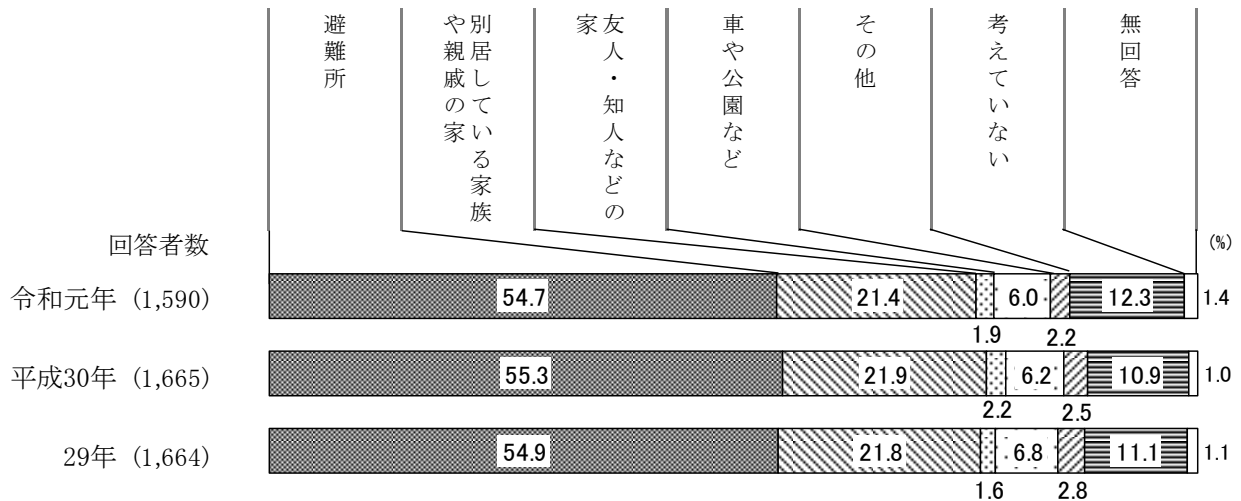


(9) 大規模災害時の避難生活場所

■ 「避難所」が3年続けて5割台半ばを占める

問9 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



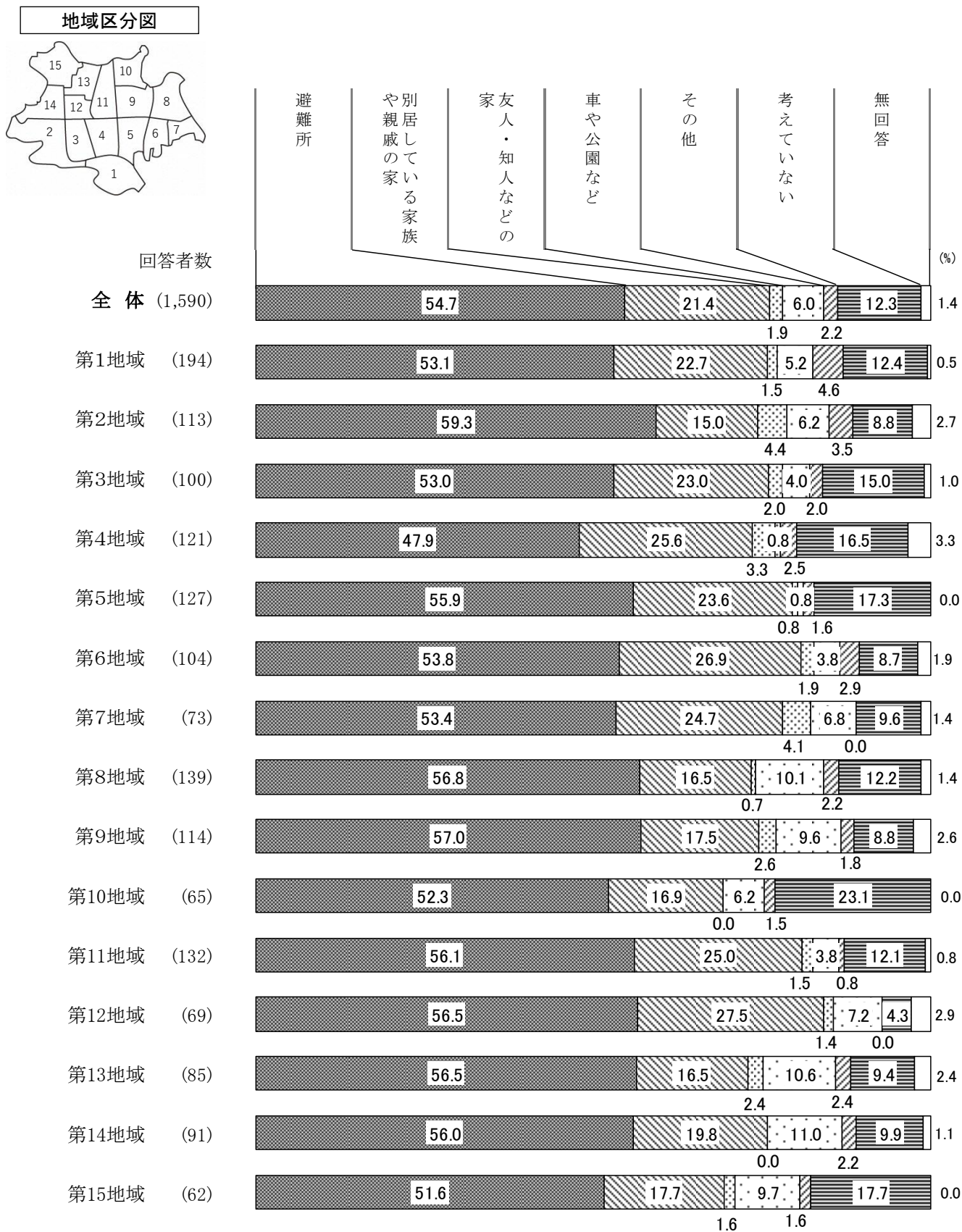
大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が54.7%で最も多く、次いで「別居している家族や親戚の家」が21.4%となっている。

経年でみるも、前々回、前回とほぼ同じ分布で、各年ほとんど変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

地域別でみると、地域別の大きな違いはみられず、「避難所」がほとんど地域で5割台で中核となっているが、その中では第2地域（59.3%）が最も高く、第4地域（47.9%）だけが5割を下回って低くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” “水・食料の備蓄充実” “ライフライン確保” が6割前後で上位

問10 あなたが大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（〇は5つまで）。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

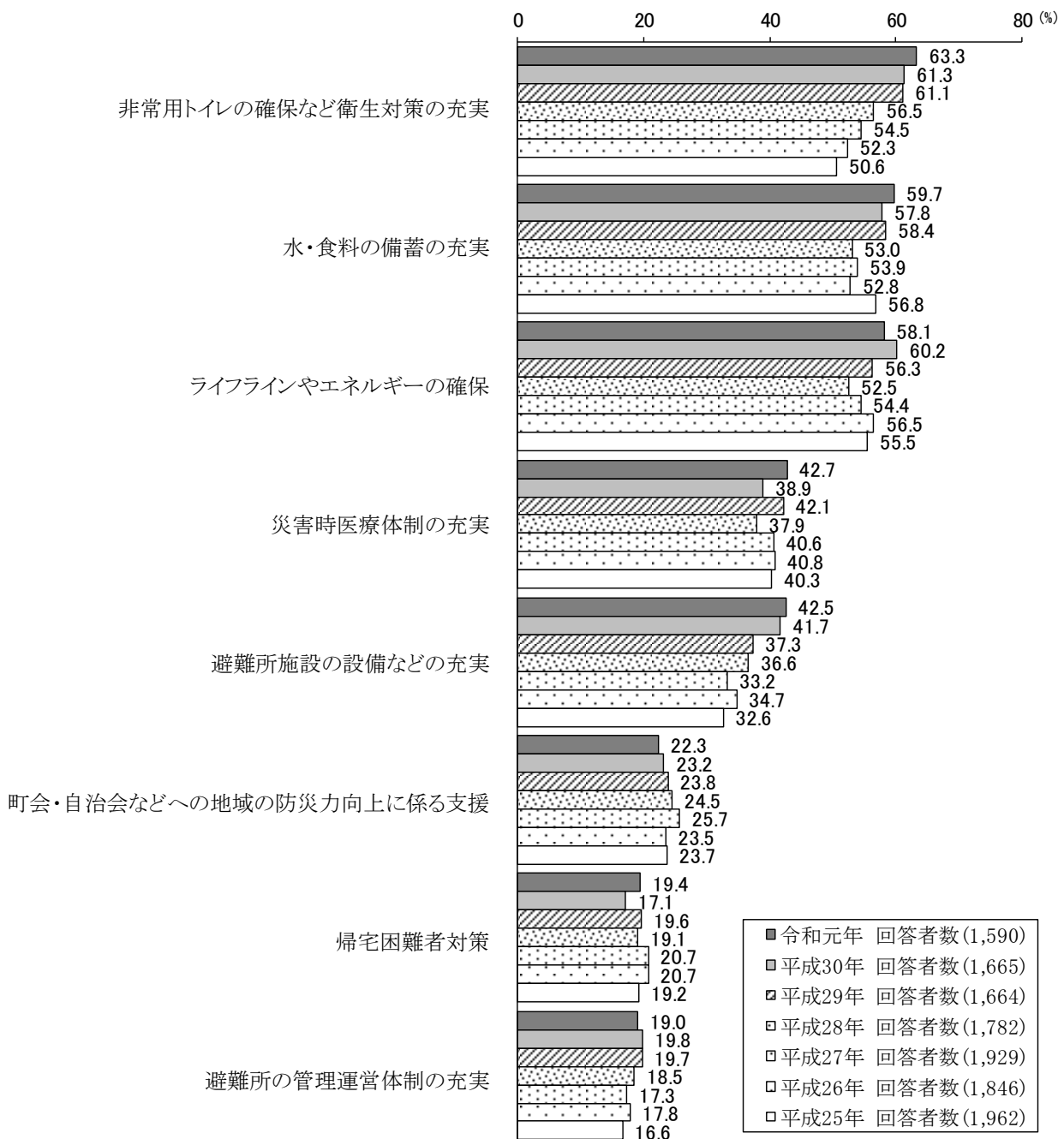


図2-10-1-② 経年比較/大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

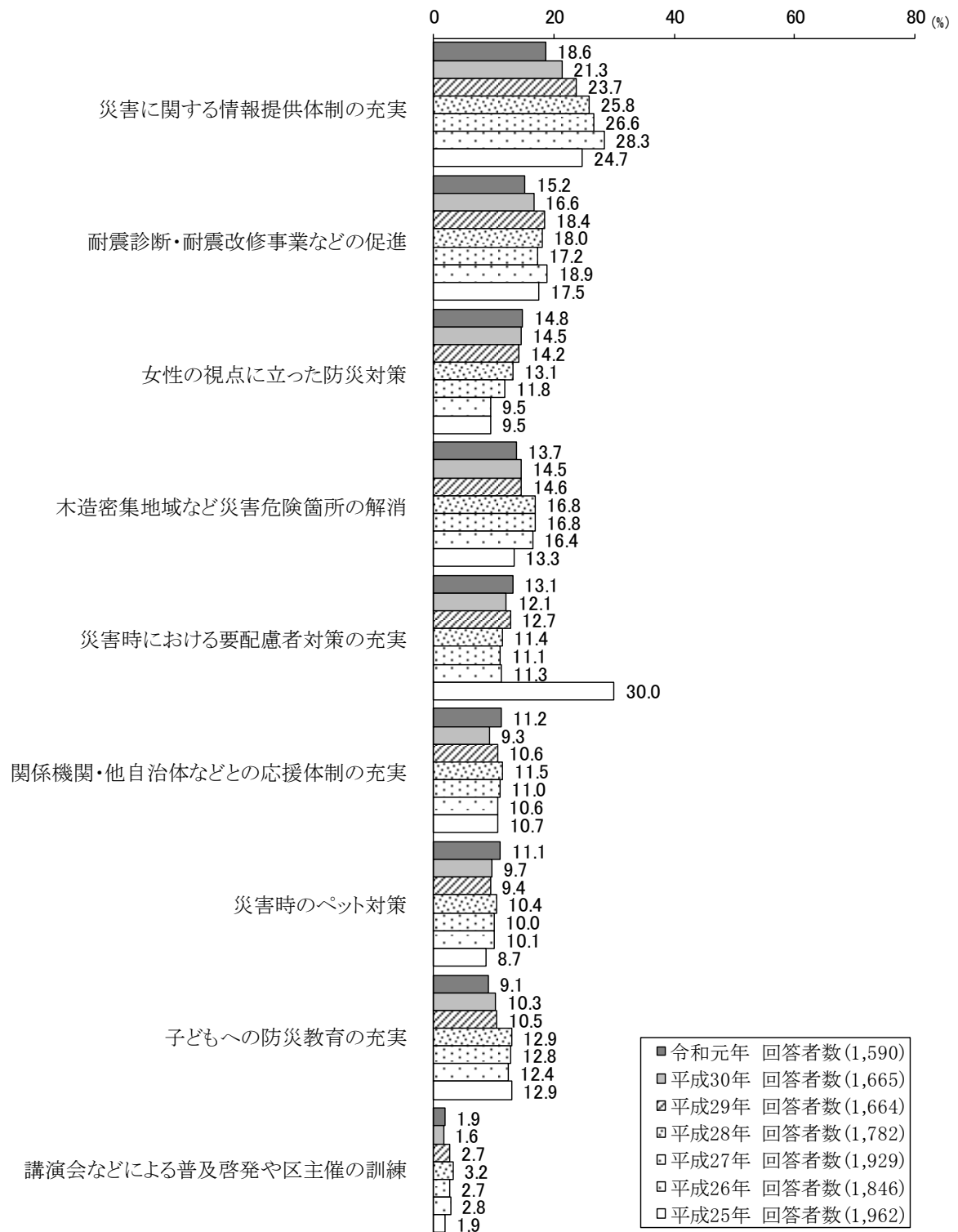
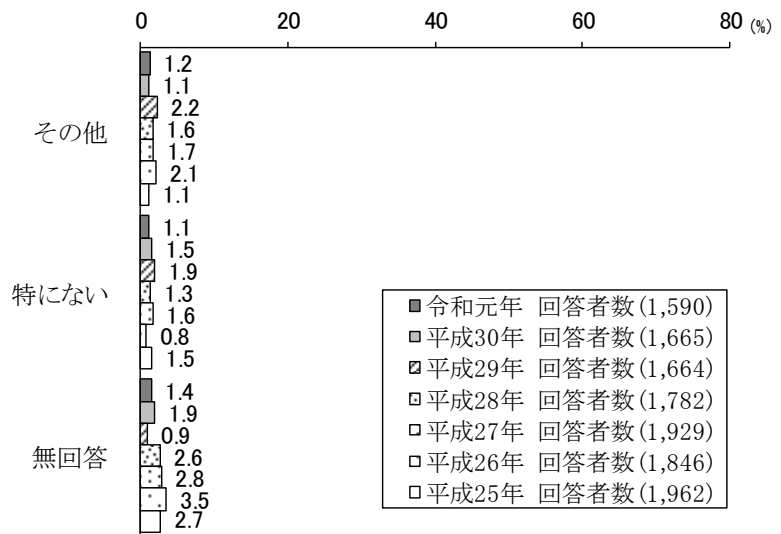


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※ 「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」(63.3%)、「水・食料の備蓄の充実」(59.7%)、「ライフラインやエネルギーの確保」(58.1%)の3項目が6割前後に達して、とくに高くなっている。

経年でみると、上位3項目に回答が集中する傾向に大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

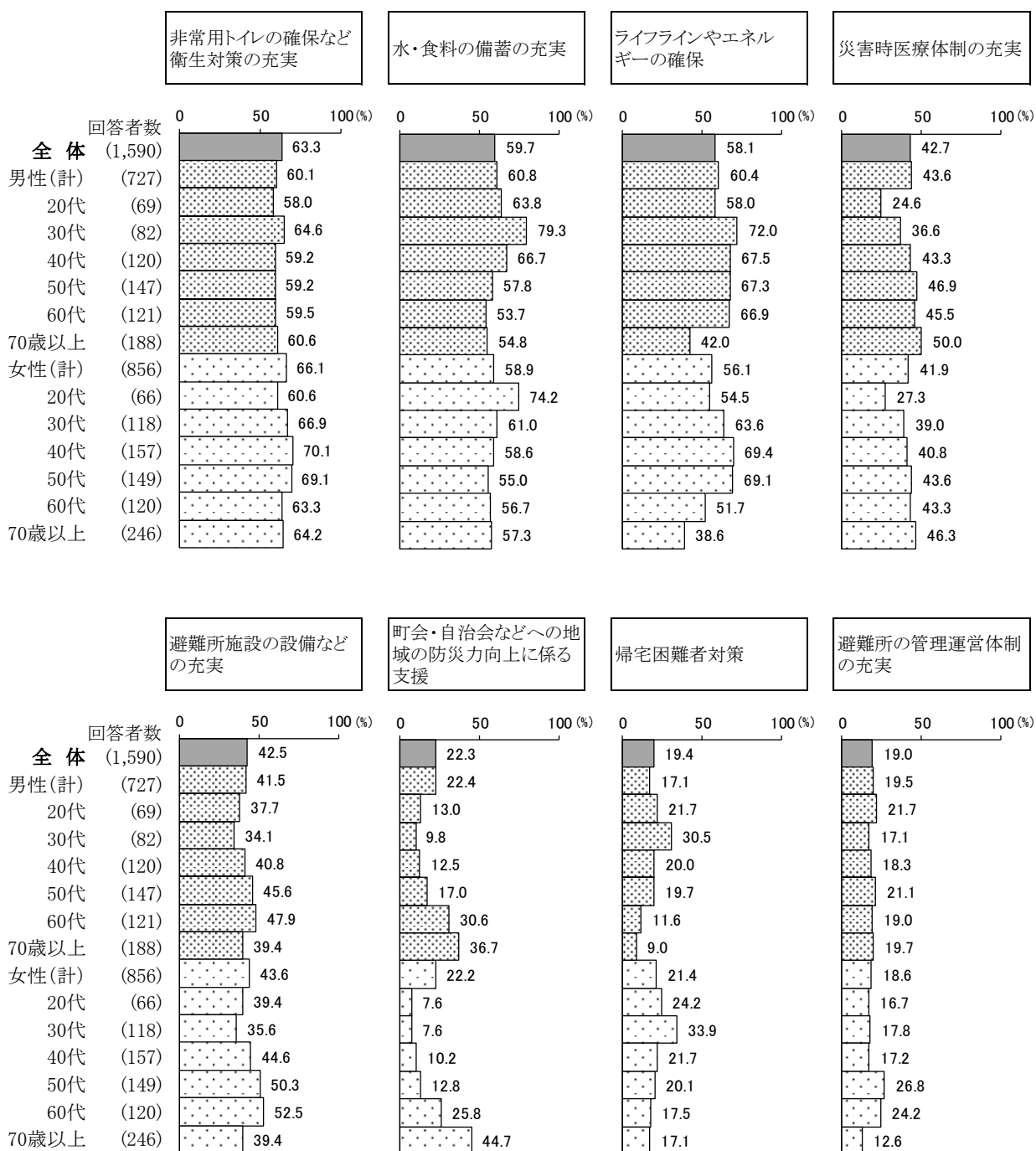
性別で見ると、女性では「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が66.1%と、男性（60.1%）を上回っている。

性・年代別で見ると、男性では、30代で「水・食料の備蓄の充実」（79.3%）と「ライフラインやエネルギーの確保」（72.0%）が他の年代に比べて高い。

女性では、「水・食料の備蓄の充実」が20代で7割台半ばと他の年代より高く、「ライフラインやエネルギーの確保」は40代と50代で7割弱と高くなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

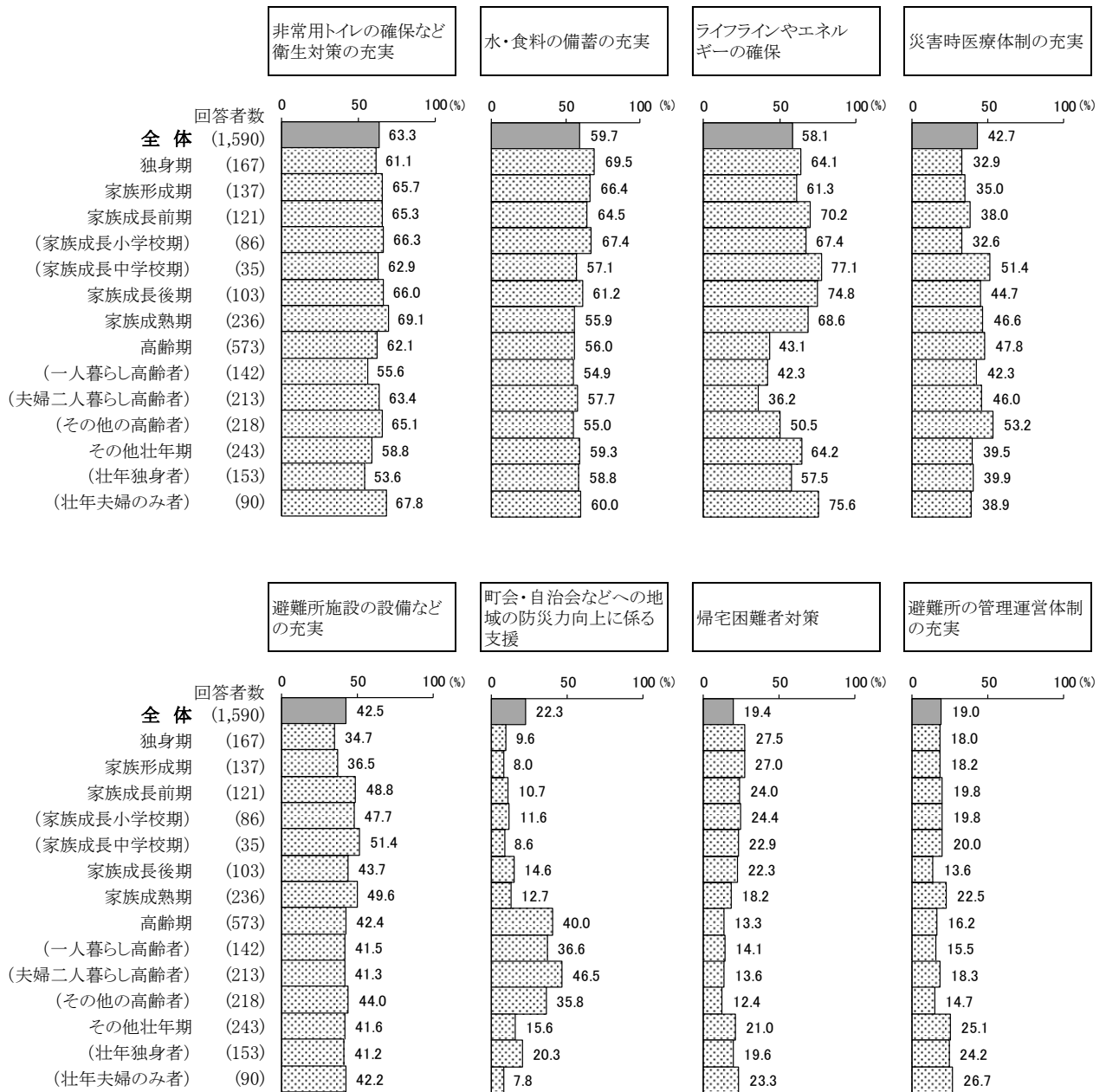




ライフステージ別で見ると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は家族成熟期が7割弱で最も高く、「水・食料の備蓄の充実」は独身期で、「ライフラインやエネルギーの確保」は家族成長後期で、それぞれ高くなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目





### 3 洪水対策

- 
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
  - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
  - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-



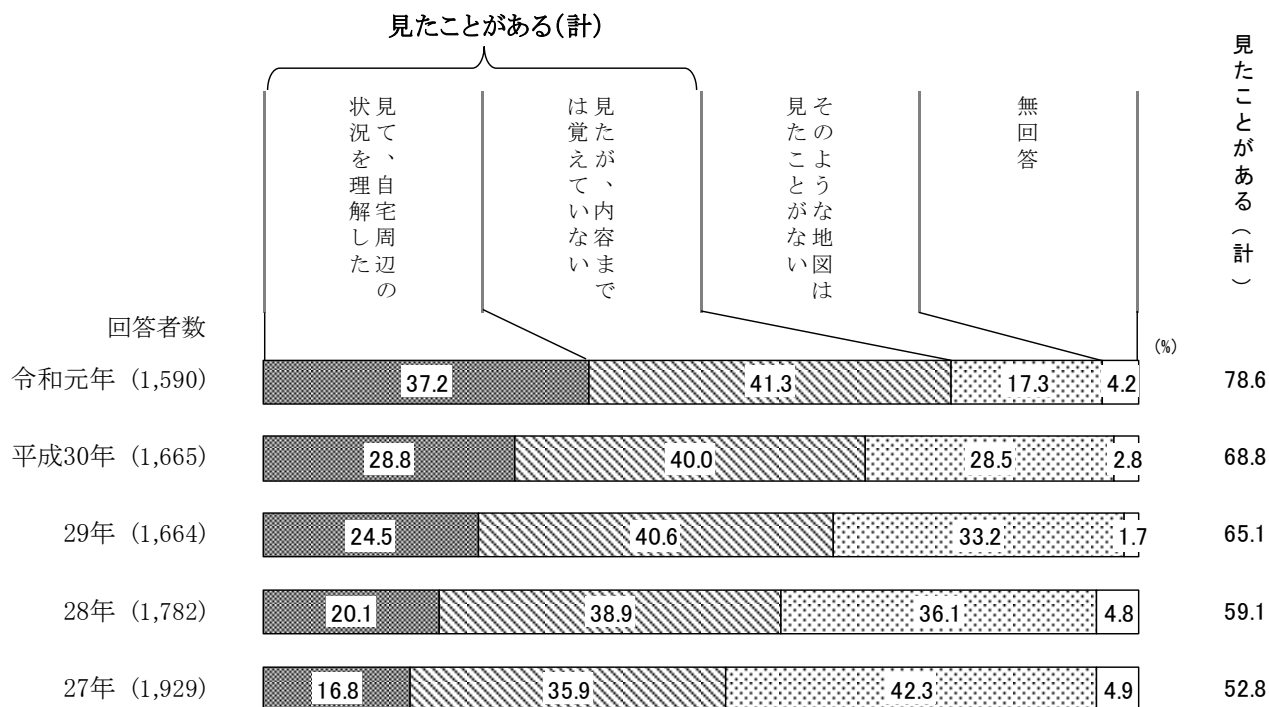
### 3 洪水対策

#### (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は8割弱となり、4年続けて確実に上昇

問11 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

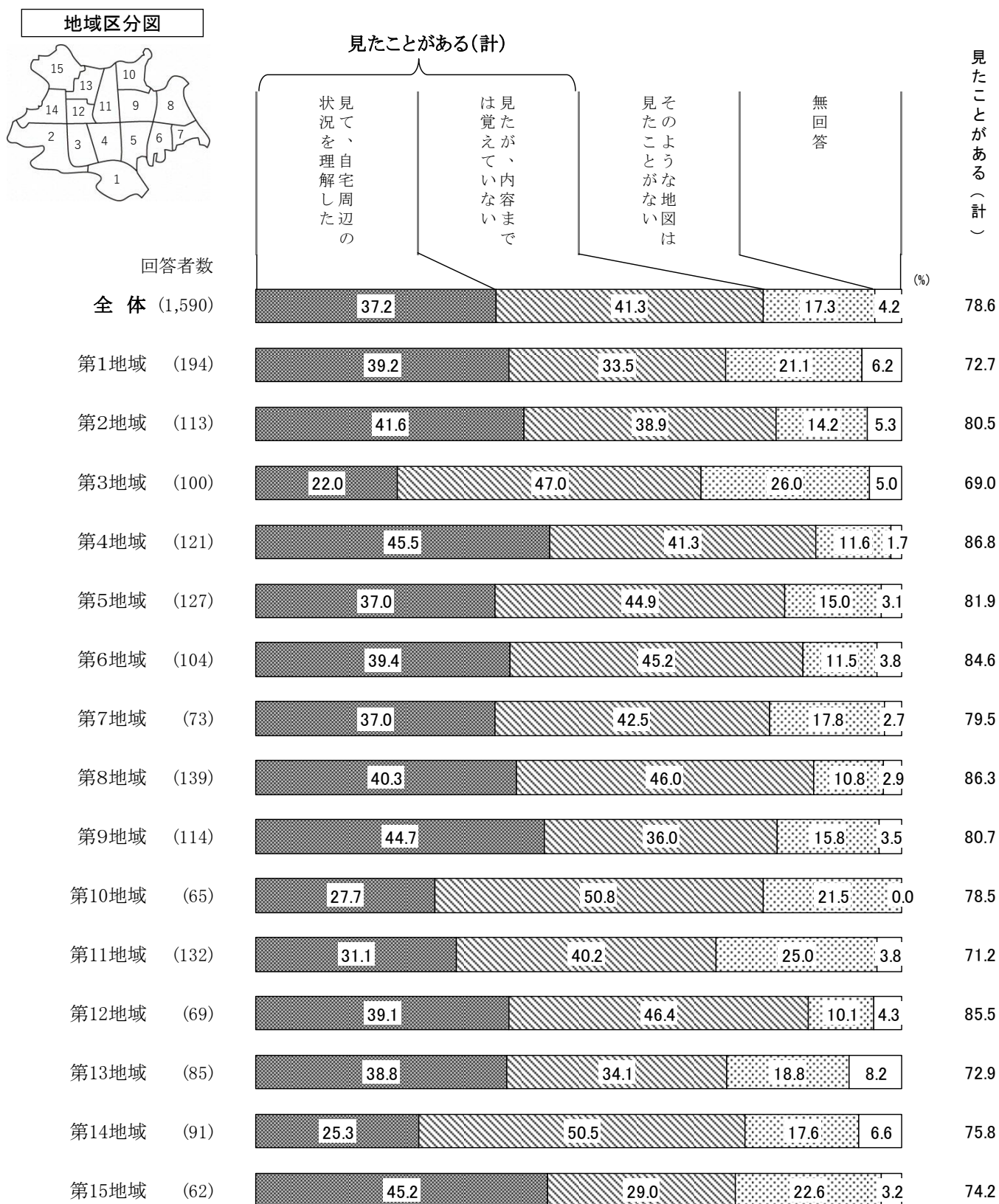
『足立区洪水ハザードマップ』で「見て、自宅周辺の状況を理解した」が37.2%で、これに「見たが、内容までは覚えていない」（41.3%）を合わせた【見たことがある】は78.6%と8割弱を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は17.3%となっている。

経年でみると、【見たことがある】は、平成27年の52.8%から年々増加しており、令和元年の今回は、前回より9.8ポイント増加して、78.6%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

地域別でみると、【見たことがある】は第4地域で86.8%と最も高く、次いで第6地域、第8地域、第12地域が8割台半ば以上で高くなっている。

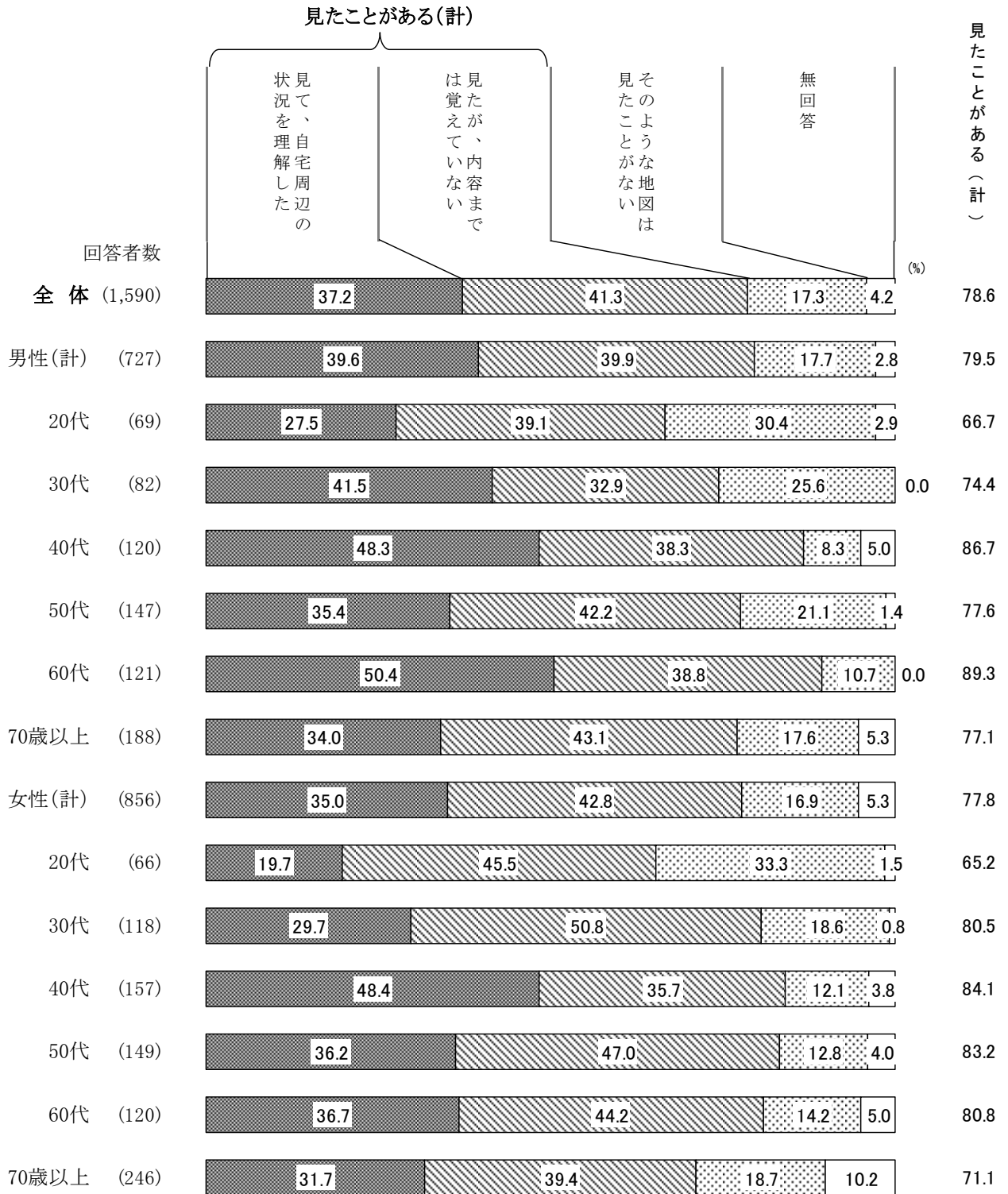
図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、【見たことがある】について大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、【見たことがある】は、男性では、60代（89.3%）と40代（86.7%）で高く、女性では、40代（84.1%）と50代（83.2%）で高くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割弱

問12 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか  
(○はそれぞれ1つずつ)。

図3-2-1-① 経年比較/河川はん濫による浸水被害の際の対処

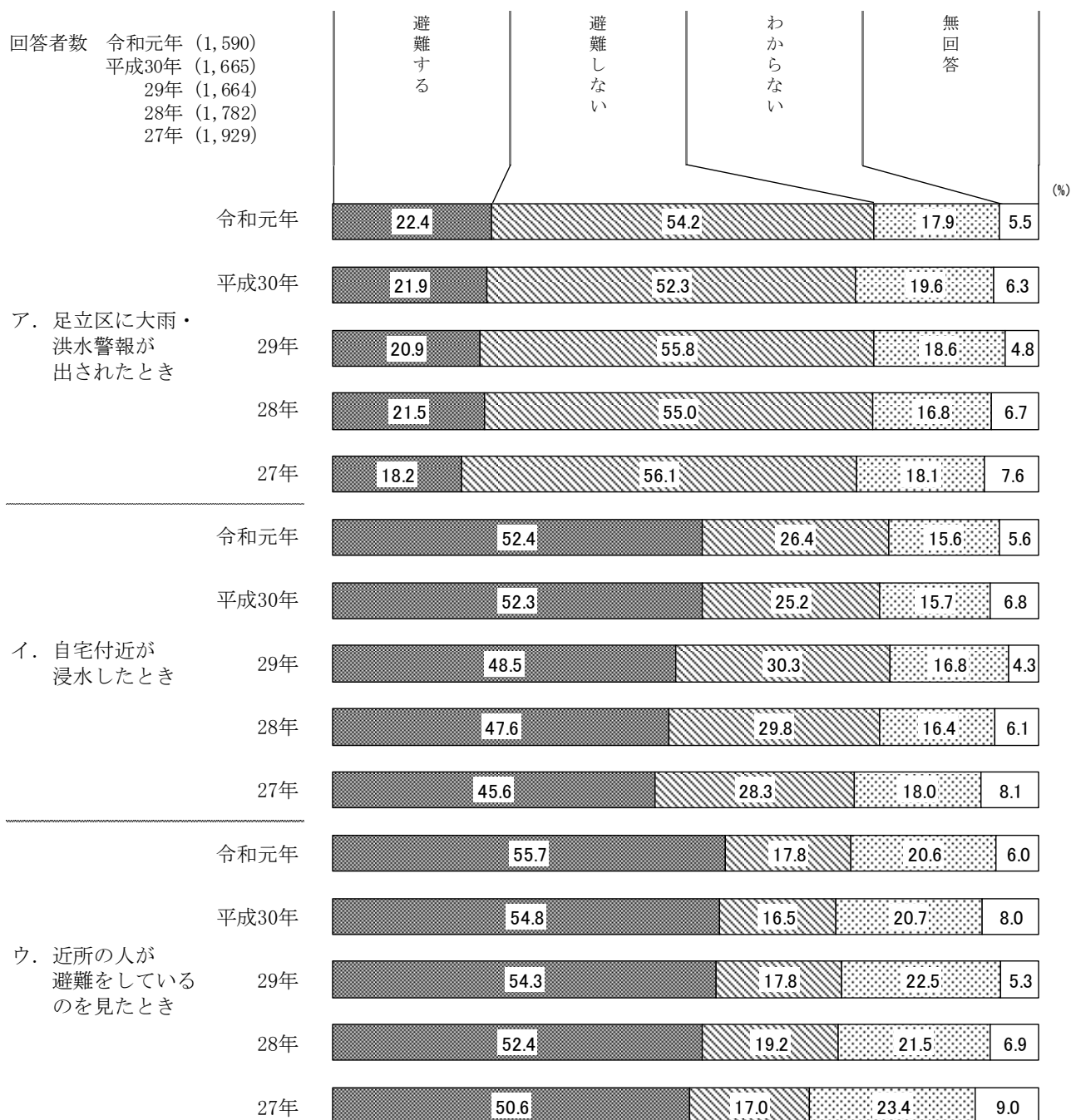
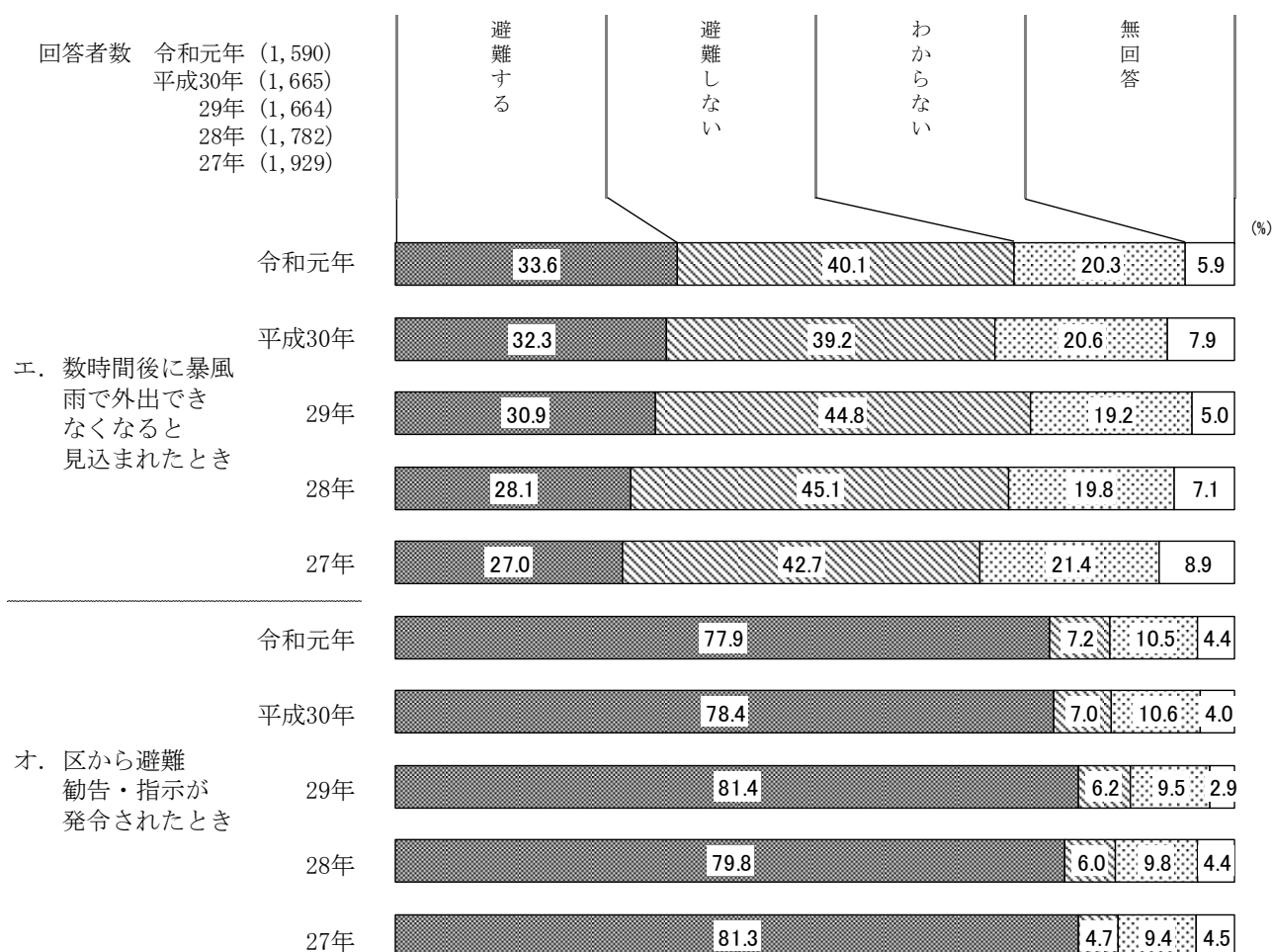




図3-2-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聴いた。

「避難する」が多い順にみると、〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉が77.9%で最も高く、以下〈近所の人々が避難しているのを見たとき〉(55.7%)、〈自宅付近が浸水したとき〉(52.4%)の順で続いている。

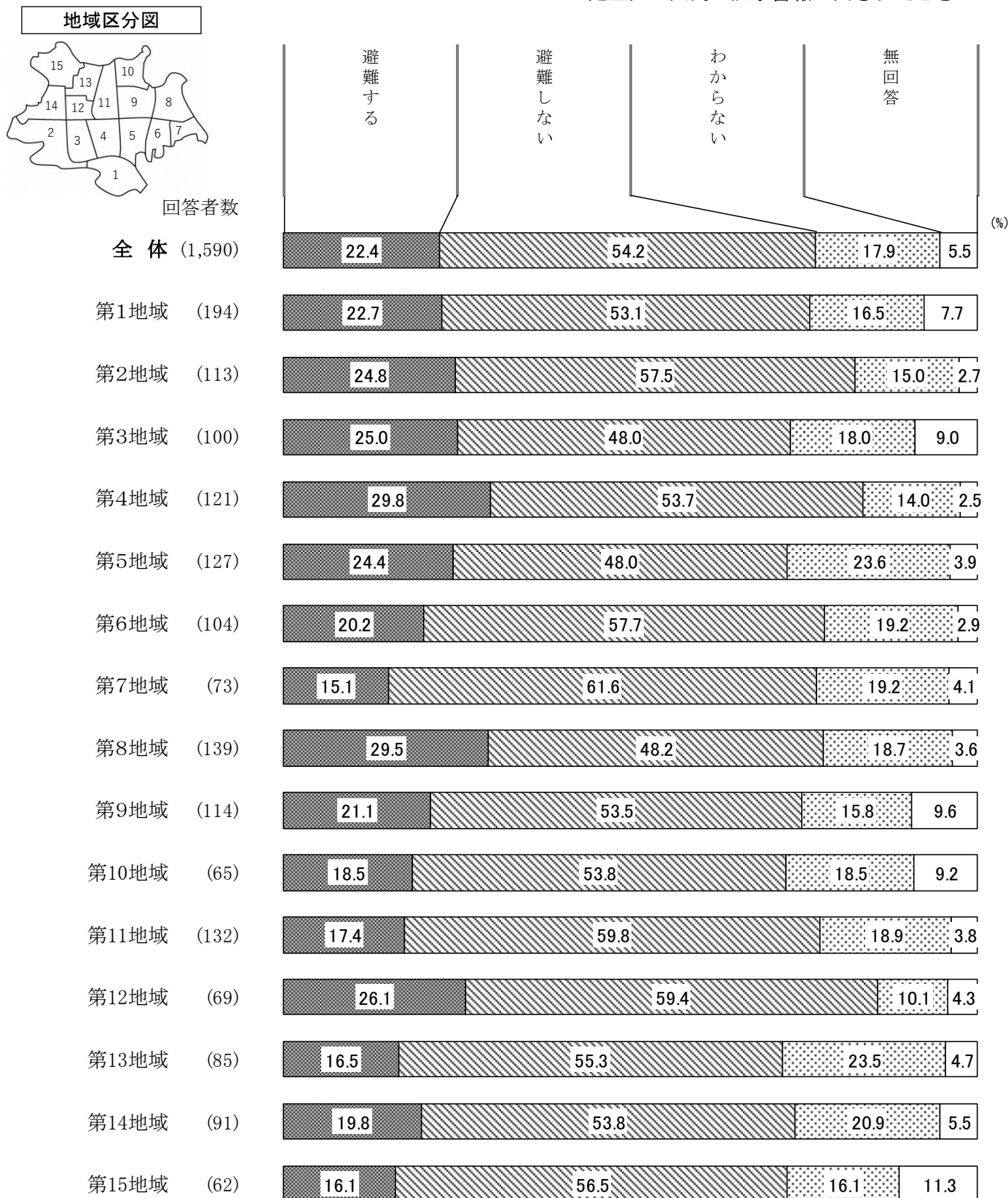
経年でみると、今回の令和元年調査では、「避難する」と回答した人の割合が〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉以外の項目で、平成30年調査に比べてそれぞれ僅かずつ増加しており、この傾向は前回と同様となっている。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について、地域別でみると、「避難しない」が第7地域では6割を超えて最も高くなっており、これに第11地域と第12地域が6割弱で続き、他の地域より高くなっている。

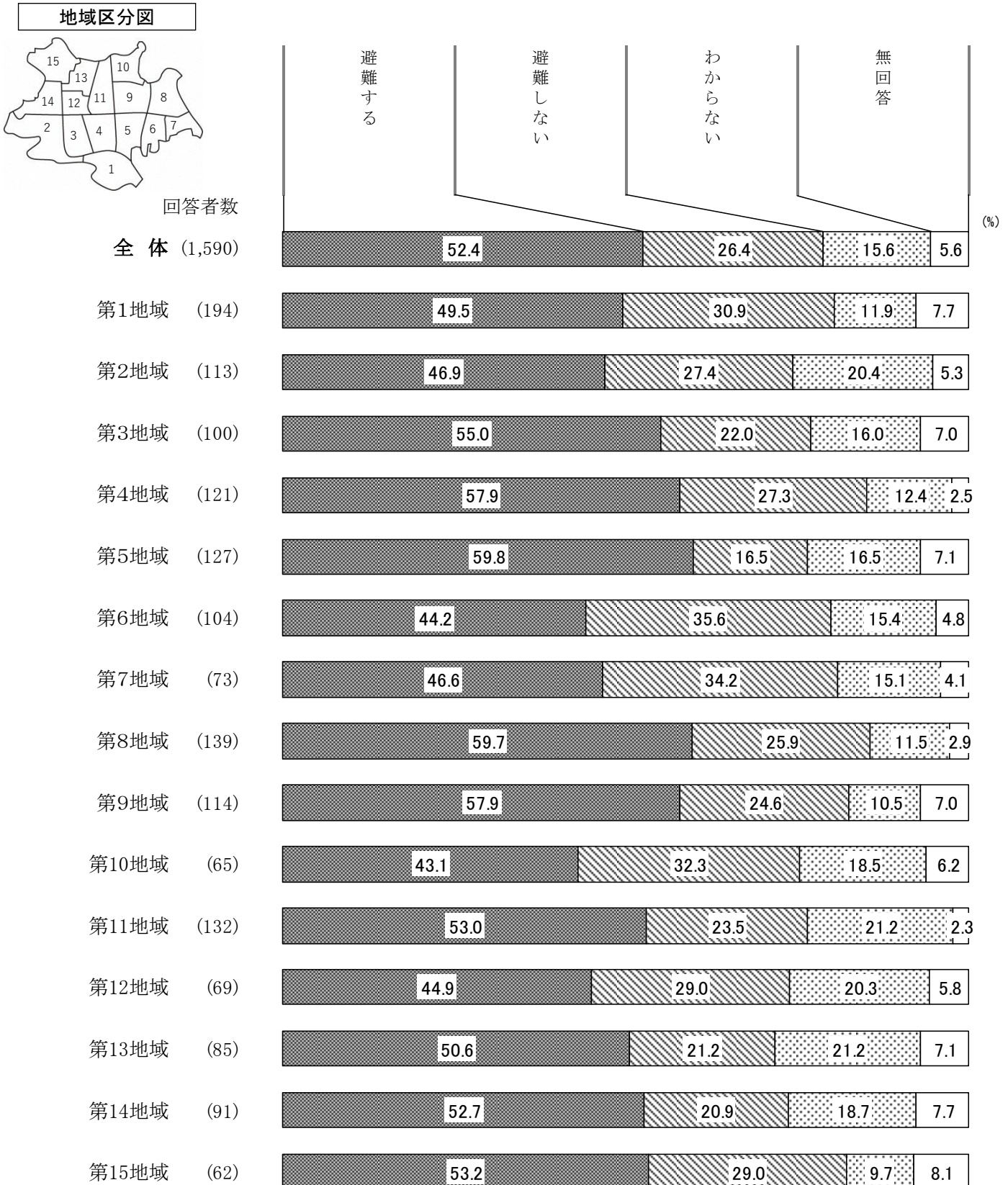
図3-2-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／足立区に大雨・洪水警報が出されたとき



〈自宅付近が浸水したとき〉について、地域別でみると、第4地域、第5地域、第8地域、第9地域では「避難する」が6割弱に達して他の地域より高くなっている。一方、第6地域と第7地域では「避難しない」がそれぞれ3割台半ばと高くなっている。

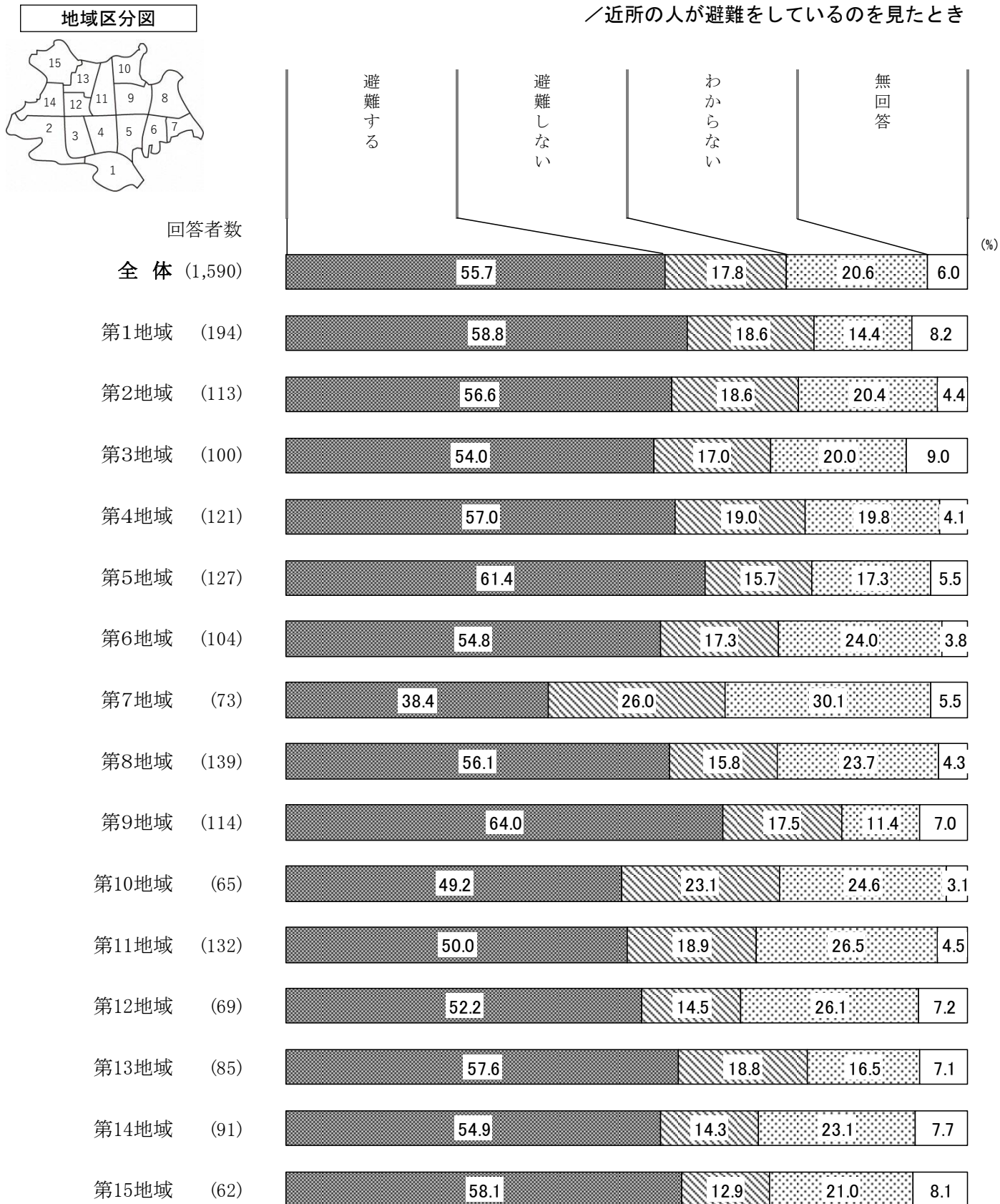
図3-2-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

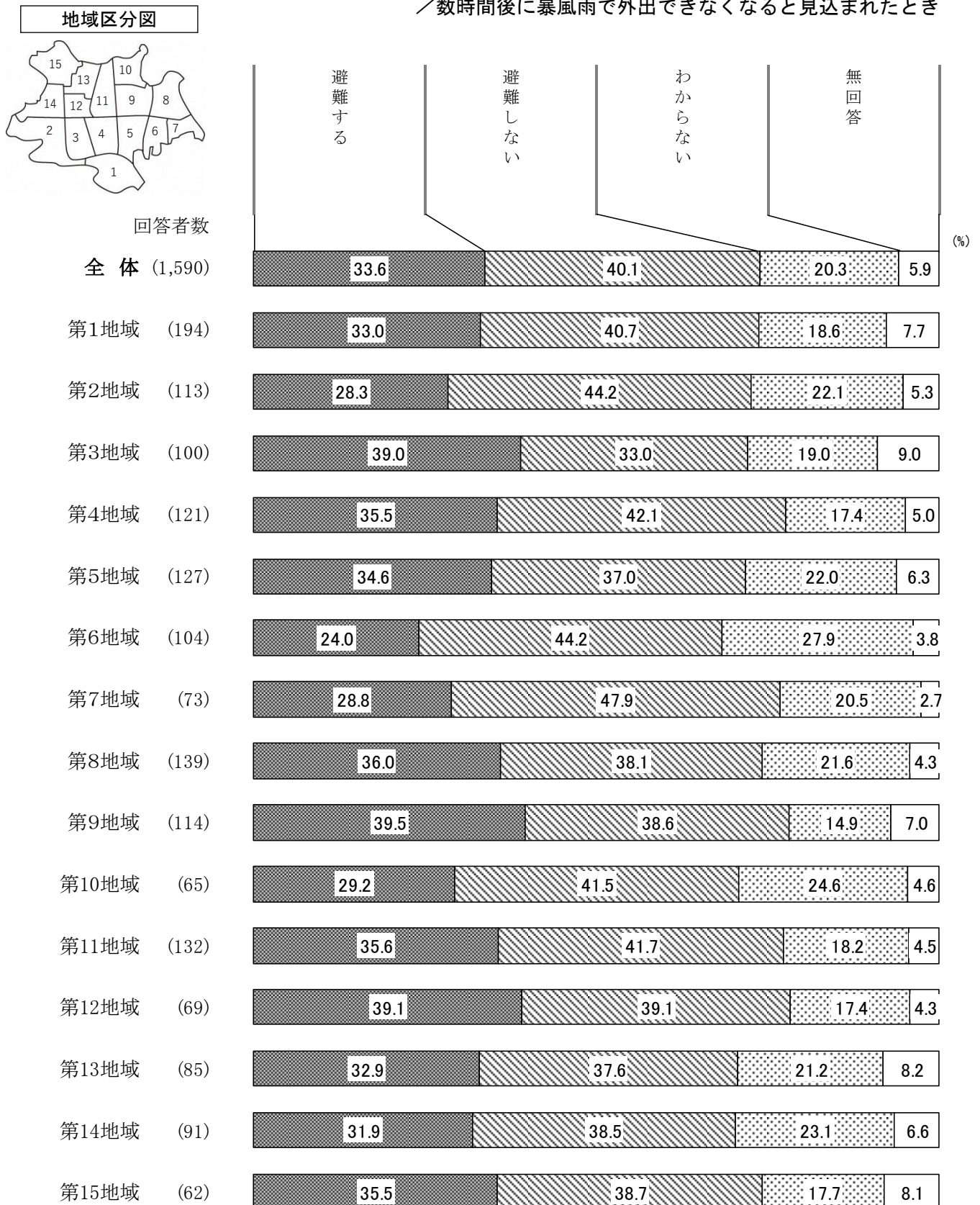
〈近所の人が避難をしているのを見たとき〉について、地域別でみると、第9地域は「避難する」が6割台半ばと他の地域より高くなっている。一方、第7地域では「避難しない」が2割台半ばと高くなっている。

図3-2-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処



〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について、地域別にみると、「避難する」は第3地域、第9地域、第12地域でそれぞれ4割弱と高くなっている。

図3-2-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

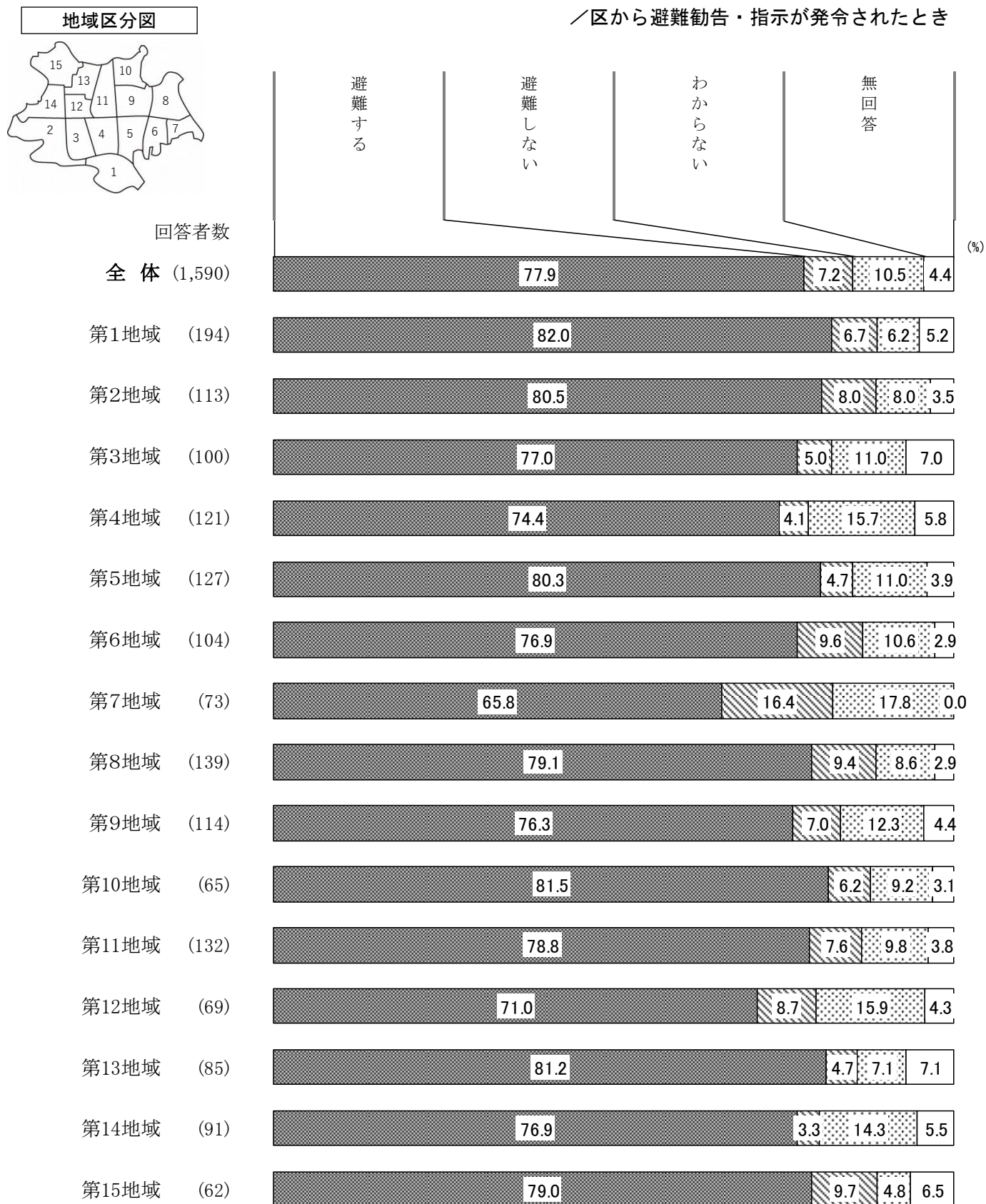


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈区から避難勧告・指示が発令された時〉について、地域別でみると、「避難する」は第1地域、第2地域、第5地域、第10地域、第13地域でそれぞれ8割を超えて高くなっている。一方、第7地域では「避難しない」が1割台半ばと高くなっている。

図3-2-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難勧告・指示が発令されたとき

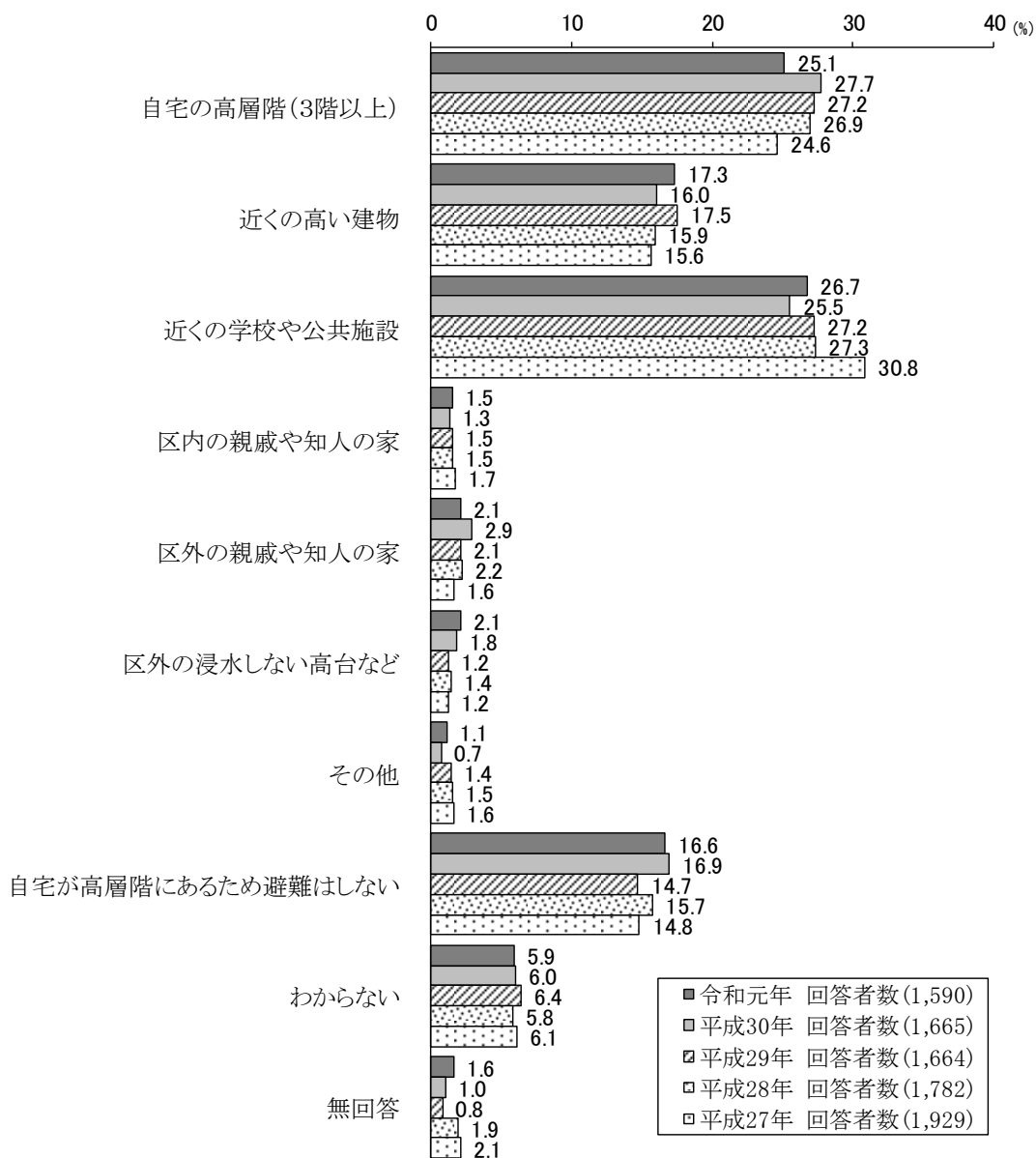


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がそれぞれ2割台半ば以上

問13 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは**最初**にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

図3-3-1 経年比較／荒川がはん濫した際の最初の避難先



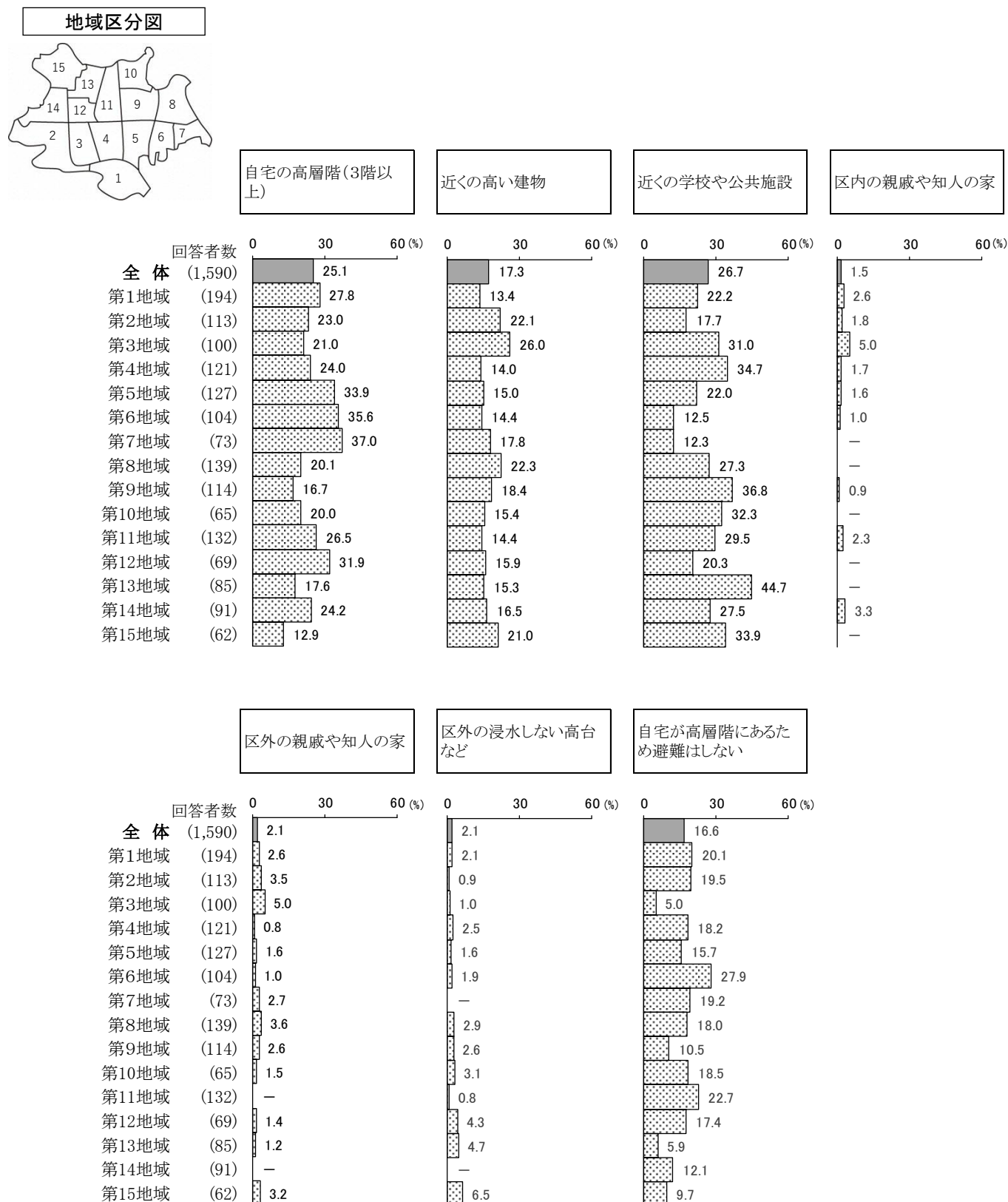
荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が26.7%と最も多く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（25.1%）、「近くの高い建物」（17.3%）の順となっている。一方、「自宅が高層階にあるため避難しない」は16.6%となっている。

経年でみると、今回の調査では「近くの学校や公共施設」と「自宅の高層階（3階以上）」がともに2割台半ば以上、「自宅が高層階にあるため避難はしない」が1割台半ば以上で、前回からの大きな変化はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

地域別でみると、「自宅の高層階（3階以上）」は第5地域、第6地域、第7地域でそれぞれ3割台半ば程度と高く、「近くの学校や公共施設」は第13地域で4割台半ばととくに高くなっている。なお、「自宅が高層階にあるため避難はしない」は第6地域で3割弱と最も高くなっている。

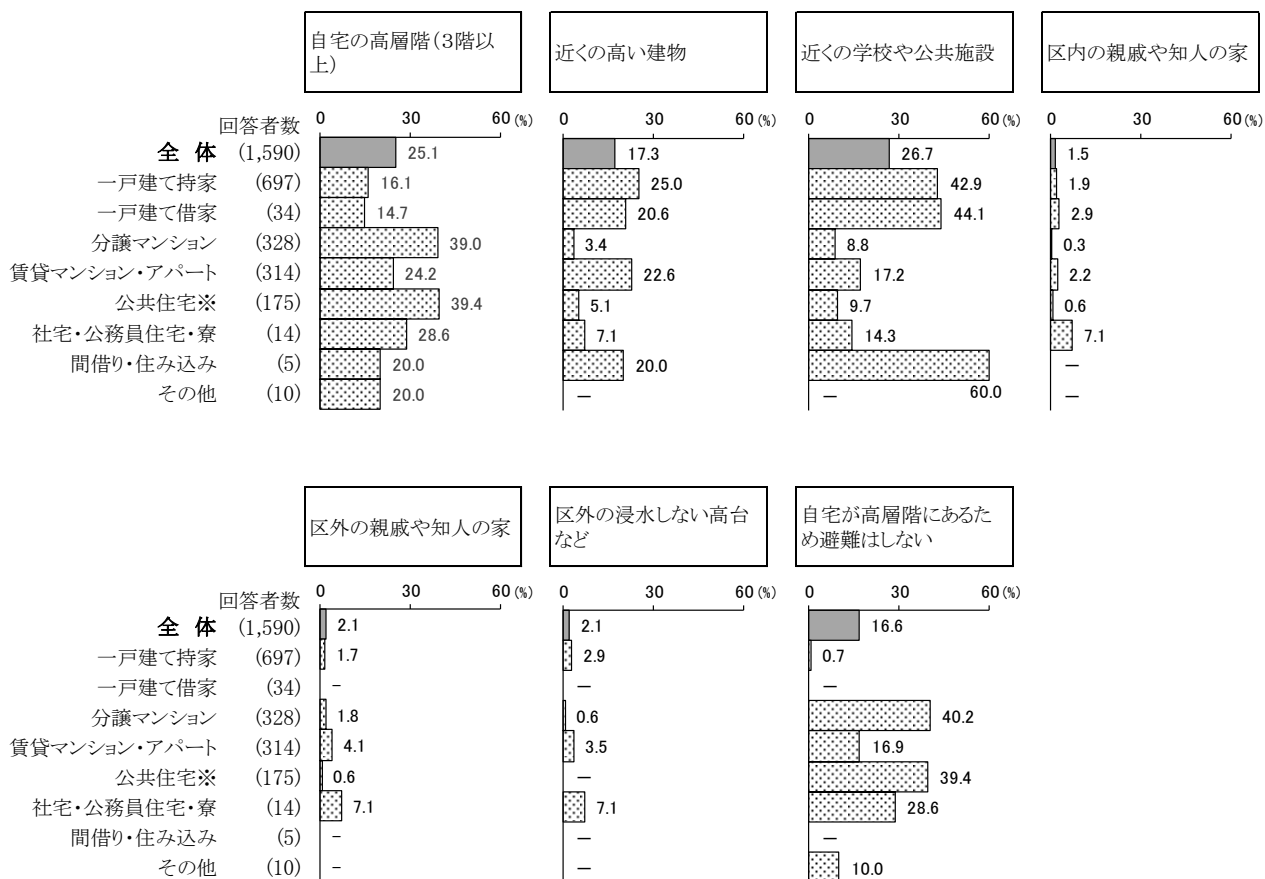
図3-3-2 地域別／荒川がはん濫した際の最初の避難先





住居形態別でみると、一戸建て持家と一戸建て借家では「近くの学校や公共施設」がそれぞれ4割強～半ばで高く、分譲マンションと公共住宅※ではともに「自宅の高層階（3階以上）」と「自宅が高層階にあるため避難はしない」がそれぞれ4割前後で高くなっている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



※ 「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※ 「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値とする。

